



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

HILUX



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	11
検索のしかた	12
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	28
シートベルト	30
SRS エアバッグ	35
排気ガスに対する注意	44
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	45
チャイルドシート	46
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	67
オートアラーム	68

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	77
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	81
燃費画面	91

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	100
テールゲート	105
スマートエントリー&	
スタートシステム	108
3-3. シートの調整	
フロントシート	115
リヤシート	117
ヘッドレスト	119
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	121
インナーミラー	123
ドアミラー	124
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	126

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	132
荷物を積むときの注意	142

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	144
オートマチック トランスミッション	149
方向指示レバー	156
パーキングブレーキ	157

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	158
フォグランプスイッチ	162
ワイパー & ウォッシャー	163

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	166
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

運転を支援する装置	169
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	175
LDA（レーンディパーチャー アラート [ヨーアシスト 機能付き]）	185
RSA（ロードサイン アシスト）	195
レーダークルーズ コントロール	200
先車発進告知機能	213
クリアランスソナー	216
4WD システム	226
リヤデフロック	233
Stop & Start システム	236
運転を補助する装置	246
ダウンヒルアシスト コントロールシステム	252
AUTO LSD	255
排出ガス浄化装置（DPF）	257

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	262
--------------	-----

5 室内装備・機能**5-1. エアコンの使い方**

オートエアコン.....268

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....275

・パーソナルランプ/
インテリアランプ
メインスイッチ.....276

・パーソナルランプ/
インテリアランプ.....276

・インテリアランプ.....276

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....278

・グローブボックス.....279

・コンソールボックス.....279

・カップホルダー.....280

・ボトルホルダー.....281

・小物入れ.....282

荷台装備.....284

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....285

・サンバイザー.....285

・バニティミラー.....285

・時計.....286

・アクセサリースOCKET.....287

・買い物フック.....288

・コートフック.....289

・アームレスト.....289

6 お手入れのしかた**6-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ.....292

内装の手入れ.....296

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....299

AdBlue® (尿素水) の
補充.....301

ウォッシュャー液の補充.....305

タイヤについて.....306

タイヤ空気圧について.....310

エアコンフィルターの
交換.....312

キーの電池交換.....315

ヒューズの点検・交換.....318

電球 (バルブ) の交換.....322

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	328
非常点滅灯 (ハザードランプ)	329
発炎筒	330
車両を緊急停止するには	332
水没・冠水したときは	333
車中泊が必要なときは	334

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	335
警告灯がついたときは	340
警告メッセージが 表示されたときは	344
パンクしたときは	350
エンジンが かからないときは	364
電子キーが正常に 働かないときは	366
バッテリーが あがったときは	368
オーバーヒートしたときは	373
スタックしたときは	376

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	380
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	386
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	392
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	394
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	398
アルファベット順さくいん	400
五十音順さくいん	402

次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・ナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・パノラミックビューモニター
- ・ハンズフリー

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は運転を支援する装置のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P. 10 も参照してください。

- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

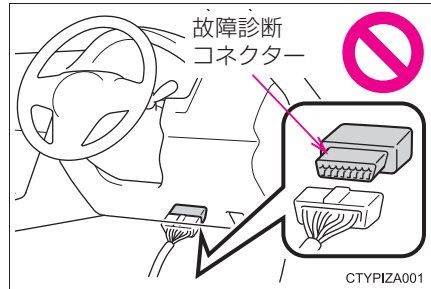
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・車両の各システムの作動状況
- ・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- 運転を支援する装置
- ABS (アンチロックブレーキシステム)
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



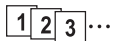
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

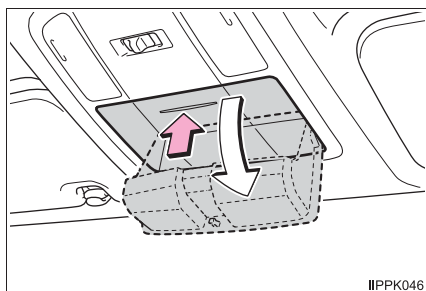
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

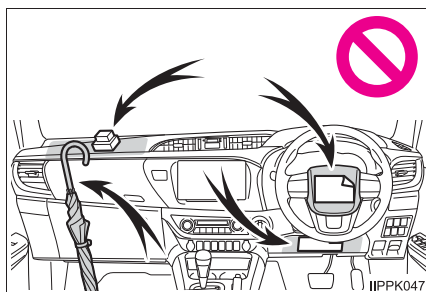
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



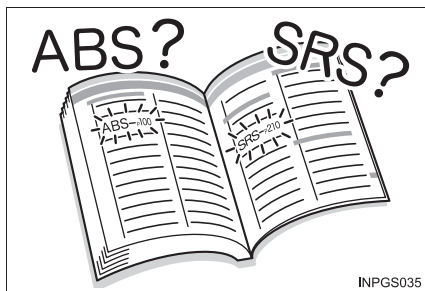
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

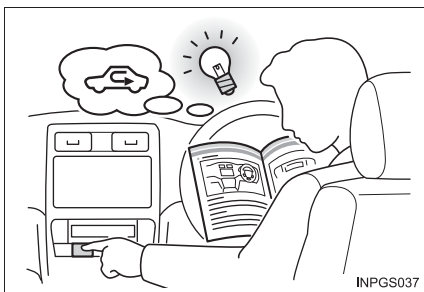
- ・ 五十音順さくいん402
- ・ アルファベット順
さくいん400



INPGS035

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次14



INPGS037

■ 症状や音から探す

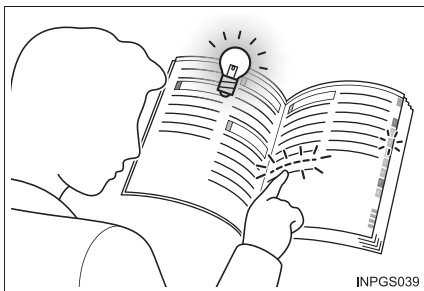
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)394
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)398



INPGS038

■ タイトルから探す

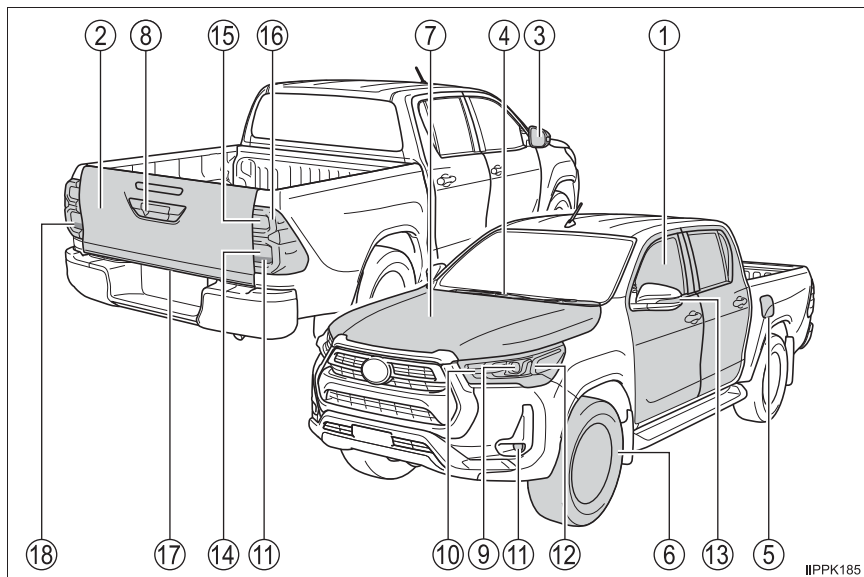
- ・ 目次2



INPGS039

イラスト目次

■ 外観



外装の意匠は、グレードなどで異なります。

- | | | |
|----------------------|-------|---------------|
| ① ドア | | P. 100 |
| 施錠／解錠 | | P. 100 |
| ドアガラスの開閉 | | P. 126 |
| メカニカルキーでの施錠／解錠 | | P. 366 |
| 警告メッセージ | | P. 344 |
| ② テールゲート | | P. 105 |
| ③ ドアミラー | | P. 124 |
| 鏡面の角度調整 | | P. 124 |
| ミラーの格納 | | P. 125 |
| 曇りを取る (ミラーヒーター) | | P. 270 |
| ④ ワイパー | | P. 163 |
| 冬季の注意 | | P. 262 |
| 凍結防止 (フロントワイパーデアイサー) | | P. 270 |

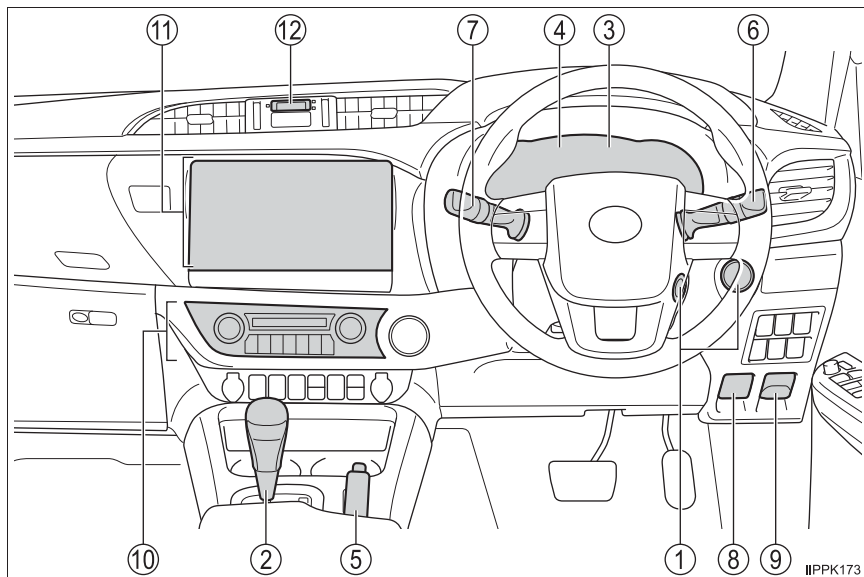
- ⑤ 給油口.....P. 166
 給油方法.....P. 166
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 380
- ⑥ タイヤ.....P. 306
 サイズ・空気圧.....P. 385
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 262
 点検・ローテーション.....P. 306
 パンク時の対処.....P. 350
- ⑦ ボンネット.....P. 299
 開け方.....P. 299
 エンジンオイル.....P. 381
 オーバーヒート時の対処.....P. 373
- ⑧ カメラ*

走行に関わる外装のランプバルブ
 (交換要領：P. 322, ワット数：P. 385)

- ⑨ ヘッドランプ.....P. 158
- ⑩ 車幅灯.....P. 158
- ⑪ フロントフォグランプ・リヤフォグランプ.....P. 162
- ⑫ フロント方向指示灯.....P. 156
- ⑬ サイド方向指示灯.....P. 156
- ⑭ リヤ方向指示灯.....P. 156
- ⑮ 制動灯
 ダウンヒルアシストコントロールシステム.....P. 252
- ⑯ 尾灯.....P. 158
- ⑰ 番号灯.....P. 158
- ⑱ 後退灯
 シフトポジションを R にする.....P. 149

*：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

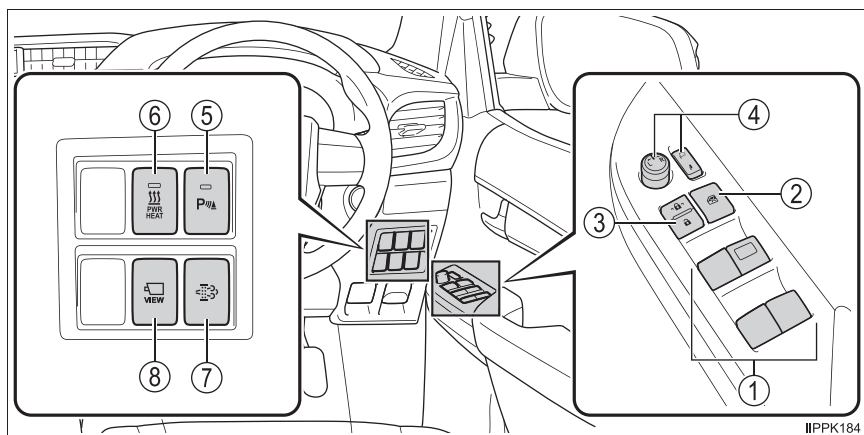
■ インストルメントパネル



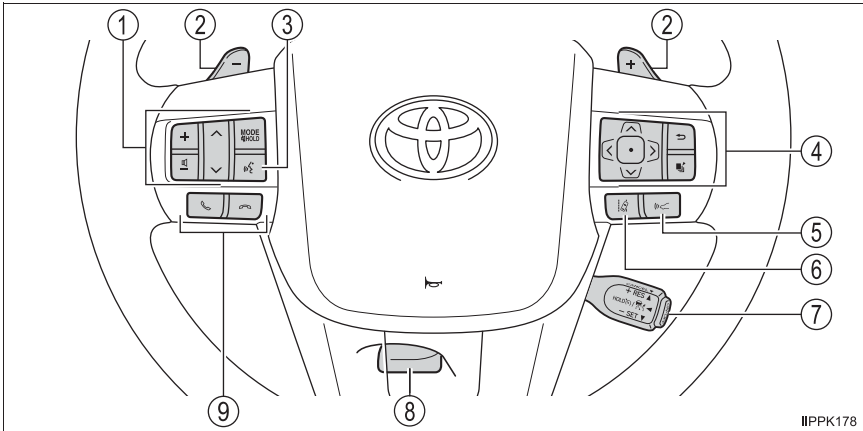
- ① エンジンスイッチP. 144
 エンジンの始動・
 モードの切りかえP. 144
 エンジンの緊急停止P. 332
 エンジンが始動できないときの対処.....P. 364
 警告メッセージ.....P. 344
- ② シフトレバーP. 149
 シフトポジションの切りかえ.....P. 149
 けん引時の注意.....P. 335
 シフトレバーが動かないときの対処.....P. 154

- ③ **メーター**P. 77
 - 見方 P. 77
 - 明るさの調整 P. 77
 - 警告灯／表示灯 P. 72
 - 警告灯点灯時の対処 P. 340
- ④ **マルチインフォメーションディスプレイ** P. 81
 - 警告メッセージ表示時の対処 P. 344
- ⑤ **パーキングブレーキ**P. 157
 - かける・解除する P. 157
 - 冬季の注意 P. 263
 - 警告灯／警告ブザー P. 342
- ⑥ **方向指示レバー**P. 156
 - ランプスイッチP. 158
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 P. 158
 - フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P. 162
- ⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ**P. 163
 - 使い方 P. 163
 - ウォッシャー液の補充 P. 305
- ⑧ **ボンネット解除レバー**P. 299
- ⑨ **給油扉オープナー**P. 166
- ⑩ **オートエアコン**P. 268
- ⑪ **オーディオ** ※
 - 音楽を聴く ※
 - 電話をかける・受ける（ハンズフリー） ※
- ⑫ **時計**P. 286

■ スイッチ類



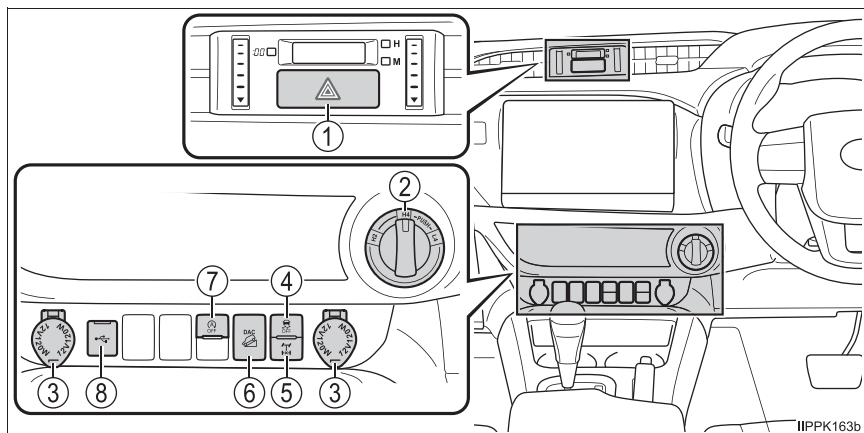
- ① パワーウィンドウスイッチP. 126
- ② ウィンドウロックスイッチP. 126
- ③ ドアロックスイッチP. 101
- ④ ドアミラースイッチP. 124
- ⑤ クリアランスソナースイッチP. 216
- ⑥ パワーヒータースイッチP. 271
- ⑦ 排出ガス浄化スイッチP. 257
- ⑧ カメラスイッチ ※



IIPPK178

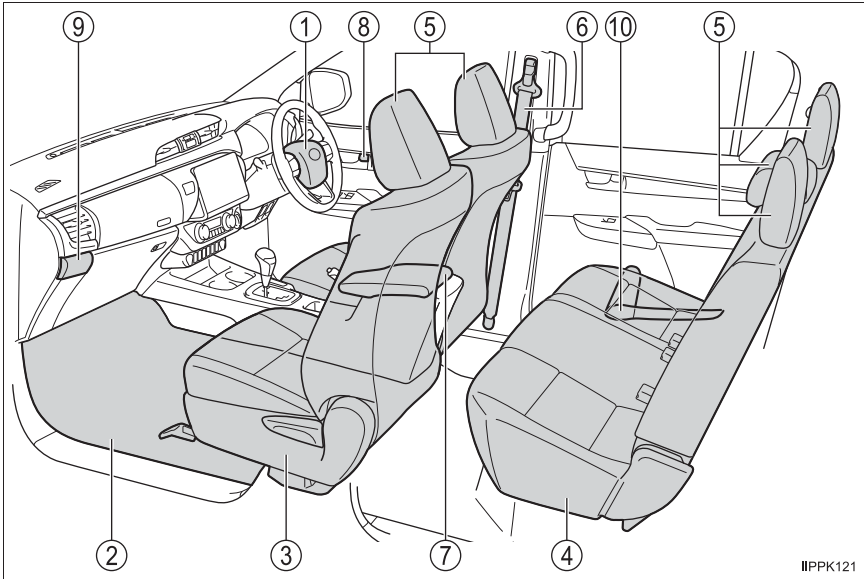
- ① オーディオ操作スイッチ ※
- ② パドルシフトスイッチ★P. 151, 152
- ③ トークスイッチ ※
- ④ メーター操作スイッチP. 82
- ⑤ 車間距離切りかえスイッチP. 206
- ⑥ LDA (レーンデパーチャーアラート) スイッチP. 185
- ⑦ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロールP. 200
- ⑧ ハンドル位置調整レバーP. 121
- ⑨ 電話スイッチ ※P. 82

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
 ※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



- ① 非常点滅灯スイッチP. 329
- ② トランスファースイッチP. 226
- ③ アクセサリーソケットP. 287
- ④ VSC OFF スイッチP. 247
- ⑤ リヤデフロックスイッチP. 233
- ⑥ DAC (ダウンヒルアシストコントロールシステム)
スイッチP. 252
- ⑦ Stop & Start キャンセルスイッチP. 236
- ⑧ USB 端子※

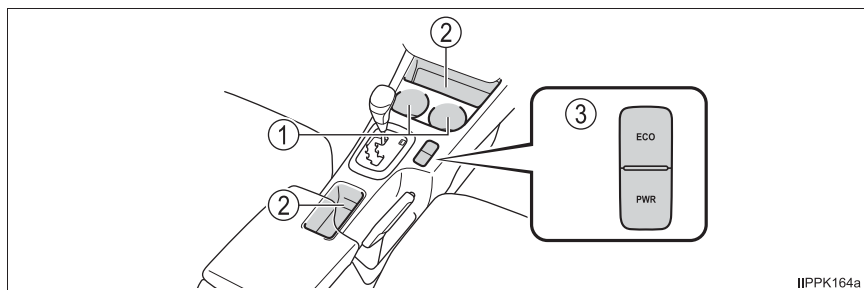
■ 室内



IIPPK121

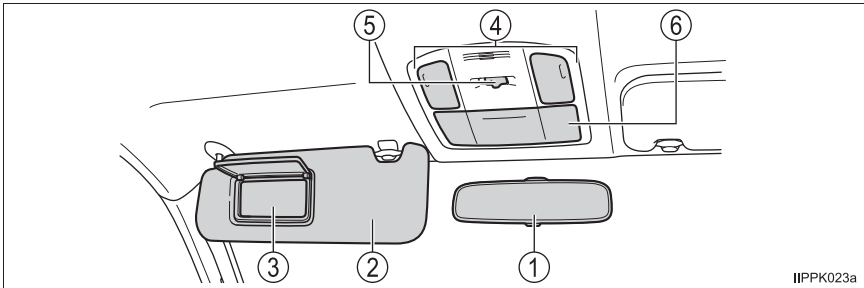
- | | | | |
|---|-----------|-------|--------|
| ① | SRSエアバッグ | | P. 35 |
| ② | フロアマット | | P. 26 |
| ③ | フロントシート | | P. 115 |
| ④ | リヤシート | | P. 117 |
| ⑤ | ヘッドレスト | | P. 119 |
| ⑥ | シートベルト | | P. 30 |
| ⑦ | コンソールボックス | | P. 279 |
| ⑧ | ロックレバー | | P. 101 |
| ⑨ | カップホルダー | | P. 280 |
| | 小物入れ | | P. 282 |
| ⑩ | ボトルホルダー | | P. 281 |

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



IIPPK164a

- ① カップホルダーP. 280
- ② 小物入れP. 282
- ③ ドライブモードセレクトスイッチP. 150



IIPPK023a

- ① インナーミラーP. 123
- ② サンバイザー ※¹P. 285
- ③ バニティミラーP. 285
- ④ パーソナルランプP. 276
 インテリアランプ ※²P. 276
- ⑤ パーソナルランプ／インテリアランプメインスイッチP. 276
- ⑥ 小物入れP. 282

※¹ : やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 49)



※² : 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	26
安全なドライブのために.....	28
シートベルト.....	30
SRS エアバッグ.....	35
排気ガスに対する注意.....	44
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは.....	45
チャイルドシート.....	46
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム.....	67
オートアラーム.....	68

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

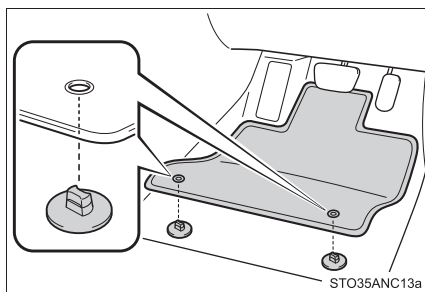
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

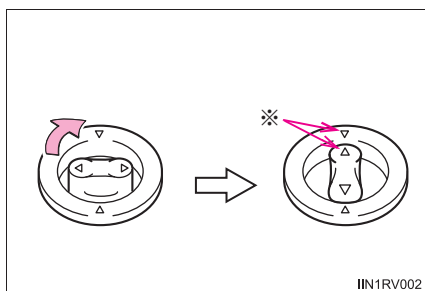
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

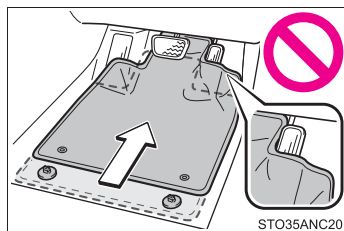
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

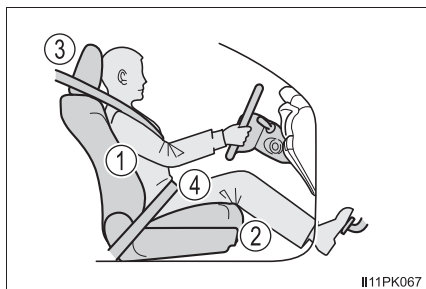


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 115）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 115）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 119）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 30）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 30）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 46）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 123, 124）

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

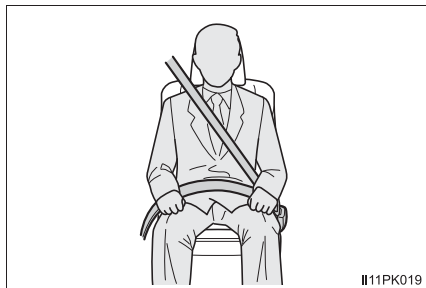
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

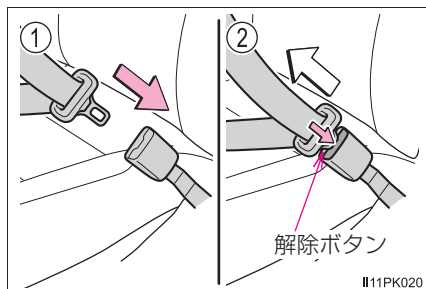
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



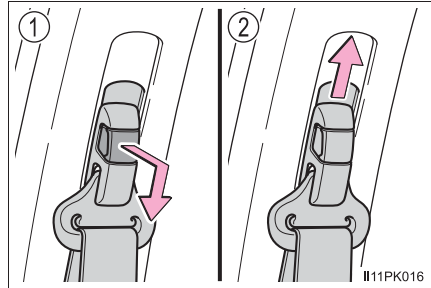
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに押し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席）

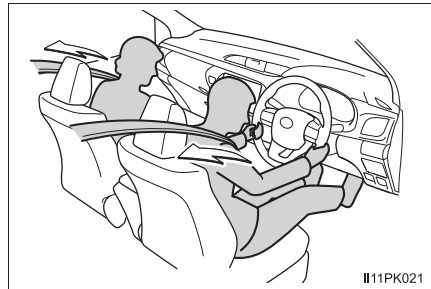
- ① 解除ノブを引きながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



 知識**■ シートベルトロックの解除方法**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 46)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 30)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

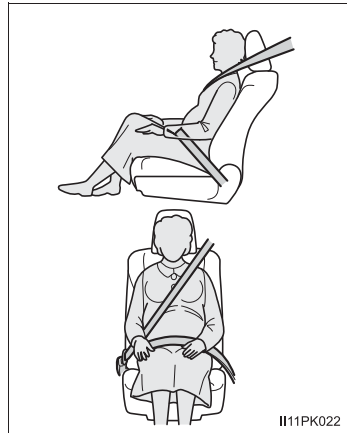
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 30)

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

→ P. 61

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

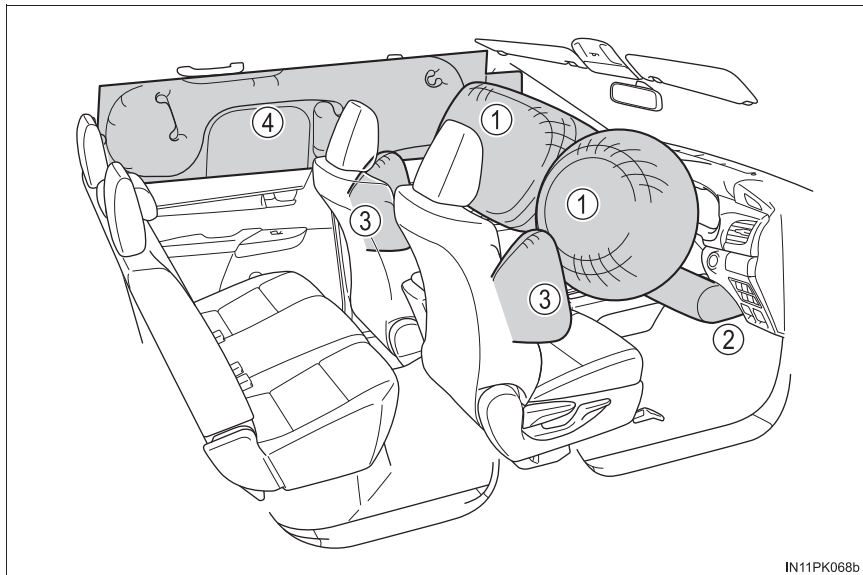
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

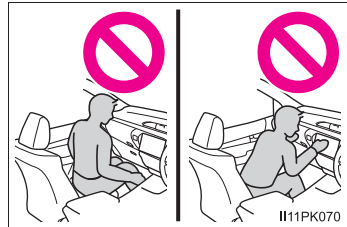
警告

■ SRS エアバッグについて

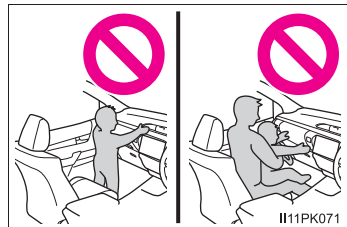
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 46)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

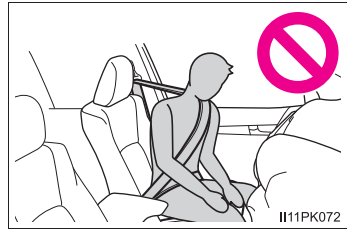


- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

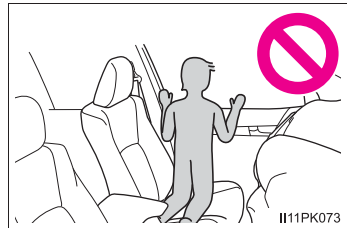



警告
■ SRS エアバッグについて

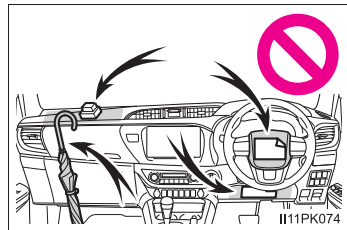
- ドアやフロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



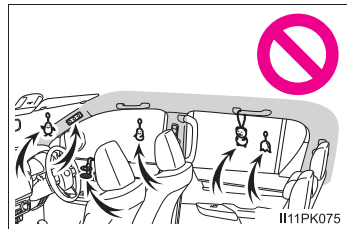
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



**警告****■ SRS エアバッグについて**

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 **警告****■ 改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

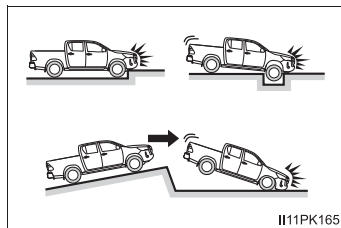
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動します。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

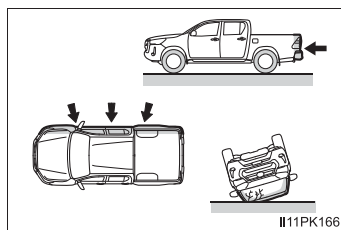
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

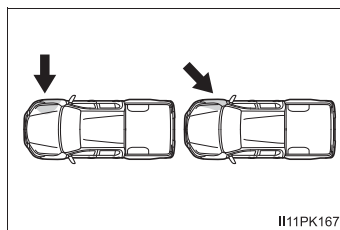
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ)

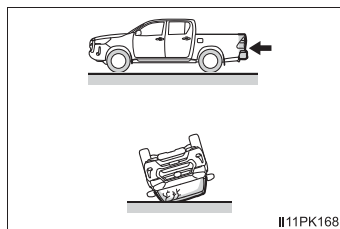
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

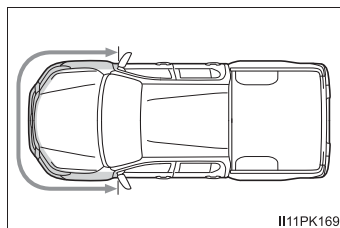
- 後方からの衝突
- 横転



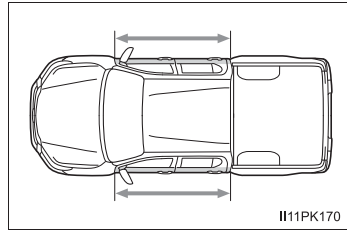
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

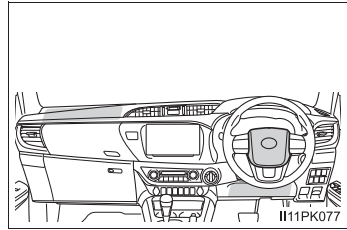
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



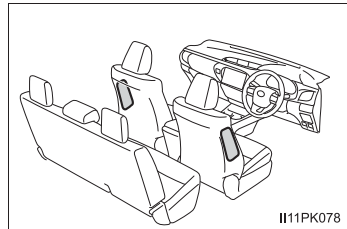
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



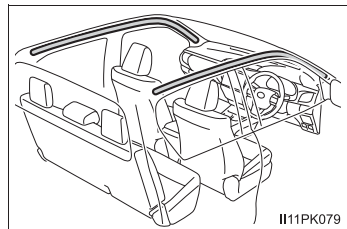
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

(P. 258 の注意も併せて参照してください)

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 46)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 102)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 126)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・テールゲートやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 46)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法を記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 46
チャイルドシートを使用するときは	P. 48
シート位置別チャイルドシートの適合性について	P. 51
チャイルドシートの取り付け方法	P. 59
・ シートベルトで固定する	P. 60
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	P. 62
・ トップテザーアンカレッジを使用する	P. 64

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 51)

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 51）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管してください。

チャイルドシートを使用するときは

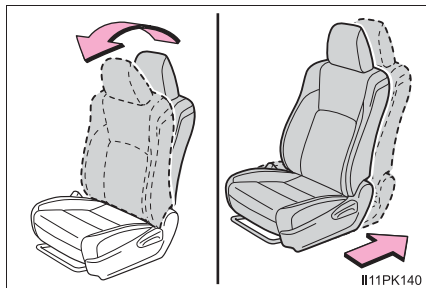
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● シートをいちばんうしろに下げ

シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

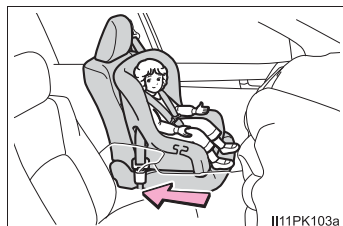
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



II11PK176

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



II11PK103a

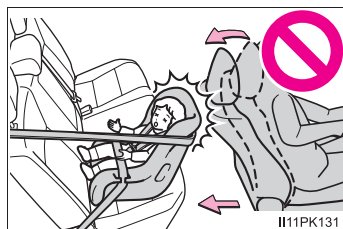
警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リアピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 53）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 57）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

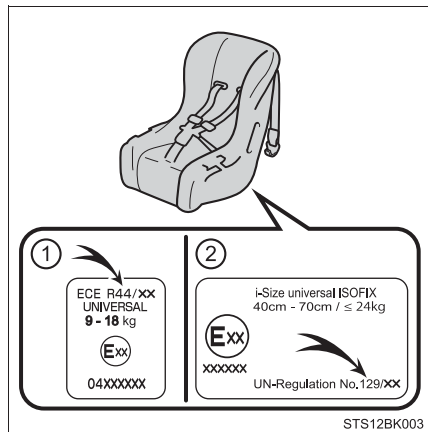
法規番号の表示例

① UN (ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク※²

対象となるお子さまの身長、および使用可能な体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

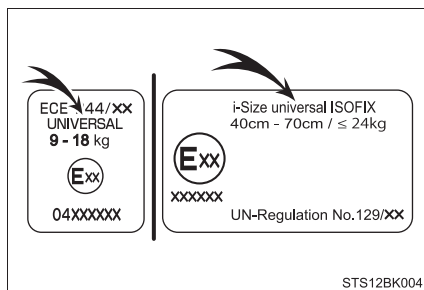
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

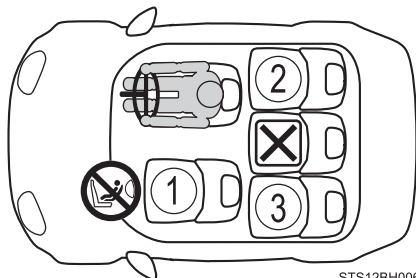
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal (汎用)」
- ・セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- ・リストラクティッド「restricted (限定)」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	U ※4
② ※3	U L i-Size Anchor
③ ※3	U L i-Size Anchor



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 57）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



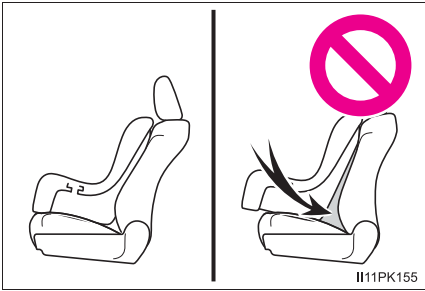
トップテザーアンカレッジが装備されています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

- ※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- ※² 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- 
- ※³ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。
- ※⁴ チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2, R2X, R3	R1, R2, R2X, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

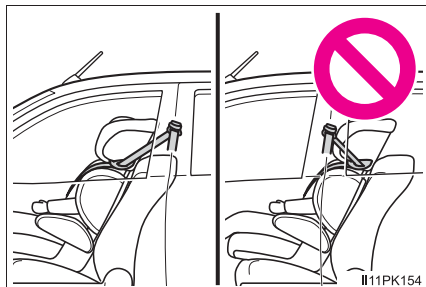
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量 グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
II、III (15 ~ 36kg)	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

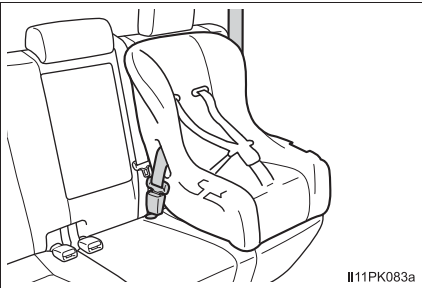
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- フロントシートにサポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- フロントシートにジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 60
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P. 62
テザーベルトを固定する		P. 64

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

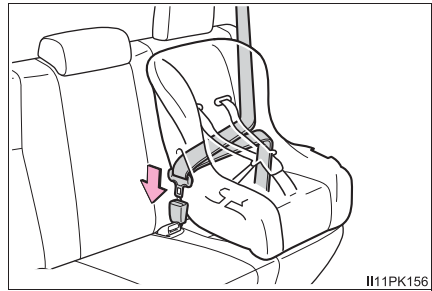
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52, 53）

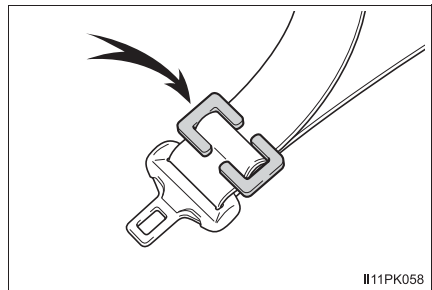
- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 48）
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 119）

- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する
ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 61）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

知識

■ チャイルドシートを取り付けるためにヘッドレストを外したときは

チャイルドシートを取りはずしたあとは、ヘッドレストを取り付けてください。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

● シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

● チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

● チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

● ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

● 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX
ロアアンカレッジが装備されて
います。(ロアアンカレッジが装
備されていることを示すタグが
シートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52, 53）

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 119）

- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 61）

□ 知識

■ チャイルドシートを取り付けるためにヘッドレストを外したときは

チャイルドシートを取りはずしたあとは、ヘッドレストを取り付けてください。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

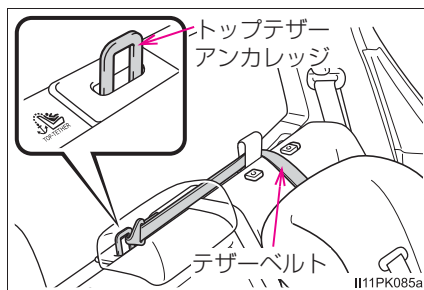
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する**■ トップテザーアンカレッジについて**

この車はリヤ外側席で使用するためのトップテザーアンカレッジが、後席中央に装備されています。

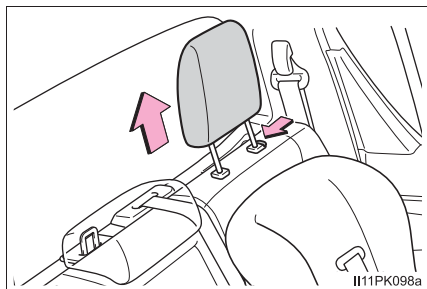
テザーベルトを固定するときに使います。



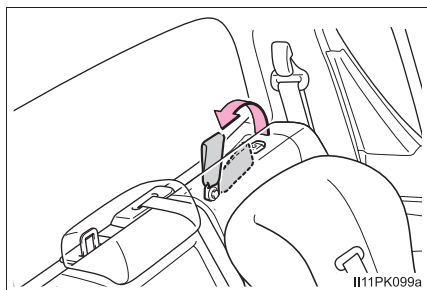
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

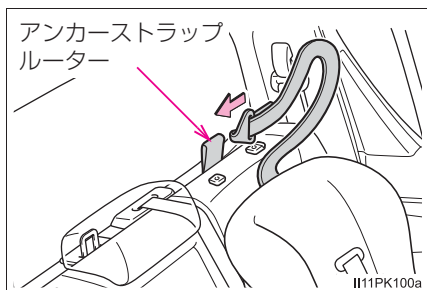
- 1 ヘッドレストを取りはずす



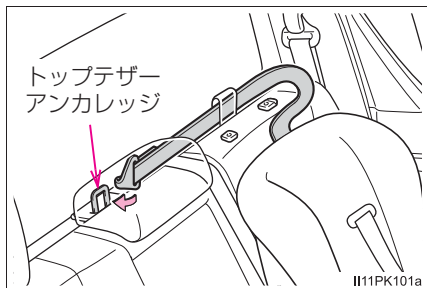
- 2 アンカーストラップルーターを上げる



- 3 テザーベルトをアンカーストラップルーターにとおす



- 4 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める



 知識

■チャイルドシートを取り付けるためにヘッドレストを外したときは

チャイルドシートを取りはずしたあとは、ヘッドレストを取り付けてください。

 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されていることを確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

エンジンモビライザーシステム

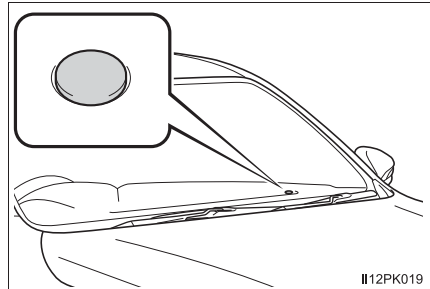
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

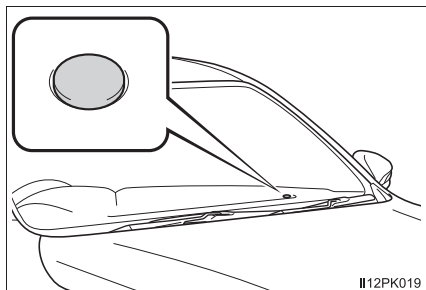
- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



■12PK019

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンを開始する（数秒後に解除・停止します）

 知識■ **メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**

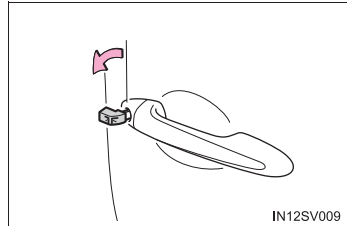
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

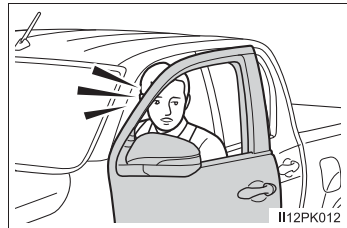
■ **オートアラームの作動について**

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠して開けたとき



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき

 **注意**■ **オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

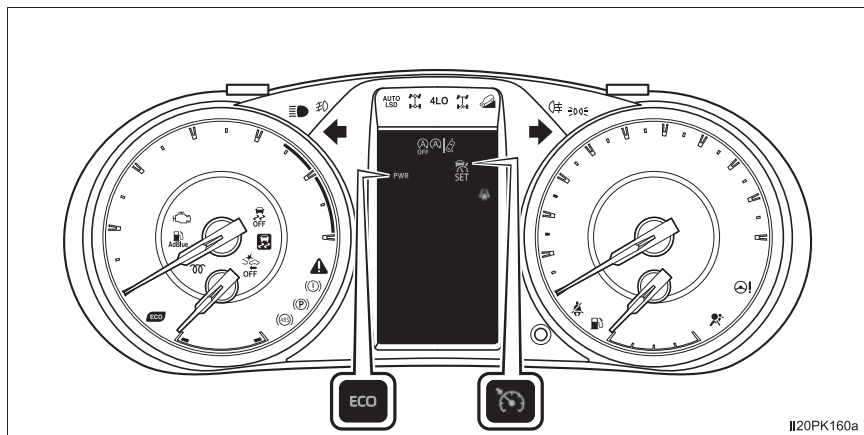
メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	72
計器類.....	77
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	81
燃費画面.....	91

警告灯 / 表示灯

メーター・センターパネル内の警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 340)



PCS 警告灯 (→ P. 341)
(点滅
または
点灯)



(点灯
または
点滅)

エンジン警告灯
(→ P. 340)



LDA 表示灯 (→ P. 341)

(黄色
点灯)



SRS エアバッグ/
プリテンショナー警告灯
(→ P. 340)



運転席/助手席シートベル
ト非着用警告灯
(→ P. 342)

(点滅
または
点灯)



ABS 警告灯
(→ P. 340)



リヤ席シートベルト非着用
警告灯 (→ P. 342)

(点滅
または
点灯)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 340)



燃料残量警告灯
(→ P. 342)



スリップ表示灯
(→ P. 341)



マスターウォーニング
(→ P. 342)

(点滅
または
点灯)



(速い
点滅)

L4 作動表示灯(→ P. 341)



Stop & Start キャンセル
表示灯 (→ P. 342)

(点滅)



(速い
点滅)

リヤデフロック作動表示灯
(→ P. 341)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 342)



AdBlue® 残量警告灯
(→ P. 342)



(点滅)

※1
AUTO LSD 表示灯
(→ P. 342)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 センターパネルに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 156)



※1, 2
Stop & Start キャンセル
表示灯 (→ P. 237)



ハイビーム表示灯
(→ P. 159)



予熱表示灯 (→ P. 144)



尾灯表示灯 (→ P. 158)



クルーズコントロール表示
灯 (→ P. 200)



フロントフォグランプ表示
灯 (→ P. 162)



レーダークルーズコント
ロール表示灯 (→ P. 200)



リヤフォグランプ表示灯
(→ P. 162)



クルーズコントロールセッ
ト表示灯 (→ P. 200)



※1
エコドライブインジケー
ターランプ (→ P. 76)



※1
ダウンヒルアシストコント
ロールシステム表示灯
(→ P. 252)











※1
Stop & Start 表示灯
(→ P. 236)



(点滅)

※1
スリップ表示灯
(→ P. 247)

<p>※1, 2</p> 	<p>VSC OFF 表示灯 (→ P. 247)</p>	<p>※1, 2</p> 	<p>PCS 警告灯 (→ P. 175)</p>
	<p>4WD 表示灯 (→ P. 226)</p>	<p>※3</p> 	<p>LDA 表示灯 (→ P. 191)</p>
<p>4LO</p>	<p>L4 作動表示灯 (→ P. 226)</p>		<p>低温表示灯 (→ P. 78)</p>
	<p>リヤデフロック作動表示灯 (→ P. 233)</p>		<p>パーキングブレーキ表示灯 (→ P. 157)</p>
<p>ECO</p>	<p>エコドライブモード表示灯 (→ P. 150)</p>	<p>※1</p> 	<p>AUTO LSD 表示灯 (→ P. 255)</p>
<p>PWR</p>	<p>パワーモード表示灯 (→ P. 150)</p>		

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

 知識

■ エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ エコ運転の範囲

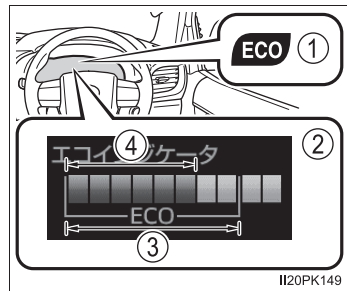
④ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプとエコドライブインジケーターゾーン表示は作動しません。

- シフトレバーが D 以外するとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- 走行モードがパワーモードのとき (→ P. 150)
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているとき (→ P. 252)
- トランスファースイッチが L4 にあるとき (→ P. 226)
- 車速が約 100km/h 以上のとき

エコドライブインジケーターランプの作動/非作動を設定できます。(→ P. 387)



I120PK149

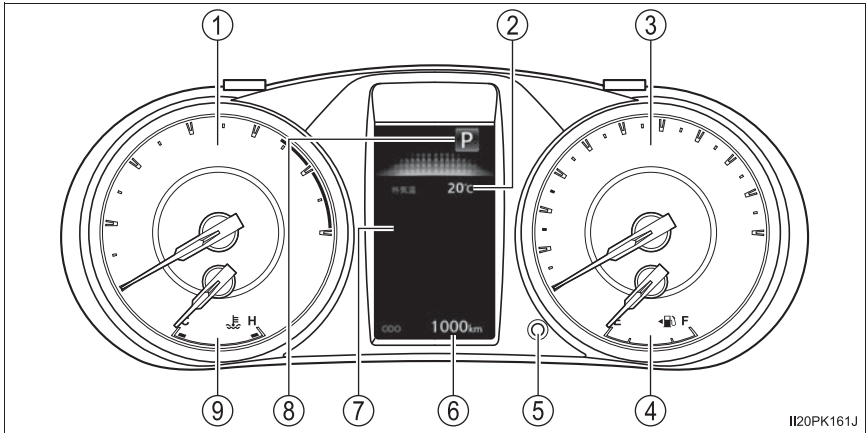
⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② 外気温

外気温を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。外気温が約 3°C 以下になると低温表示灯が点灯し、約 5°C 以上になると消灯します。(→ P. 75)

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ 燃料計

燃料残量を示します。

⑤ オドメーター／トリップメーターボタン

→ P. 79

⑥ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けことができます。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 81)

⑧ シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 149)

⑨ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

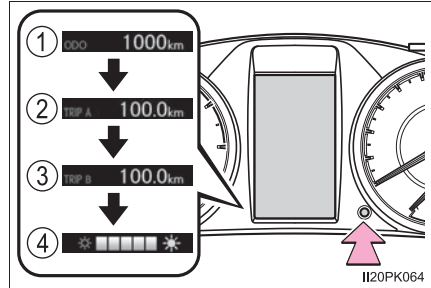
表示の切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

- ① オドメーター
- ② トリップメーター A^{※1}
- ③ トリップメーター B^{※1}
- ④ インstrumentパネル／メーター照度調整^{※2}

※1 押し続けると0にもどります。

※2 押し続けると照度を調整できます。



知識

■メーターの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■インストルメントパネル照度調整／メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時で、それぞれ明るさのレベルを調整することができます。照度を最大に設定している場合を除き、車幅灯を点灯すると照度は減光されません。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

トリップメーターがリセットされます。

■外気温度表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの入り口付近など）
- “-” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 373）

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

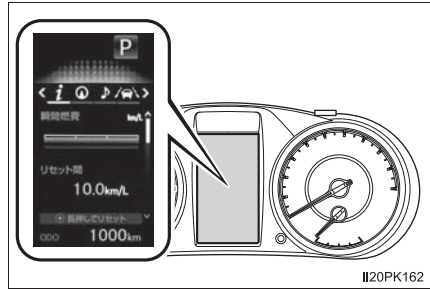
マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

アイコンを選択して各項目を表示させます。

メーター操作スイッチ (→ P. 82) を操作すると、数秒のあいだ、メニューアイコンが表示されます。

通常は外気温が表示されます。(→ P. 77)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 83)



ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。また、ナビゲーションシステムで目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向き切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。



走行支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]) (→ P. 185)
- ・ RSA (ロードサインアシスト) (→ P. 195)
- ・ レーダークルーズコントロール (→ P. 200)



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→ P. 344)

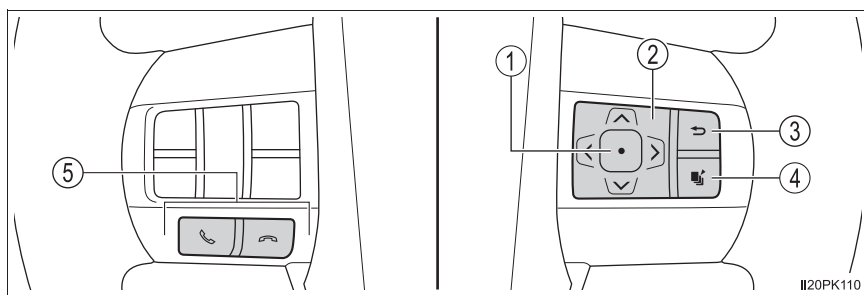


設定

メーターの表示設定を切りかえることができます。(→ P. 85)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- ① 決定・設定
- ② メニューの選択・ページの切りかえ
- ③ ひとつ前の画面にもどる

- ④ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

- ⑤ 電話の着信表示

ハンズフリーシステムと連携して、着信の表示ができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して **i** を選択し、“^”または“v”を押して項目を選択します。

■ ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

- 瞬間燃費（バー表示・数値表示）※^{1,2}

現在の瞬間燃費を表示します。

- 平均燃費（リセット間 ※³・始動後・給油後）※^{1,2}

リセット後、エンジン始動後、給油後の平均燃費を表示します。

- 平均車速（リセット間 ※³・始動後）※¹

リセット後、エンジン始動後の平均車速を表示します。

- 走行時間（リセット間 ※³・始動後）※¹

リセット後、エンジン始動後の経過時間を表示します。

- 距離（航続可能距離・始動後走行距離）※¹


燃料残量による走行可能な距離・エンジン始動後の走行距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※¹ 「設定」のドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2 で選択した項目が表示されます。（→ P. 85）

※² 表示される燃費は参考として利用してください。

※³ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの  を長押しします。

リセットが可能な項目が複数表示されている場合は、リセットする項目を選択する画面が表示されます。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示／エコジャッジ

- ・ エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。(→ P. 76)
- ・ お客様のエコ運転技術の向上を目的として、エコ運転の総合点を表示します。(→ P. 88)

■ エコウォレット

比較燃費・リセット後の平均燃費・燃料の消費金額を表示します。
(→ P. 89)

■ フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

タイヤの方向表示は、タイヤの角度に応じて、左右それぞれ3段階に切りかわります。

クリアランスソナーの作動中(→ P. 216)、またはドアが完全に閉まっていない状態のときは、フロントタイヤ方向表示（切れ角）と同時にそれぞれの情報が表示されます。

バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にタイヤの方向表示が表示されないことがあります。タイヤの方向表示が表示されないときは、しばらく走行することで表示されるようになります。

■ スピードメーター表示

車両の走行速度を表示します。

■ AdBlue[®] 残量表示

AdBlue[®] の残量を表示します。(→ P. 89)

設定

各装備の機能の On/Off や設定変更などができます。(→ P. 386)

■ LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]) (→ P. 185)

次の設定を変更することができます。

● ヨーアシスト機能の ON / OFF

車線逸脱抑制機能の作動 / 非作動を変更することができます。

● 警報感度

車線逸脱警報機能の感度を変更することができます。

● ふらつき警報の ON / OFF

ふらつき検知機能の作動 / 非作動を変更することができます。

● ふらつき検知感度

ふらつき警報機能の感度を変更することができます。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→ P. 175)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

プリクラッシュセーフティの作動 / 非作動を変更することができます。

● 警報感度

衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→ P. 195)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

RSA の作動 / 非作動を変更することができます。

● 告知手段

最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の各標識を認識したときの警報方法をそれぞれ変更することができます。

● 告知車速

最高速度標識の認識時、標識が示す制限速度に対して警報を実施する超過速度を変更することができます。

■ 車両設定

● アイドリングストップ (→ P. 236)

エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を変更することができます。

● 先行車発進告知 (→ P. 213)

次の設定を変更することができます。

- ・ 先行車発進告知機能の ON / OFF

先行車発進告知機能の作動 / 非作動を変更することができます。

- ・ 告知距離

先行車の発進を告知する距離を変更することができます。

■ 表示設定

● 言語 ※

● 単位

マルチインフォメーションディスプレイ内の燃費表示の単位を選択することができます。

● エコドライブインジケータランプ

エコドライブインジケータランプの作動 / 非作動を選択することができます。(→ P. 76)

● スイッチ設定

スイッチにお好みの画面を登録する方法を表示します。

お好みの画面を登録しておく、スイッチを押したときに登録した画面を表示させることができます。

● ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目を 1・2 それぞれに 2 つまで選択することができます。

● 割り込み表示★

状況に応じて割り込み表示される項目の表示・非表示を選択することができます。

● アクセントカラー

マルチインフォメーションディスプレイ内のカーソル色を選択することができます。

● エコウォレット

比較燃費、燃料価格の設定を変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

※ 設定項目として表示されますが、本車両では日本語以外の言語に変更できません。

 **知識****■ 割り込み表示について**

次の機能の作動状況に従って、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

- 交差点案内
- 電話着信
- Stop & Start システム作動時間
- Stop & Start システム状態通知

割り込み表示の表示／非表示を変更することができます。(→ P. 387)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコジャッジ

発進・走行・減速という3つの要素から、走行状況をそれぞれ5段階で評価し、停車するたびに採点結果を表示します。(採点結果は発進するたびにリセットされ、累積の結果は算出されません)

① エコジャッジ

エコ発進・安定走行・エコ減速の採点を総合した結果が表示されます。

② エコ発進

発進時の加速状況から算出されたエコレベルを表示します。

③ 安定走行

走行中の加速状況から算出されたエコレベルを表示します。

④ エコ減速

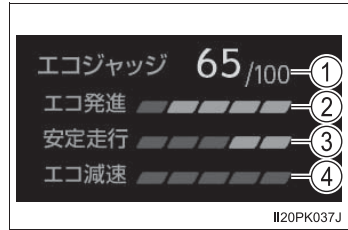
アクセルペダルを離れたあと、停車までに費やした時間から算出されたエコレベルを表示します。

レーダークルーズコントロール使用時など、アクセルペダルを踏まずに走行した距離は、エコジャッジの結果に反映されません。

エコジャッジの評価は、運転状況や走行環境に依存し、実際の燃費とは異なる場合があります。

次の場合、エコジャッジは作動しません。

- 車速が約 100km/h 以上のとき
- シフトレバーが D 以外のとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- トランスファースイッチが L4 にあるとき
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているとき
- 走行モードがパワーモードのとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコウォレット

比較燃費・リセット後の平均燃費・燃料の消費金額を表示します。

① 比較燃費

設定した燃費と実際の燃費との比較結果を表示します。

② 平均燃費

リセット後の平均燃費を表示します。

- 平均燃費の表示中にメーター操作スイッチの \odot を1秒以上押し続けると、表示がリセットされます。

- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

③ お得金額／消費金額

比較燃費が設定されているときは、節約することができた燃料費（お得金額）が表示されます。

比較燃費が設定されていないときは、実際の燃料費（消費金額）が表示されます。

消費金額・お得金額は、目安としてご利用ください。給油方法・運転状況・走行環境などにより、表示された金額と実際の燃料消費金額とが異なる場合があります。また、状況によっては、エコジャッジの採点結果に連係しません。



■エコウォレット設定

「設定」画面で燃料価格と比較燃費を設定することができます。

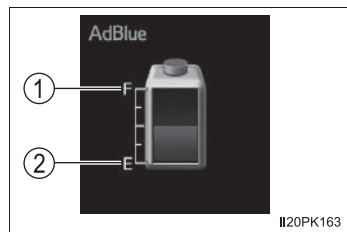
停車中にメーター操作スイッチで \odot を選択して \odot を押し、「エコウォレット」を選択して \odot を押し、それぞれの項目を設定します。

■AdBlue[®] 残量表示

AdBlue[®] の残量を表示します。

① “F”（多い）

② “E”（少ない）



■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時的に中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションと設定がリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ エコジャッジについて

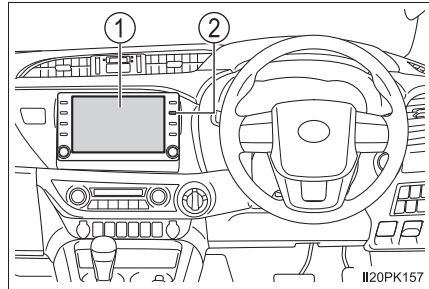
エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

燃費画面

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

システムの構成部品

- ① ナビゲーション画面
- ② “MENU” スイッチ



表示のしかた

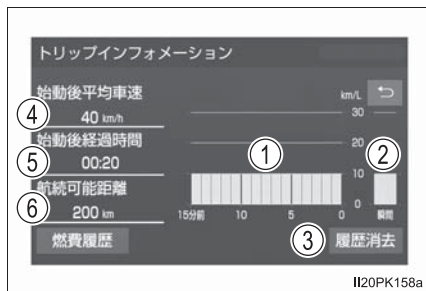
- 1 「MENU」 スイッチを押し、「情報」を選択する
- 2 「情報」画面の「エコ情報」を選択する
- 3 「トリップインフォメーション」または「燃費履歴」を選択する

燃費画面の見方

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択してください。

- ① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
- ② 瞬間燃費
- ③ 履歴消去
- ④ エンジン始動後平均車速
- ⑤ エンジン始動後経過時間
- ⑥ 航続可能距離



平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択してください。

① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

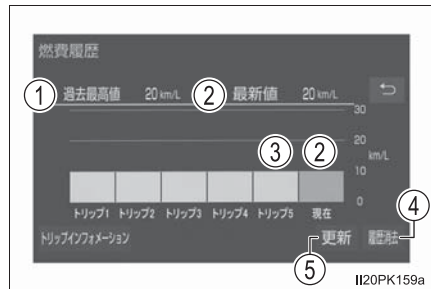
平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



□ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

各部の操作**3**

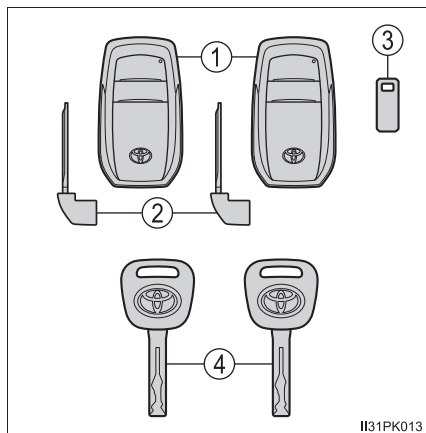
3-1. キー	
キー	96
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	100
テールゲート	105
スマートエントリー& スタートシステム	108
3-3. シートの調整	
フロントシート	115
リヤシート	117
ヘッドレスト	119
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	121
インナーミラー	123
ドアミラー	124
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	126

キー

キーについて

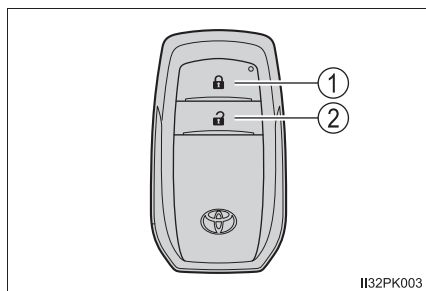
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 108)
 - ・ ワイヤレス機能の作動 (→ P. 96)
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート
- ④ メカニカルキー (補助キー)
 - テールゲートの施錠・解錠 (→ P. 105)



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 100)
- ② ドアの解錠 (→ P. 100)

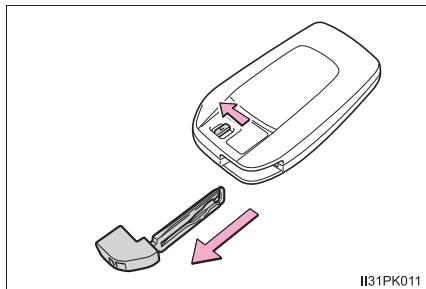


メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドしてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キーの溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 366)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、グローブボックスを施錠します。(→P. 279)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。補助キーを持っている場合は、メカニカルキーと同様に携帯してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

→P. 113

■ **電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき**

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき**

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。

■ **電池の交換方法**

→ P. 315

■ **キー登録本数の確認について**

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
- ・分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用ください。
- ・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

■ 電子キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

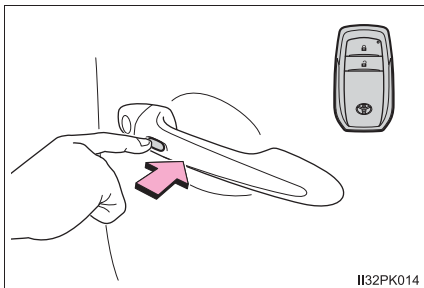
ドア

車外からの施錠・解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して施錠・解錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



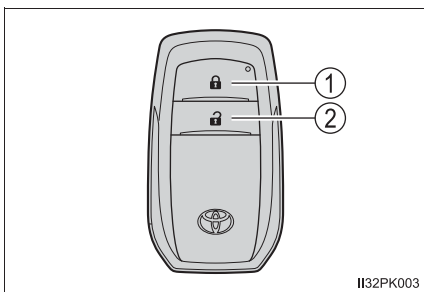
II32PK014

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



II32PK003

知識

■ 作動の合図

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでのドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー & スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでの解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でスマートエントリー & スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 366)
- 電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 315)

■ オートアラームの設定

スマートエントリー & スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで施錠すると、オートアラームが設定されます。(→ P. 68)

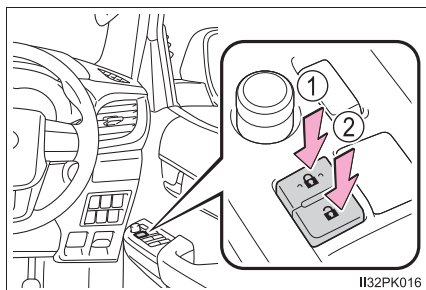
■ マルチインフォメーションディスプレイに半ドア警告を示すシンボルが表示されたとき

ドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。開いているドアを閉めてください。

車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

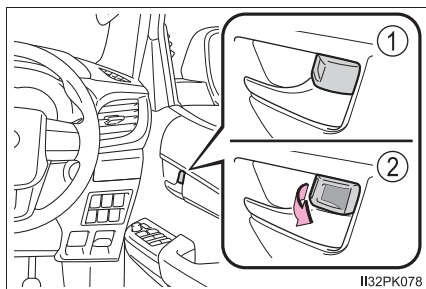
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

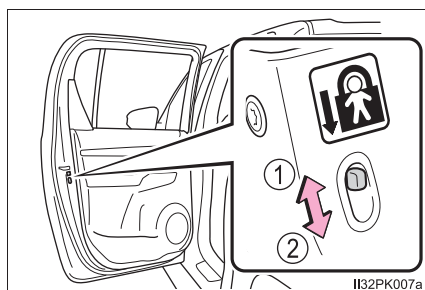
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。



機能	作動内容
車速感応オートロック	車速が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。(車が強い衝撃を受けても、全ドアは自動的に解錠されません。)
運転席ドア連動オートアンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから45秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

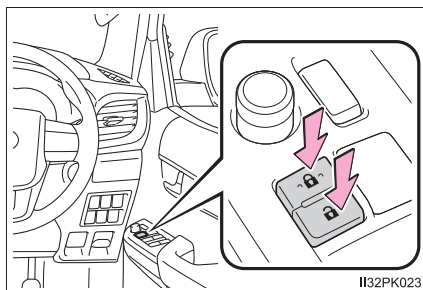
- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする (その後 20 秒以内に手順 **2** の操作を行う)

- 2 ドア ロック スイッチ の



 側または  側を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



II32PK023

機能	ドアロックスイッチの位置
車速感応オートロック	
運転席ドア連動オートアンロック	

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、ドアロックスイッチを離したときにすべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 111

 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するとき

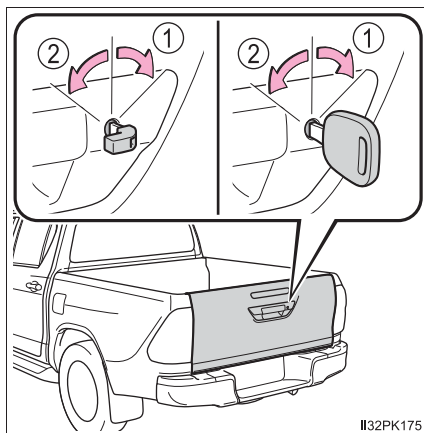
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

テールゲート

テールゲートは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

テールゲートの施錠・解錠

- ① メカニカルキーで施錠する
- ② メカニカルキーで解錠する

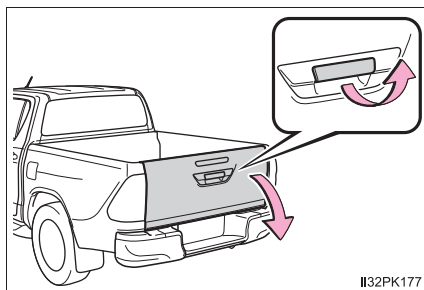


テールゲートを開けるには

ハンドルを引き、テールゲートをゆっくり開ける

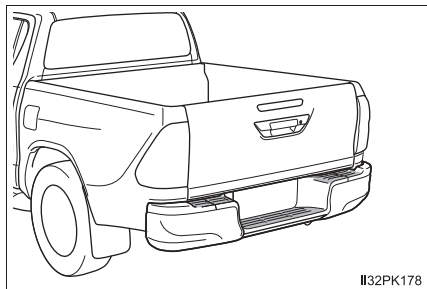
サポートステーがテールゲートを水平に保持します。

テールゲートを閉じたあとは、手前に引いてしっかりとロックされていることを確認します。



リヤステップバンパー

リヤステップバンパーは、車両後部を保護し、荷物を積むときの踏み台として使用できます。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

- テールゲートを開けたまま走行しない
- 荷台やリヤステップバンパーなどに人を乗せて走行しない

■ テールゲートを開閉するときは

- 周囲の安全を確かめ、テールゲートで指などを挟まないよう十分注意してください。
- お子さまにはテールゲートの操作をさせないでください。手、頭、腕、首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 傾斜地では平坦な場所よりもテールゲートの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にテールゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。
- スターを取りはずすときは、しっかり握り確実に操作してください。手を挟んでけがをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 強風時の開閉には十分注意してください。テールゲートが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。
- テールゲートを閉めたときは、確実に固定されたことを確認してください。

 **注意****■ リヤステップバンパーの損傷を防ぐために**

リヤステップバンパーの上には、一度に複数人で乗らないようにしてください。

■ テールゲート取り扱いの注意

ステーを取りはずすと、テールゲートがリヤバンパーと接触し、損傷するおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム

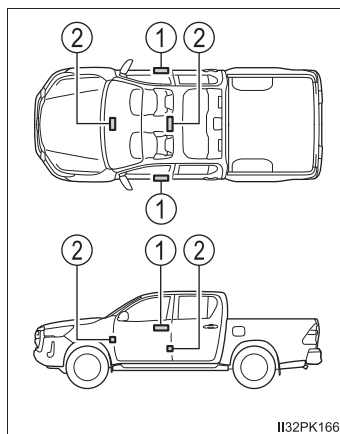
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 100)
- エンジンを始動する (→ P. 144)

知識

■ アンテナの位置

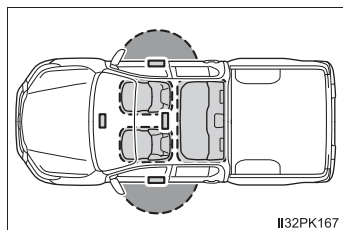
- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

●： ドアの施錠・解錠時

各ドアのロック／アンロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのロック／アンロックスイッチのみ作動します）



I32PK167

●： エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時



車内で電子キーを携帯している場合に作動します。（フロア上、ダッシュボード上などは作動範囲の対象外です）

■ 節電機能

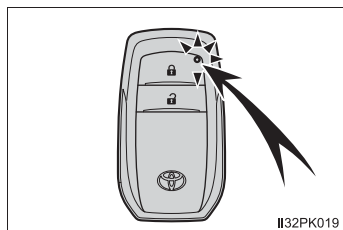
長期駐車時に車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



I32PK019

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたりすることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いている ときにスマートエントリー& スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ピー、 ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 366)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 施錠・解錠時に電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にあるときは正しく作動しないことがあります。
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドアハンドル以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- ドアハンドル上のロック／アンロックスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度ロック／アンロックスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができません。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→P. 110）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→ P. 366
- エンジンの始動：→ P. 366

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■マルチインフォメーションディスプレイに「車室内にキーがあります」が表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、次のいずれかの操作を行いました。

- ・スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした
- ・フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした

車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 386)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 100, 366)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P. 366
- エンジンの停止：→P. 145

 **警告****■電波がおよぼす影響について**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 108）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

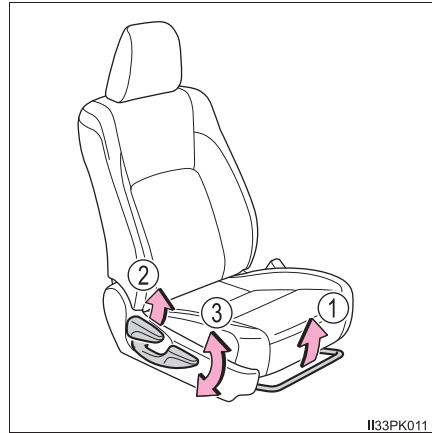
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

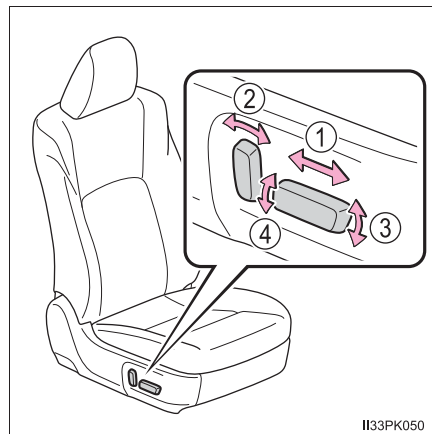
▶ マニュアルシート

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)



▶ パワーシート (運転席のみ)

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション前端の上下調整
- ④ シート全体の上下調整



 **警告****■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

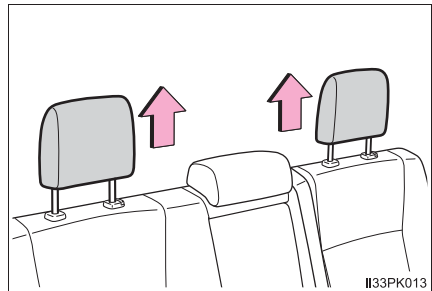
■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。(マニュアルシート)

リヤシート

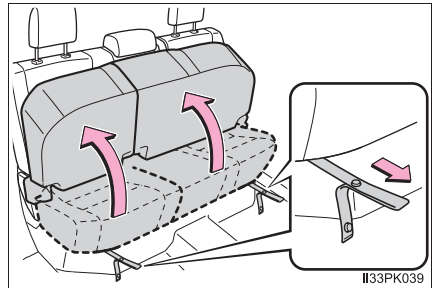
シートクッションを持ち上げるには

- 1 ヘッドレストを上げる

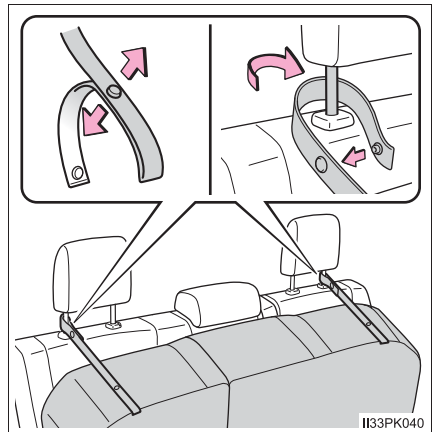


- 2 ストラップを引いて、シートクッションを持ち上げる

ストラップを引くとシートクッションのロックが解除され、シートクッションの持ち上げが可能になります。



- 3 ホックをはずしてストラップをのばし、ヘッドレストのステーに固定する



 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートクッションを持ち上げるとき

- 走行中に操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

■シートクッションをもとにもどすとき

- シートのあいだに手や足などを挟まないよう注意する
- シートの下にもものがないことを確認する
- シートクッションを上下に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれていたり、シートクッションに挟み込まれていないか確認する

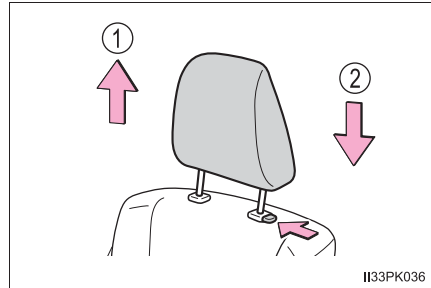
ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

フロントシート

- ① 上げる
- ② 下げる

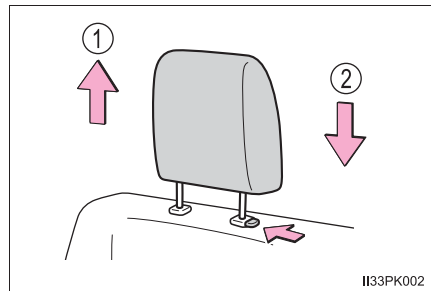
下げるときは、解除ボタンを押しなが
ら操作します。



リヤシート

- ① 上げる
- ② 下げる

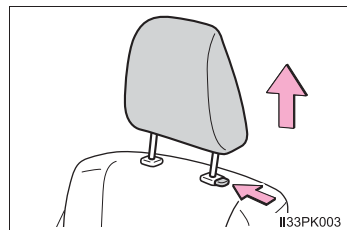
下げるときは、解除ボタンを押しなが
ら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

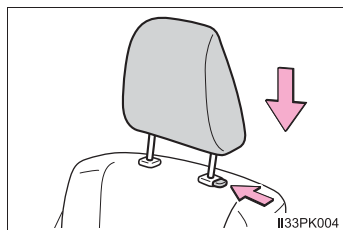
解除ボタンを押しなが
ら取りはずします。



■ヘッドレストを取り付けるとき

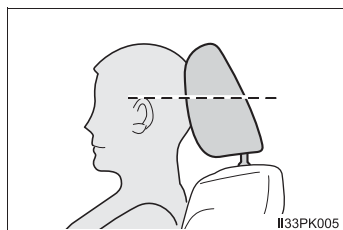
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ中央席のヘッドレストの使用について

使用するときには、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

▲ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

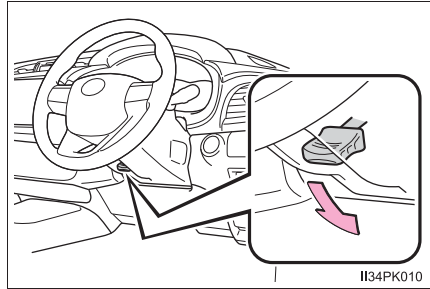
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

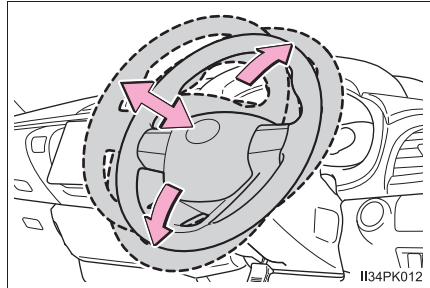
ハンドル

調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる

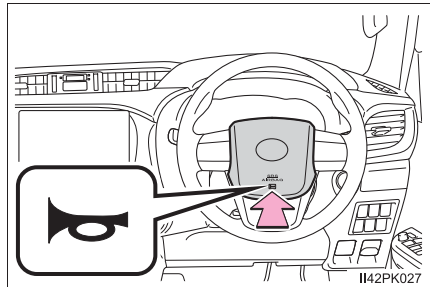


- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 **警告****■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

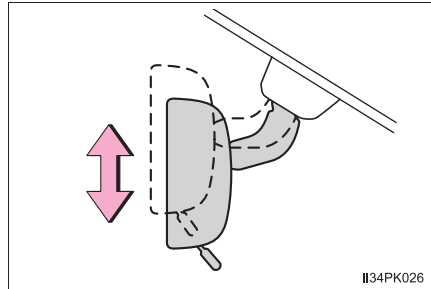
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

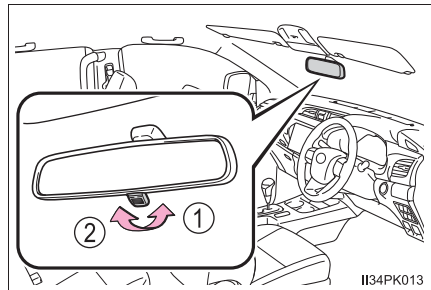
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

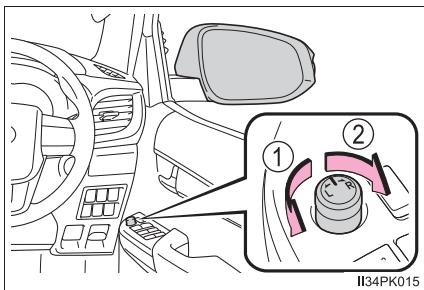
■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

調整のしかた

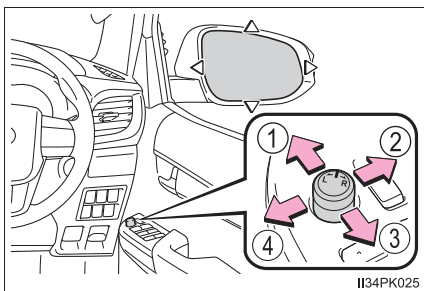
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する

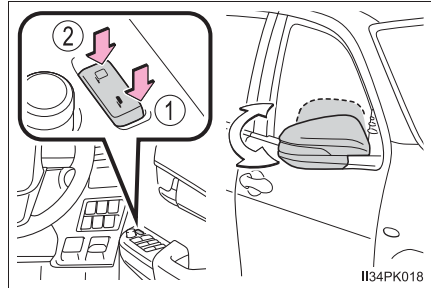
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押して格納する

- ① ミラーを格納する
- ② ミラーをもとの位置にもどす



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→ P. 270)

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

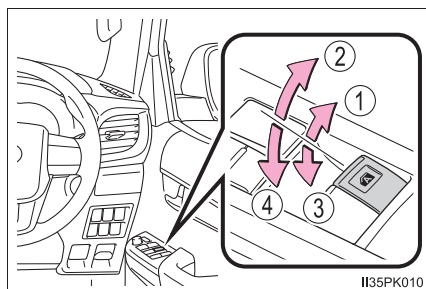
調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉（全席）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（全席）※

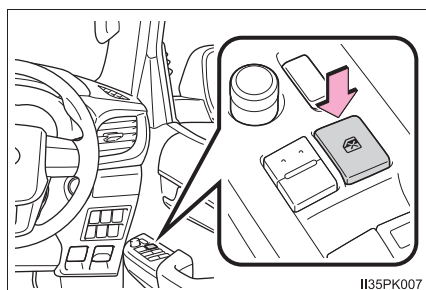
※途中で停止するとき、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ パワーウィンドウを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチがイグニッションONモードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約4秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① エンジンスイッチをイグニッションONモードにする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約6秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約1秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

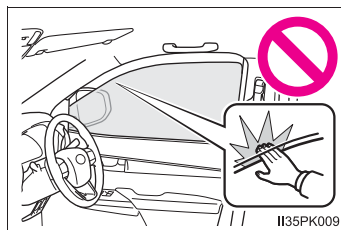
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 126)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能（ドアガラス自動開閉機能装着席のみ）

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

 **注意****■ 挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について**

ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって
 - 運転にあたって 132
 - 荷物を積むときの注意 142
- 4-2. 運転のしかた
 - エンジン（イグニッション）
スイッチ 144
 - オートマチック
トランスミッション 149
 - 方向指示レバー 156
 - パーキングブレーキ 157
- 4-3. ランプのつけ方・
ワイパーの使い方
 - ランプスイッチ 158
 - フォグランプスイッチ 162
 - ワイパー & ウォッシャー 163
- 4-4. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 166
- 4-5. 運転支援装置について
 - 運転を支援する装置 169
 - PCS（プリクラッシュ
セーフティ） 175
 - LDA（レーンディパーチャー
アラート [ヨーアシスト
機能付き]） 185
 - RSA（ロードサイン
アシスト） 195
 - レーダークルーズ
コントロール 200
 - 先行車発進告知機能 213
 - クリアランスソナー 216
 - 4WD システム 226
 - リヤデフロック 233
 - Stop & Start システム 236
 - 運転を補助する装置 246
 - ダウンヒルアシスト
コントロールシステム 252
 - AUTO LSD 255
 - 排出ガス浄化装置（DPF） 257
- 4-6. 運転のアドバイス
 - 寒冷時の運転 262

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 144

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする (→ P. 149)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 157)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→ P. 149)

駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 157)、シフトレバーをPにする (→ P. 149)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき※
 - PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※
- この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 246）

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行 (高速道路の法定または制限速度)	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行および サーキットなどの連続走行	約 1 分

■ エンジン出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 346)

■ 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロールシステム)

TRC / A-TRC の作動を停止 (→ P. 247) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC / A-TRC の作動を停止してください。(→ P. 247)

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

- ・ Auto LSD が作動しているとき (→ P. 255)
- ・ トランスファースイッチが L4 にあるとき (→ P. 229)

■ 路面状態の悪い泥水路を走行したあとは

尿素水インジェクターの冷却フィンに詰まった異物 (泥や木の葉) を取り除いてください。

必要に応じてトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作性補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 332を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 149)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにないと火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。(P. 257 も併せて参照してください)

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

● ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

● ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

● 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうです。

● ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→ P. 134)
- エアクリーナなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管は純正部品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 極寒の環境では、エンジン始動後に30秒以上アイドル運転を行ってください。また、アイドル運転中は空ぶかしをしないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。(→ P. 382)

 **注意****■ 走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 350 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷台に積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・リヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷台に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。

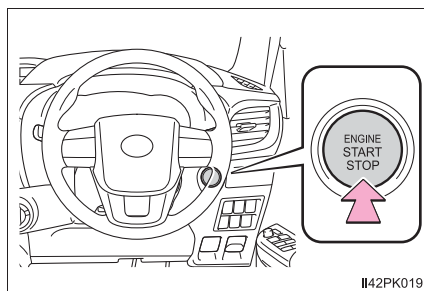


- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



（予熱表示灯）が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

エンジン停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて（→ P. 157）、シフトレバーを P の位置にする
- ③ エンジンスイッチを押す
- ④ ブレーキペダルから足を離した状態にしてメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF*

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

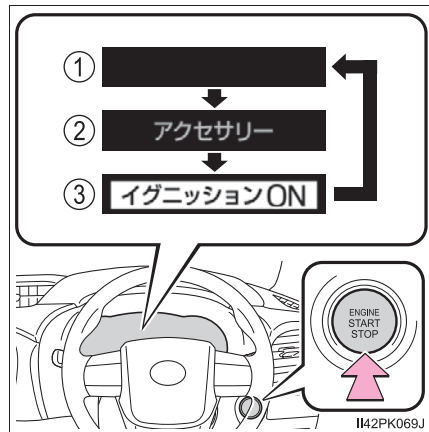
アクセサリースocketなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。



* シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源をOffしてください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを1回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源をOffしてください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ 電子キーの検知に関する留意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、ドアポケット内、カップホルダー内、小物入れ内などにあるときは、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しません。

■ 自動電源OFF機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリモードか1時間以上イグニッションONモード（エンジンがかかっている状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっているときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンスイッチの操作について

スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 113

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 111

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 112

■ エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

(→ P. 67)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 315

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 366



警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 332)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンスイッチの操作を行った場合、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジンスイッチを押し続けるとエンジン非常停止」が表示され、警告音が吹鳴します。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

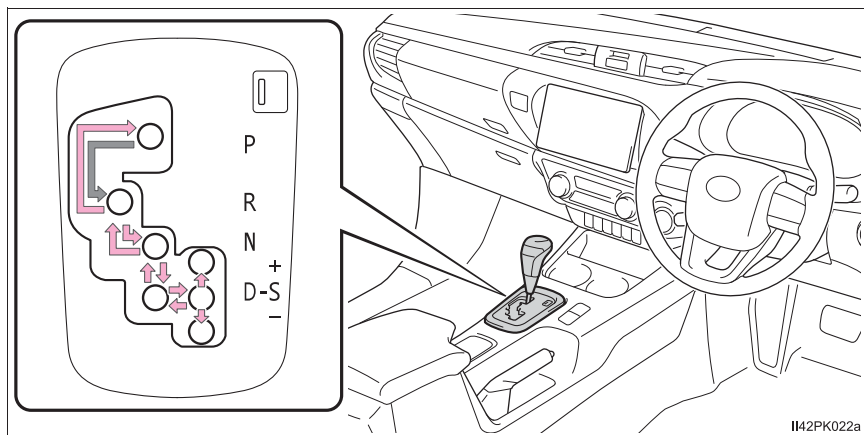
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ^{※1}
S	S モード走行 ^{※2} (→ P. 152)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションに比べエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

走行モードの選択

走行・使用条件に合わせて以下のモードを選択できます。

① エコドライブモード

アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードを選択するにはエコドライブモードスイッチを押します。エコドライブモードの選択中はエコドライブモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すとエコドライブモードが解除され、通常の走行に適したノーマルモードになります。

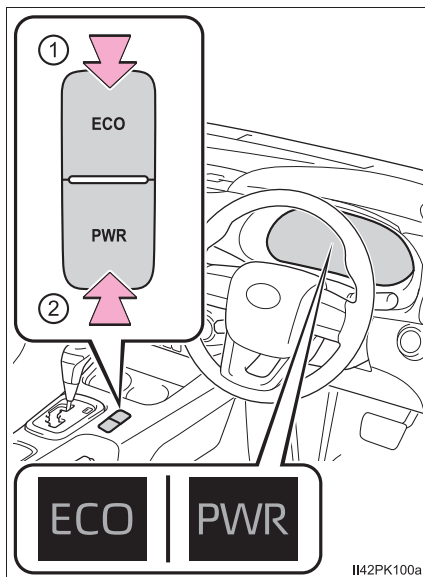
② パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

パワーモードを選択するにはパワーモードスイッチを押します。パワーモードの選択中はパワーモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すとパワーモードが解除され、通常の走行に適したノーマルモードになります。

走行モードは、トランスファースイッチが L4 にあるときは選択できません。



Dポジションでのシフトレンジ切りかえ★

パドルシフトスイッチの“－”または“＋”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

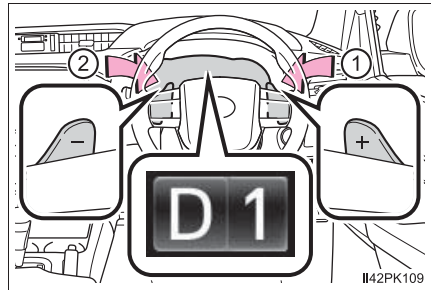
パドルシフトスイッチの“－”を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの“＋”を操作したときは、現在のギヤ段より1つ上のレンジにシフトアップします。

レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの+側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

- 車速と走行状況によって、1～6速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Sモードでのシフトレンジ切りかえ

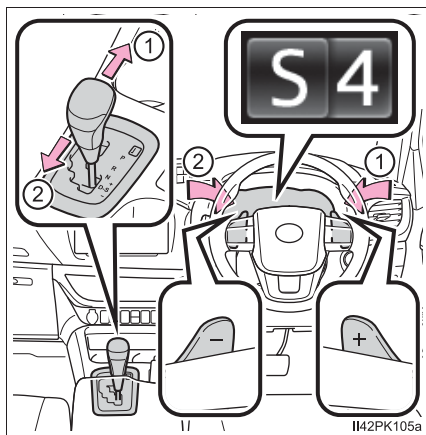
シフトレバーがSの位置にあるとき、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を次のように操作できます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

1～6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて5または4レンジに設定されます。

ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジになる場合があります。
(→ P. 155)



■ シフトレンジ機能

- 車速と走行状況によって、1～6速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）**

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- 4レンジ以上でシフトレンジを操作せずに、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき

■ S モードについて

4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “ + ” 側へ保持すると 6 レンジに設定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 273）空調の効きをよりよくしたいときは、エコドライブモードを解除してください。

■ 走行モードの解除について

- パワーモードは、エンジンスイッチを OFF にすると自動的に解除されます。
- エコドライブモードは、スイッチを押して解除するまで、エンジンスイッチを OFF にしても自動では解除されません。
- ノーマルモード以外のときにトランスファースイッチを L4 へ切りかえると、走行モードは自動的に解除されます。

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- S モードで走行中に 5 または 4 にシフトダウンしたとき（→ P. 152）
- D ポジションで走行中に走行モードをパワーモードにしたとき（→ P. 150）

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 134

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

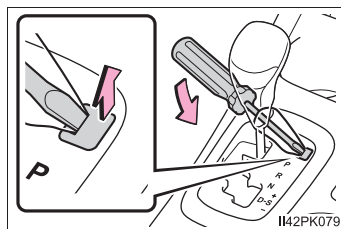
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロック解除のしかた：

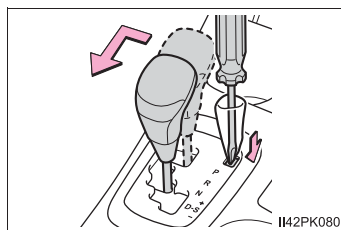
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 マイナスドライバーの先などでシフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■シフトレバーをSにしても“S”が表示されないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■オートマチックトランスミッション保護機能

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。

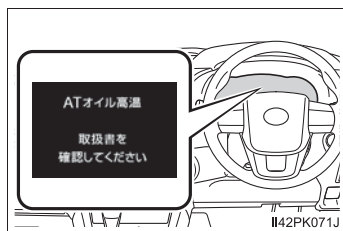
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。

トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

■走行中に警告メッセージが表示されたとき

走行中に警告メッセージが表示された場合、シフトレバーをDにして、アクセルペダルをゆるめて減速してください。ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま表示が消えるまでお待ちください。

しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。



表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

■AI-SHIFTについて

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーをDにしているときに、自動的に作動します。(シフトレバーをSポジションにすると、機能が解除されます。)

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンプレーキカの急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

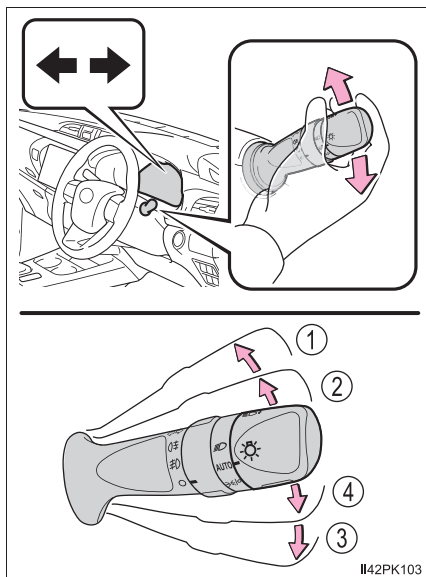
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右折
- ④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

- ① パーキングブレーキをかける
ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。
パーキングブレーキ表示灯が点灯します。
- ② パーキングブレーキを解除する
レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。
パーキングブレーキ表示灯が消灯します。



知識

- 駐車するとき
→ P. 132
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 342
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 262

注意

■ 走行前の注意

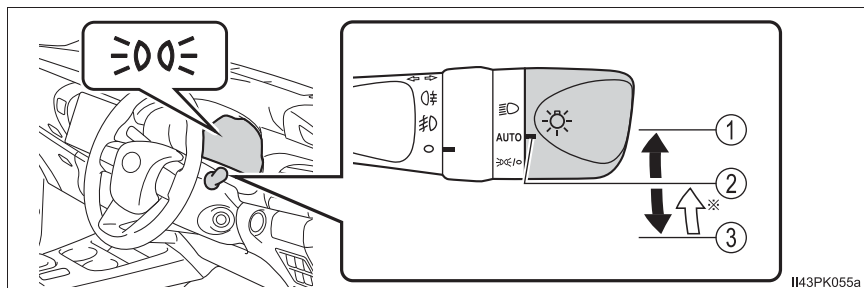
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。



ランプスイッチ




自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた



次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。




※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に②  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
②  ※ ¹	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

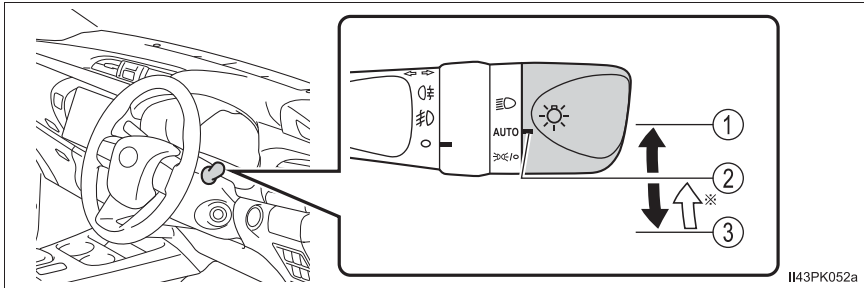
※¹ 操作するたびに、②  による点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると②  による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☞ スイッチを③ OFF の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に① AUTO が③ OFF の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③ OFF の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ OFF	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

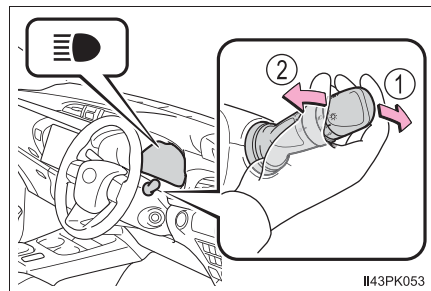
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



 知識■ **AUTO モードの作動条件**

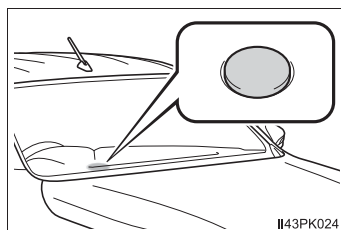
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **自動で点灯 / 消灯する明るさについて**



周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯 / 消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ **ライトセンサー**

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ **ランプ消し忘れ防止機能**

ランプ点灯時、エンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けると、すべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■ **ランプ消し忘れ警告ブザー★**

ランプが点灯している状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチをOFFの状態ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約20分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約20分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P. 390)

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

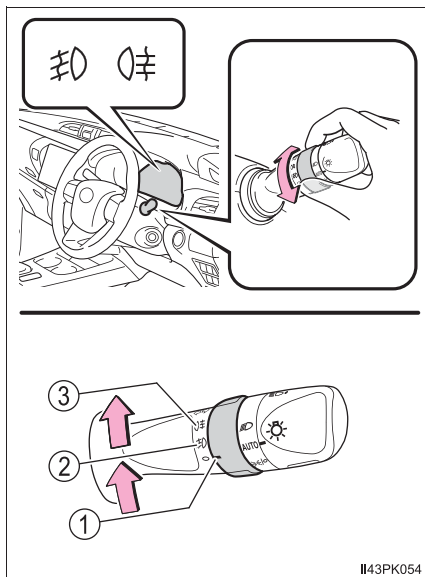
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ フロントフォグランプを点灯する
- ③ ㊧ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ㊦ の位置までもどり
ます。
再度操作すると、リヤフォグランプの
み消灯します。



II43PK054

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときに使用できます。


リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できません。

■リヤフォグランプについて

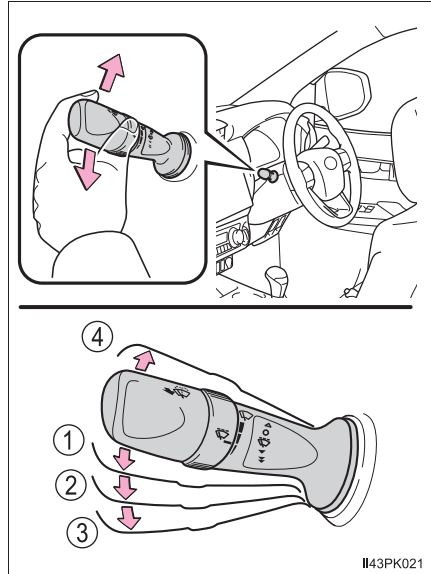
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

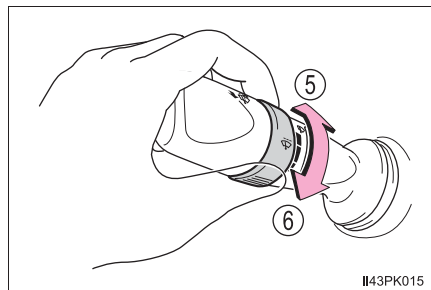
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。


- ①  間欠作動
- ②  低速作動
- ③  高速作動
- ④  一時作動



間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度 (増)
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



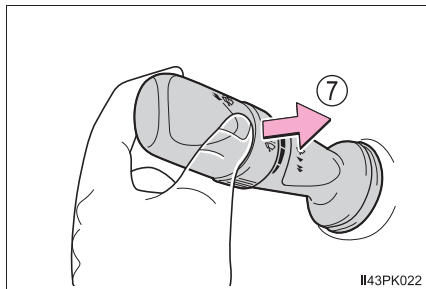
⑦  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：

ヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプクリーナーが1回作動します。

ヘッドランプクリーナーを再度使用したいときは、5回連続でレバーを手前に引いてください。

 **知識****■ 作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **警告****■ ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意

■ 給油するとき

指定の軽油を使用してください。

指定以外の軽油や、他の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

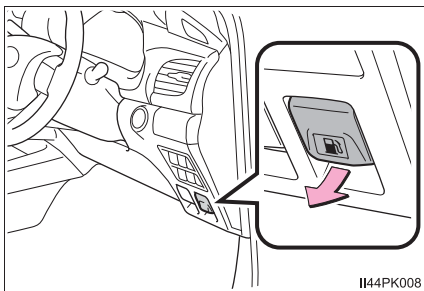
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
 - エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
 - エンジン出力が低下する
 - 排気制御システムが正常に機能しない
 - 燃料系部品が損傷する
 - 塗装が損傷する
 - 排出ガス浄化装置が正常に機能しない
- 指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

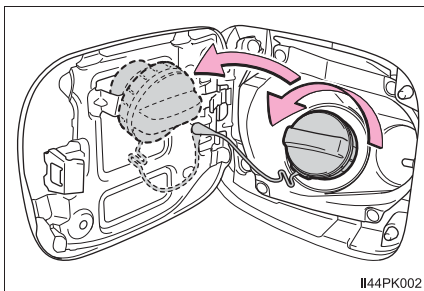
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

- 1 オープナーを引いて、給油扉を開ける



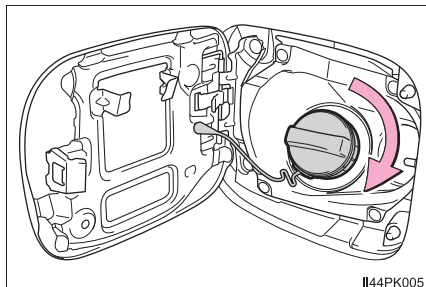
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し
もどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転を支援する装置

次の運転支援装置は、運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- ◆ PCS (プリクラッシュセーフティ)
→ P. 175
- ◆ LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
→ P. 185
- ◆ RSA (ロードサインアシスト)
→ P. 195
- ◆ レーダークルーズコントロール
→ P. 200
- ◆ 先行車発進告知機能
→ P. 213

警告

■ 運転支援装置について

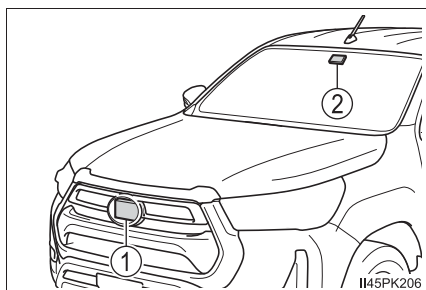
運転支援装置は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダー
- ② 前方カメラ



警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

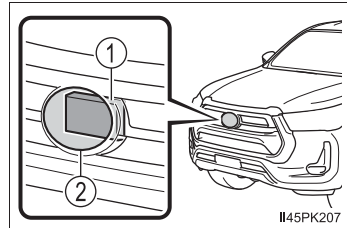
● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパーを交換したとき

警告

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

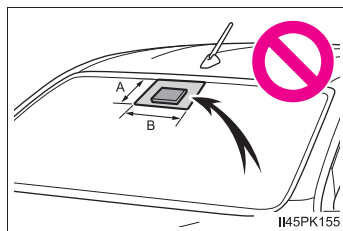
● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B: 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 270）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

 **警告**

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 **知識****■ レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く (フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 270)
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周囲の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないときその場合には「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 175）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 178）

システムの作動対象

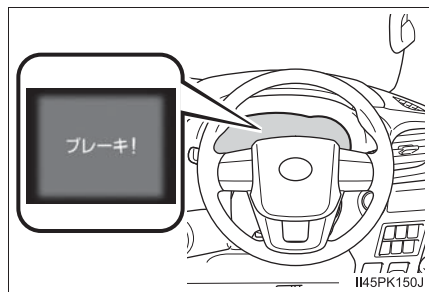
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 180
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 182
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。


 **警告****■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

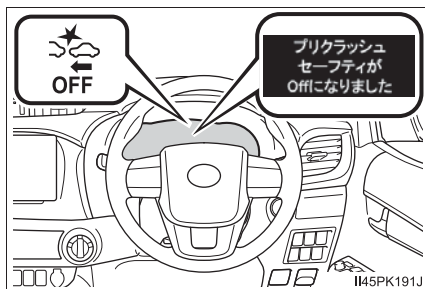
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する


マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 85) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

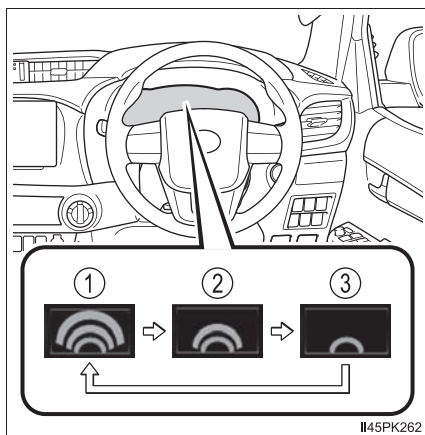


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→ P. 85) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

- ① 早い
- ② 中間
初期設定
- ③ 遅い



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ~ 180km/h	約 30 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ~ 80km/h	約 30 ~ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ~ 180km/h	約 10 ~ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ~ 80km/h	約 10 ~ 80km/h

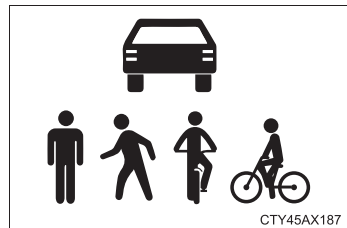
ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→ P. 182)

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

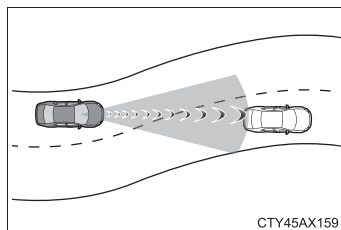
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

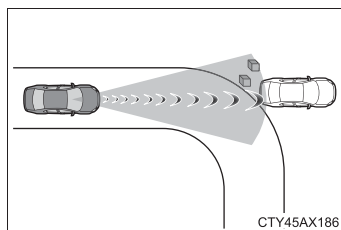
■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

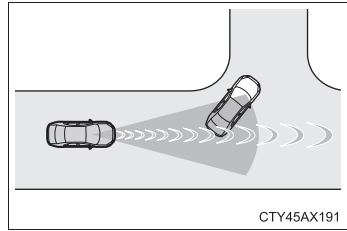


- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体が存在するとき

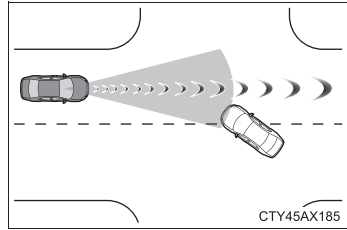


- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

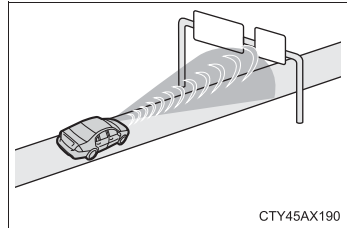
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



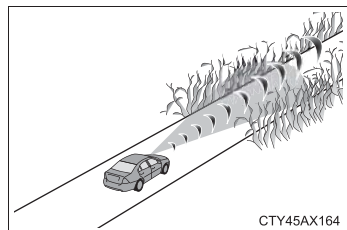
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

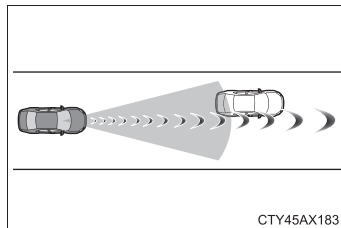


- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

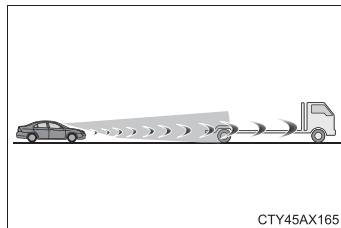
● 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



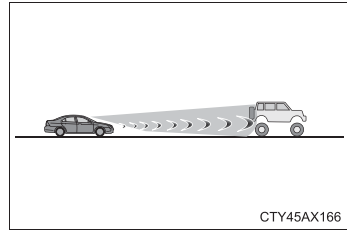
CTY45AX183

- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

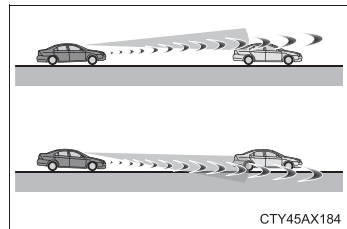


CTY45AX165

- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

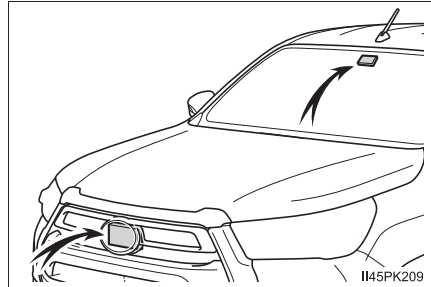
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

LDA (レーンディパーチャーアラート※¹[ヨーアシスト機能付き])

機能概要

白(黄)線が整備された道路を走行中、車線または走路※²からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※²からの逸脱を避けるための進路修正の一部を支援します。

白(黄)線または走路※²を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。



※¹ : 車線逸脱警報

※² : アスファルトと草・土・縁石等の境界

 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

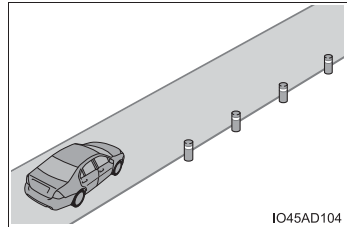
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

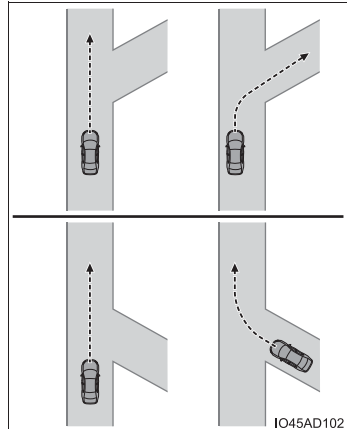
■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

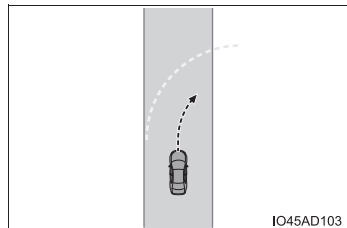
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき

 **警告**

- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

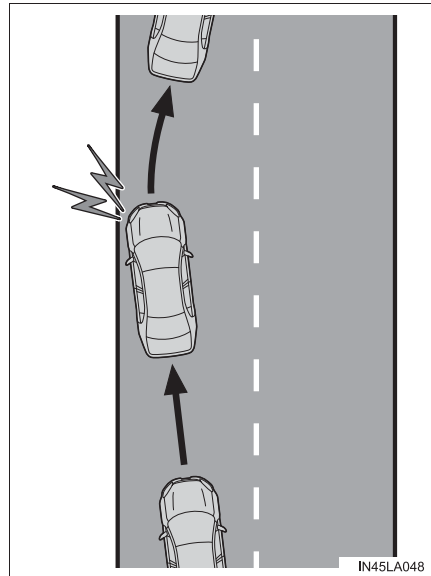
LDAに含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

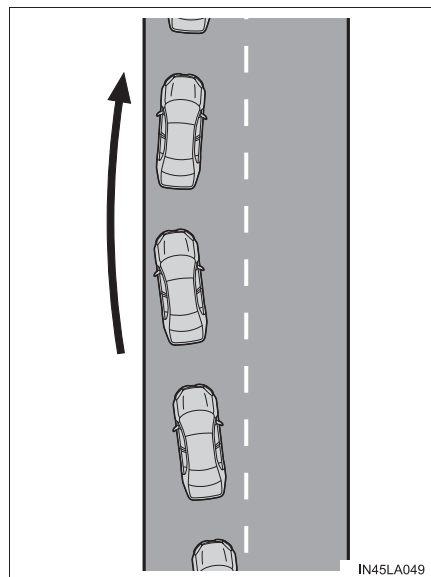
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ 車線逸脱抑制機能（ヨーアシスト機能）

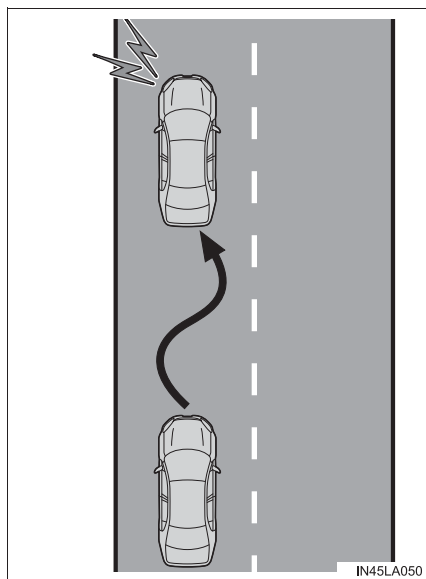
車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、短時間、ブレーキを作動させて、車線からの逸脱を避けるために必要な進路修正の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



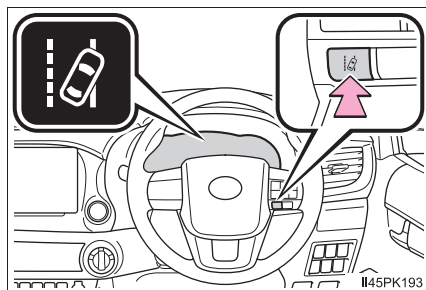
設定のしかた

LDA を ON するには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF には、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ヨーアシスト機能が作動中

黄色に点灯：LDA システム異常時または LDA システム一時使用不可時

黄色に点滅：車線逸脱警報中

② ヨーアシスト機能の作動表示

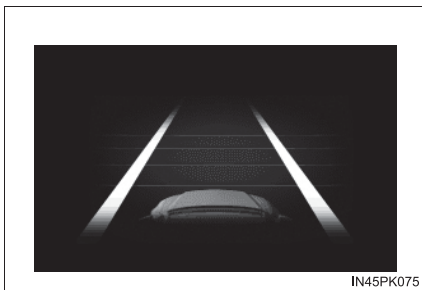
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

ヨーアシスト機能が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が黄色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能


次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線または走路[※]を認識しているとき（白〔黄〕線または走路[※]が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 194）

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界


● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で「ヨーアシスト」を「ON」に設定しているとき（→ P. 81）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC / A-TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC / A-TRC または VSC を OFF にしていないとき

● ぶらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  で「ぶらつき検知」を「ON」に設定しているとき（→ P. 81）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 194）

■ 機能の一時解除

- 作動条件（→ P. 192）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱抑制機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- この機能によるヨーアシストは、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。
- 車線逸脱抑制機能作動中に、ブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報が作動しない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が黄色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LDA 故障 販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LDA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。

短時間に車線または走路[※]からの逸脱を繰り返したため、システムが一時停止しています。エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

●「LDA 現在の車速では使用できません」

車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

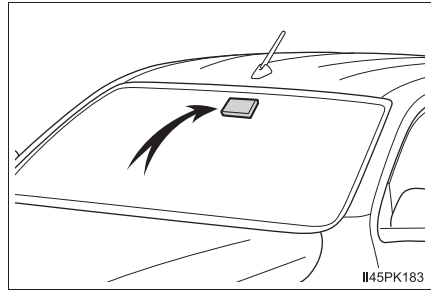
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 386)

RSA (ロードサインアシスト)

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

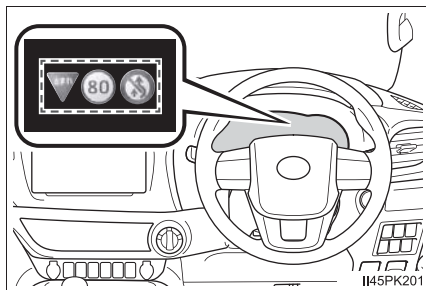
■ RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

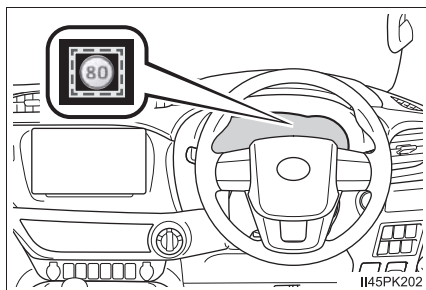
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 走行支援機能情報画面を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P. 81）



- 走行支援機能情報画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。
 - ・ 最高速度標識
 - ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



はみ出し通行禁止



車両進入禁止



終わり※



一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能


次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■ 設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  で「RSA」を「ON」に設定しているとき（→ P. 81）

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウィンドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: → P. 389)

レーダークルーズコントロール

機能概要

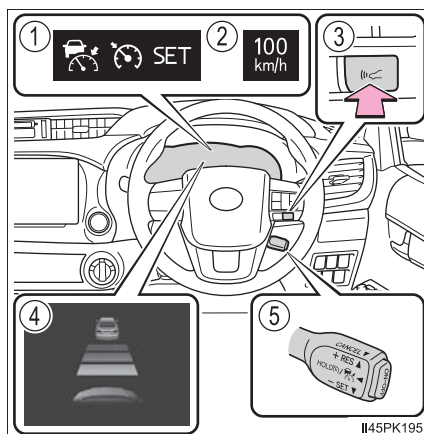
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→ P. 203)
- 定速制御モード (→ P. 208)

システムの構成部品

- ① 表示灯
- ② 設定速度
- ③ 車間距離切りかえスイッチ
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ



 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→ P. 211
- ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 212
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

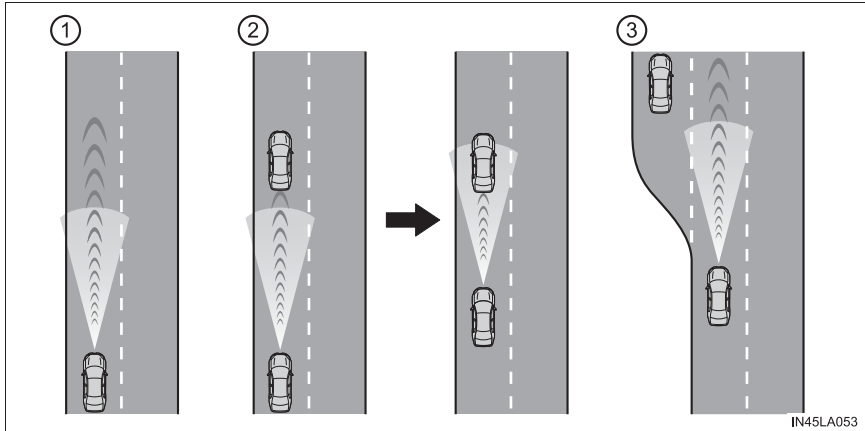
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



- ① 定速走行：
先行車がないとき
運転者が設定した速度で定速走行します。
- ② 減速走行—追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の车速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。
車速が約 80km/h 以上で自車が走行している車線より右車線へ車線変更する場合、方向指示レバーと連動して設定速度まで早めに加速することで、追い越しを支援します。
- ③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

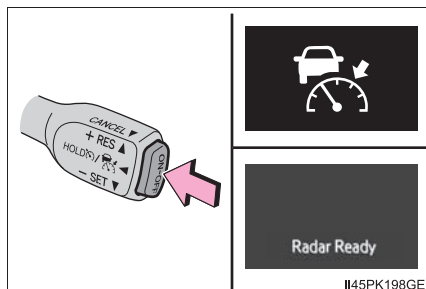
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFFにするには再度スイッチを押します。

ON-OFFスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P. 208）

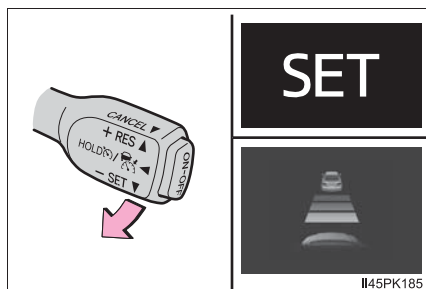


II45PK198GE

- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



II45PK185

設定速度をかえる

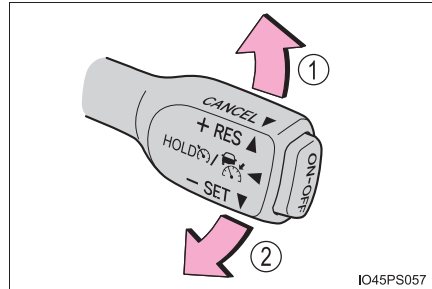
● レバーで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

- ① 速度を上げる
- ② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 208）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

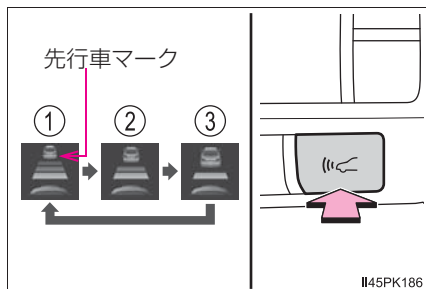
● アクセルペダルで設定速度を上げる

- ① 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- ② レバーを下げる

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い



車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

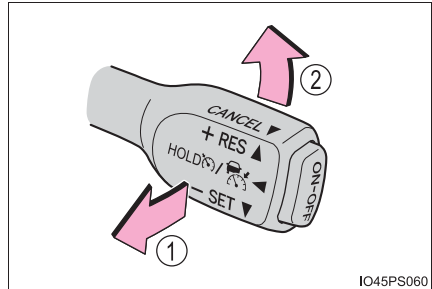
（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

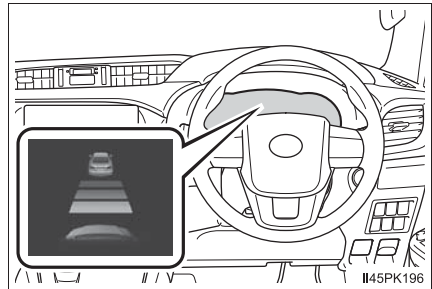
- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる
ただし、車速が約 25km/h 未満のときは、復帰しません。



I045PS060

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



I145PK196

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

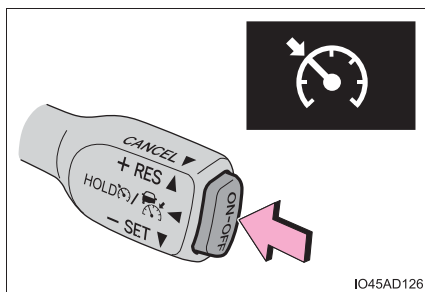
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

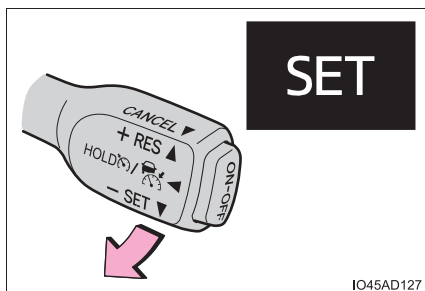


- 2 希望の車速（約 30 km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 205）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 207）



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 制御モードによって、設定できる車速は次のとおりです。
 - ・ 車間制御モード：約 30km/h 以上のとき
 - ・ 定速制御モード：約 30km/h 以上のとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 25km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC / A-TRC が一定時間作動したとき
- TRC / A-TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- トランスファースイッチ操作後、約 5 秒以上切りかえ中が続いたとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC / A-TRC が一定時間作動したとき
- TRC / A-TRC または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- トランスファースイッチ操作後、約 5 秒以上切り替え中が続いたとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

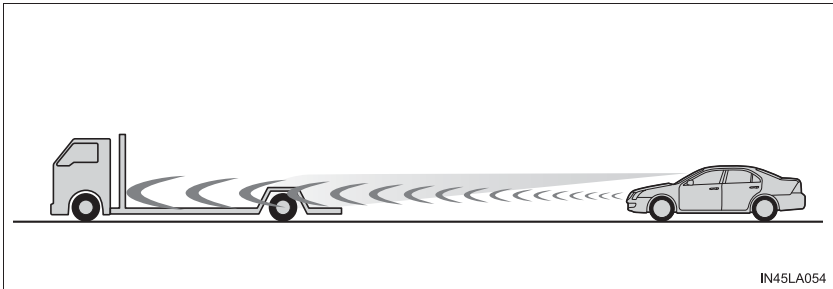
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→ P. 174, 344)

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

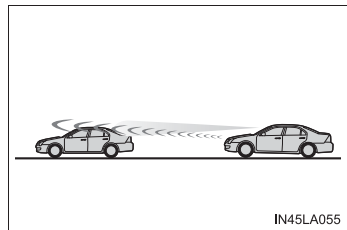
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 207）も作動しないおそれがあります。

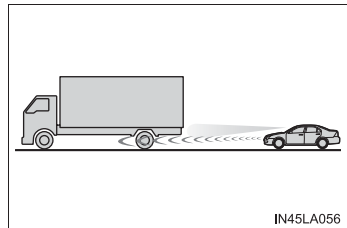
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

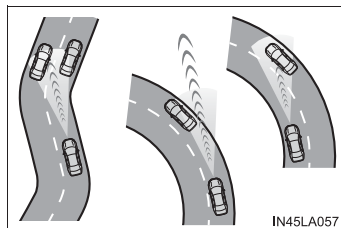


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

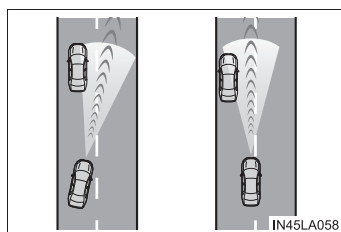
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



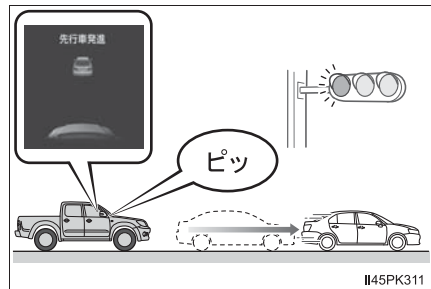
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



 知識

■ 作動条件

シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているときに作動します。

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があります

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

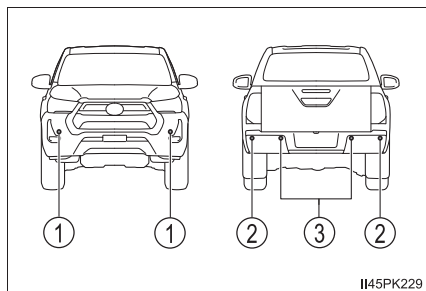
- 先行車発進告知機能の ON / OFF
システムの ON / OFF を切りかえることができます。（→ P. 85）
- 先行車発進告知機能の告知距離
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 85）

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と静止物とのおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

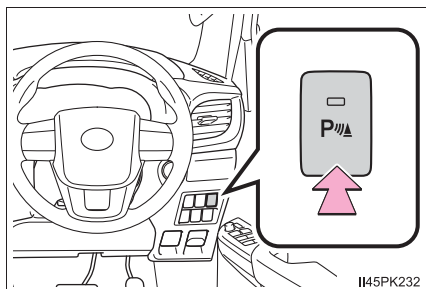
- ① フロントコーナーセンサー
- ② リヤコーナーセンサー
- ③ リヤセンターセンサー



クリアランスソナーの切りかえ

クリアランスソナーの ON（作動）・OFF（停止）を設定することができます。

クリアランスソナーが ON（作動）のときは表示灯が点灯し、OFF（停止）にするには再びスイッチを押します。

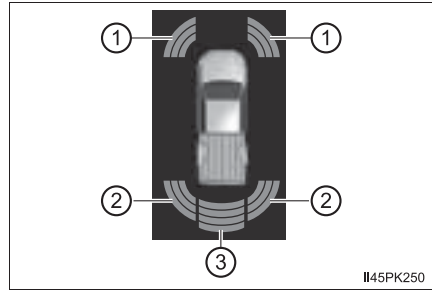


クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② リヤコーナーセンサー作動表示
- ③ リヤセンターセンサー作動表示



距離表示の見方

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイの作動表示が点灯または点滅します。

マルチインフォメーション ディスプレイ※	静止物までのおおよその距離	
	フロントコーナーセン サー	リヤセンター&リヤ コーナーセンサー
 (点灯)	—	リヤセンター センサー： 約 150cm ~ 80cm
 (点灯)	約 60cm ~ 45cm	リヤセンター センサー： 約 80cm ~ 70cm リヤコーナーセンサー： 約 60cm ~ 50cm
 (点灯)	約 45cm ~ 35cm	リヤセンター センサー： 約 70cm ~ 60cm リヤコーナーセンサー： 約 50cm ~ 40cm
 (点滅)	約 35cm 以下	リヤセンター センサー： 約 60cm 以下 リヤコーナーセンサー： 約 40cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、表示により異なります (→ P. 217)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

■ フロント側またはリヤ側のみで静止物を検知しているとき

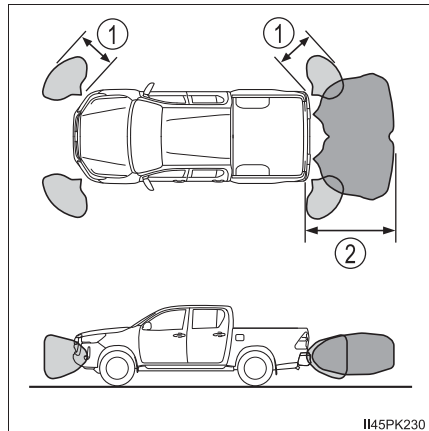
- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサー：約 35 cm 以下
 - ・ リヤコーナーセンサー：約 40 cm 以下
 - ・ リヤセンターセンサー：約 60 cm 以下
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

静止物を検知できる範囲

- ① 約 60cm
- ② 約 150cm

検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



II45PK230

 知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナー&リヤセンターセンサー：
 - シフトレバーが R にあるとき

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 人や動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

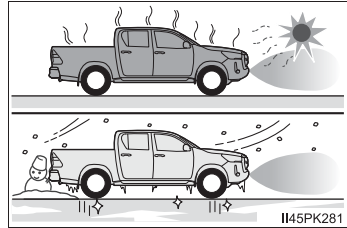
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時

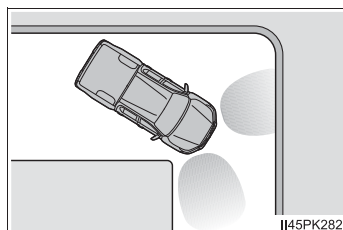


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

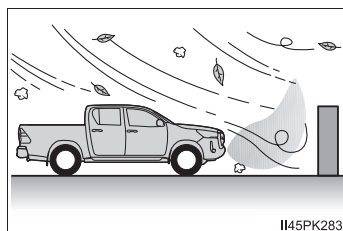
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

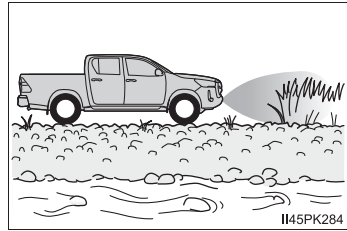


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー通信異常 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 387)

 **警告****■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 **注意****■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

4WD システム

トランスファースイッチを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

① H2 (ハイレンジ 2WD)

市街地や高速道路などの乾燥した舗装路面を一般走行する場合に使用します。

通常はこの位置で使用します。

② H4 (ハイレンジ 4WD)

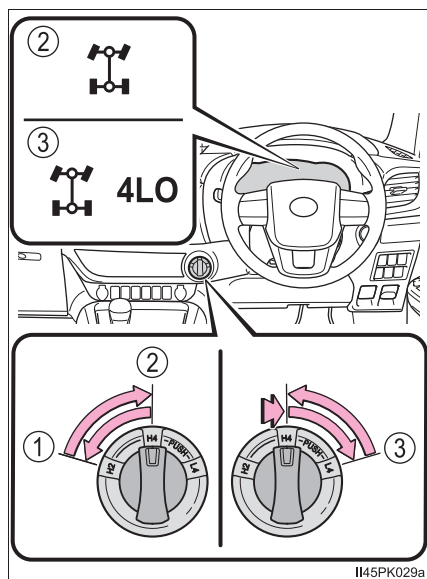
悪路・氷雪路・砂地など、すべりやすい路面を走行する場合に使用します。

4WD 表示灯が点灯します。

③ L4 (ローレンジ 4WD)

悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などで特に大きな駆動力を必要とするときなどや急な降坂路を走行するときに使用します。

4WD 表示灯・L4 作動表示灯が点灯します。



A.D.D. (オートマチックディスコネクティングディファレンシャル)

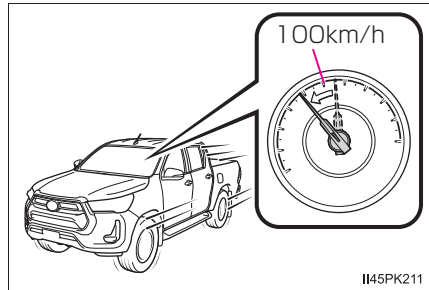
トランスファーレンジの切りかえ操作 (→ P. 227) に従って、自動的に動力の断続を行います。

トランスファーレンジの切りかえ

■ H2 から H4 への切りかえ

- 1** 車速が 100km/h 以下であることを確認する

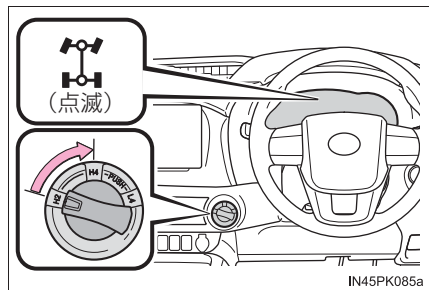
100km/h以上で走行しているときは、トランスファーレンジの切りかえができません。



- 2** トランスファースイッチを右 (H4) へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、4WD 表示灯が点滅します。

100km/h以上で走行しているときにトランスファースイッチを操作すると、4WD 表示灯が点滅してブザーが鳴ります。100km/h 以下に減速するか、トランスファースイッチを H2 にもどして、手順**1**からやり直してください。



- 3** 4WD表示灯が点灯したことを確認する

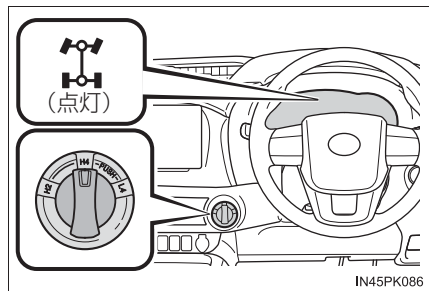
4WD 表示灯が点灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

トランスファースイッチの操作後に 4WD 表示灯が点滅したままのときは、直進走行中に次のいずれかの操作を行ってください。

- ・ 加速する
- ・ 減速する
- ・ 後退する

停車状態でトランスファースイッチの操作をしたとき、4WD 表示灯が点滅したままになる場合があります。次のいずれかの操作を行ってください。

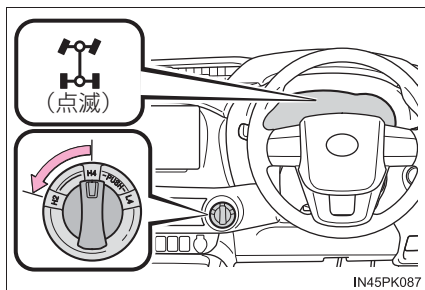
- ・ 前進する
- ・ 後退する



■ H4 から H2 への切りかえ

- 1 トランスファースイッチを左 (H2) へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、4WD 表示灯が点滅します。



- 2 4WD 表示灯が消灯したことを確認する

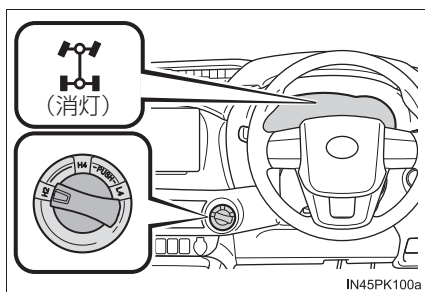
4WD 表示灯が消灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

トランスファースイッチの操作後に 4WD 表示灯が点滅したままのときは、直進走行中に次の操作を行ってください。

- ・ 加速する
- ・ 減速する
- ・ 後退する

操作後も表示灯が点滅したままの場合は、ハンドルを左右にまわしながら上記の操作を行ってください。

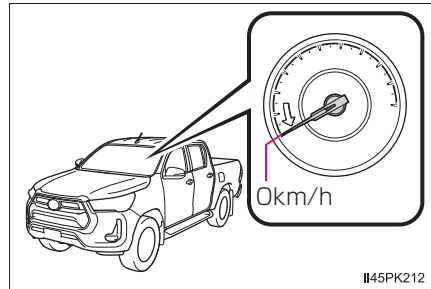
切りかえ時に車体やハンドルに衝撃を感じるがありますが、異常ではありません。



■ H4 から L4 への切りかえ

1 車両を完全に停止させる

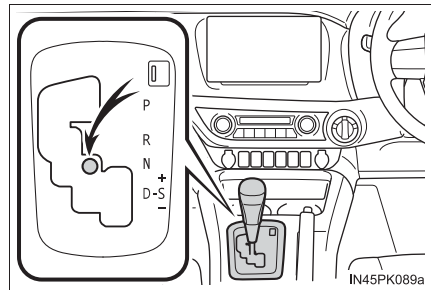
車両が動いているときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。



2 シフトレバーを N にする

トランスファーレンジの切りかえが完了する（L4 作動表示灯が点灯する）まで、シフトレバーを N にしておきます。

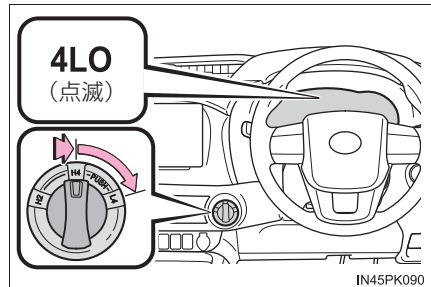
シフトレバーが N 以外ときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。



3 トランスファースイッチを押しながら右（L4）へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、L4 作動表示灯が点滅します。

手順 1～手順 2 を実施せずにスイッチをまわすと、L4 作動表示灯が点滅するとともにブザーが鳴ります。トランスファースイッチを H4 にもどして手順 1 からやり直してください。

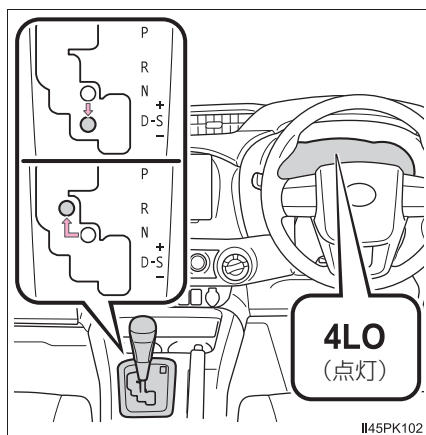


L4 作動表示灯の点滅中にシフトレバーを N 以外に入れると、ギヤ鳴りが発生します。ただちにシフトレバーを N にして、切りかえが完了するまでお待ちください。

4 L4 作動表示灯が点灯したことを確認する

L4 作動表示灯が点灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

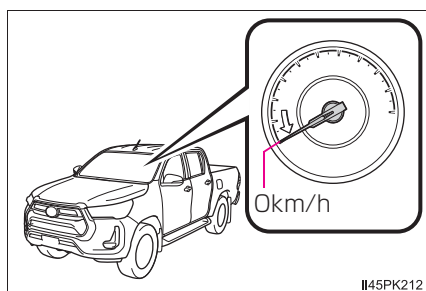
ブレーキペダルを踏んでシフトレバーを N から D または R に入れ、走行してください。



■ L4 から H4 への切りかえ

1 車両を完全に停止させる

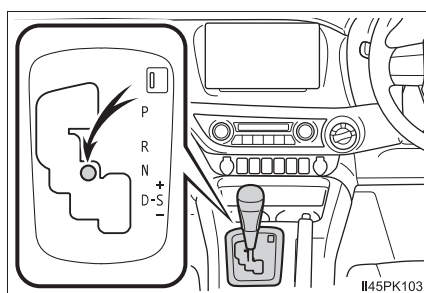
車両が動いているときは、トランスファーレンジを切りかえることができません。



2 シフトレバーを N にする

トランスファーレンジの切りかえが完了する (L4 作動表示灯が消灯する) まで、シフトレバーを N にしておきます。

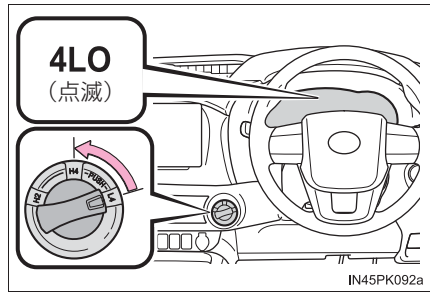
シフトレバーが N 以外の場合は、トランスファーレンジを切りかえることができません。



3 トランスファースイッチを左 (H4) へまわす

トランスファーレンジの切りかえ中は、L4 作動表示灯が点滅します。

手順①～手順②を実施せずにスイッチをまわすと、L4 作動表示灯が点滅するとともにブザーが鳴ります。トランスファースイッチを L4 にもどして手順①からやり直してください。

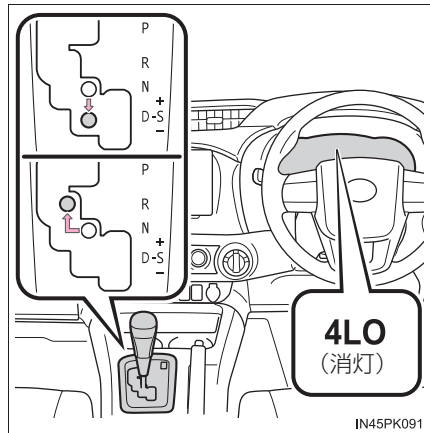


L4 作動表示灯の点滅中にシフトレバーを N 以外に入れると、ギヤ鳴りが発生します。ただちにシフトレバーを N にして、切りかえが完了するまでお待ちください。

4 L4 作動表示灯が消灯したことを確認する

L4 作動表示灯が消灯したら、トランスファーレンジの切りかえは完了です。

ブレーキペダルを踏んでシフトレバーを N から D または R に入れ、走行してください。



⚠ 注意

■ H4-L4 間の切りかえについて

L4 作動表示灯が点滅しているときは、シフトレバーを N 以外に入れたり、アクセルペダルを踏んだりしないでください。ギヤ鳴りが発生し故障の原因になります。

 知識

■ 4WD 走行について

前輪駆動部品のオイルを循環させるため、月に少なくとも 16km 程度は 4WD 走行を行ってください。

■ H2-H4 間の切りかえについて

外気温が低いときは、トランスファーモードの切りかえができないことがあります。その場合は速度をさらに低くするか、車両を停止させてから切りかえてください。

■ L4 へ切りかえると

VSC が自動的に OFF になります。

■ 乾燥した舗装路面および高速道路を走行するとき

H2 で走行してください。H4 または L4 で長時間走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従ってください。

 警告

■ 走行中の警告

- タイヤがスリップしているときは、絶対にトランスファースイッチを H2 から H4 へ切りかえないでください。タイヤのスリップや空転が止まってから、トランスファースイッチを操作してください。
- 乾燥した舗装路面および高速道路では、必ず H2 で走行してください。H4 または L4 で走行すると駆動系部品に悪影響を与え、駆動系のオイルもれや焼き付きなどにより、思わぬ事故につながる可能性があります。また、タイヤの早期摩耗や燃料消費量の悪化につながる可能性があります。
- H4 または L4 での急旋回は避けてください。急旋回した場合、タイトコーナーブレーキング現象（ブレーキをかけた状態と同じような現象）を起こし、運転しにくくなります。これは前・後輪の回転差のため起きる現象で、異常ではありませんが、危険なため避けてください。

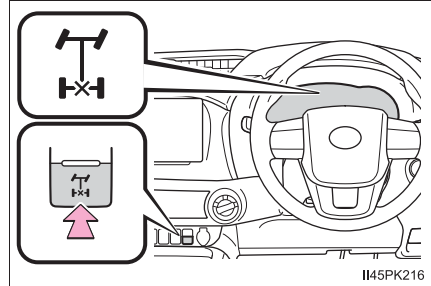
リヤデフロック

リヤデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときのみ使用する、緊急脱出用の装置です。特に後輪が空転しているときに効果を発揮します。

ON / OFF を切りかえる

スイッチを押すと、リヤデフロック状態になり、リヤデフロック作動表示灯が点灯します。

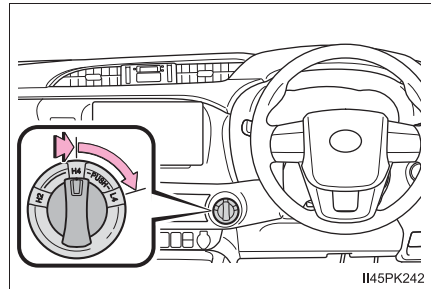
もう一度押すと、リヤデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。



リヤデフロックの使い方

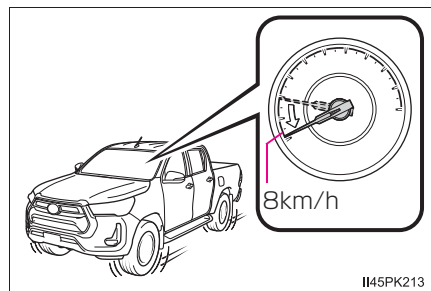
- 1 リヤデフロックを使用する前に、トランスファースイッチをL4に切りかえて脱出を試みる(→ P. 229)

それでも脱出できない場合は、リヤデフロックを使用してください。



- 2 車両を約8km/h以下に減速させる

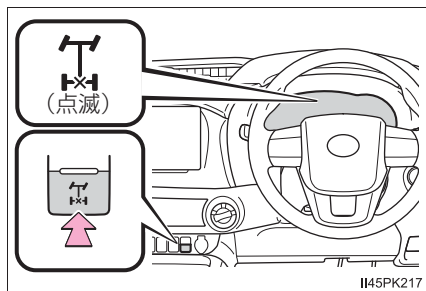
タイヤが空転していないことを確認する。



3 リヤデフロックスイッチを押す

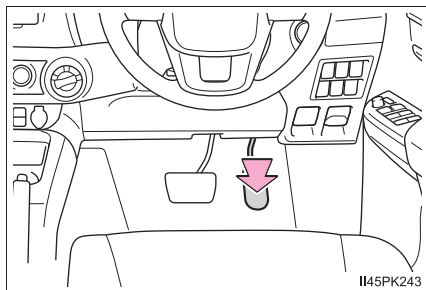
リヤデフロックの切りかえ中はリヤデフロック作動表示灯が点滅します。

手順①～手順②を実施せずにスイッチを押すと、リヤデフロック作動表示灯が3回点滅するとともにブザーが3回鳴り、リヤデフロック状態に切りかえることができません。手順①からやり直してください。



II45PK217

4 アクセルペダルをゆっくり踏み込む



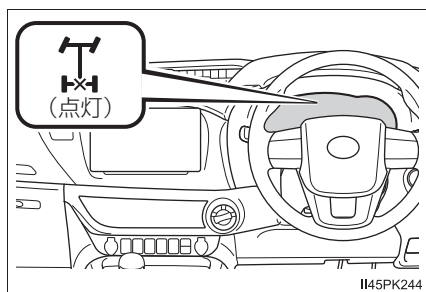
II45PK243

5 リヤデフロック作動表示灯が点灯したことを確認する

リヤデフロック作動表示灯が点灯したら、リヤデフロックの切りかえは完了です。

リヤデフロック作動表示灯が点滅したままのときは、ハンドルを左右にまわしながら次のいずれかの操作を行ってください。

- ・ 加速する
- ・ 減速する



II45PK244

脱出後は、再度リヤデフロックスイッチを押して、すみやかにリヤデフロック状態を解除してください。

 知識**■ リヤデフロック状態のとき**

リヤデフロック状態のときは、次のシステムが使用できません。このとき ABS 警告灯・VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されます。

- ・ ABS (アンチロックブレーキシステム)
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC (ピークルスタビリティコントロール)
- ・ TRC (トラクションコントロール) / A-TRC (アクティブトラクションコントロール)
- ・ ヒルスタートアシストコントロール
- ・ ダウンヒルアシストコントロールシステム

■ リヤデフロックの解除について

リヤデフロックを解除しても作動表示灯が点滅したままの場合は、車両が動いているときに、周囲の安全を確認の上、ハンドルを少しまわすと、リヤデフロック状態が解除されます。

■ リヤデフロック状態自動解除機能

次のいずれかの操作をすると、リヤデフロック状態が解除されます。

- トランスファースイッチを H2 または H4 にする
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする

■ リヤデフロック使用後は

リヤデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。

 **警告****■ 事故を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- すべりやすい路面や凹凸のある路面以外ではリヤデフロックを使用しない
ハンドルが重くなり、ハンドル操作が困難になります。

- タイヤの空転が止まるまでリヤデフロックを使用しない

空転が止まる前にリヤデフロックを使用すると、車が思わぬ方向に動くおそれがあり危険です。また、駆動系部品の損傷につながります。

- リヤデフロック状態では、車速約 8km/h 以上で走行しない
- リヤデフロックを ON にしたまま走行し続けない

Stop & Start システム

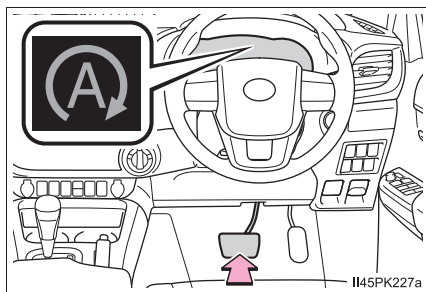
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

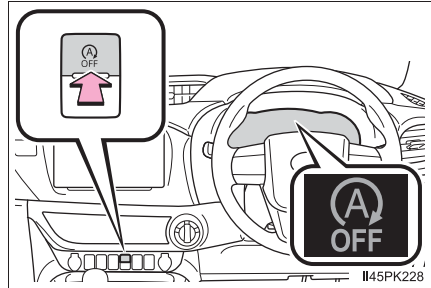
エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押して下さい。

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしている場合、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。


- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。



 知識

■ 使用にあたり知っておいていただきたいこと

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作(→P. 144)でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットなどが使用できないことがあります。異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 長時間停車する場合などには、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムの作動によるエンジン停止時は、ハンドルが重くなります。
- L4 モードでの走行中は、適切に Stop & Start システムが作動しないことがあるので、非作動にすることを推奨します。

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ 一度、走行したあと
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ シフトポジションが D のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 走行モードがノーマルまたはエコドライブモードのとき
 - ・ リヤデフロック状態が解除されているとき
 - ・  が OFF のとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 外気温が -5℃以上のとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき (→ P. 240)
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが異常ではありません
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ パワーヒーターを使用しているとき
 - ・ 定期的な充電中のとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき (例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化)
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ エンジン再始動後の経過時間が短いとき
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ エアコンを ON にしたとき
 - ・  を ON にしたとき
 - ・ パワーヒーターを ON にしたとき
 - ・ シフトポジションを D または P 以外にしたとき
 - ・ シフトポジションを P 以外にしたとき (P レンジで Stop & Start システムによるエンジン停止中)
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ 走行モードをノーマルまたはエコドライブモード以外にしたとき
 - ・ リヤデフロック状態のとき
 - ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ ハンドルを操作したとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ 坂道などで車両が動き出したとき
 - ・ 先行車が発進したとき (先行車発進告知機能有効時のみ)
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ エアコンに関わる操作をしたとき ( など)
 - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ ボンネットを開けたとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。(→ P. 144)
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

オート設定でエアコンを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

空調の効きを優先したいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- フロントウインドウガラスが曇ったとき


 を ON にしてください (→ P. 270)

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムの作動を非作動にしてください。

■ エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

メーターディスプレイの  画面 (→ P. 387) からエアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。(エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)





■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示



(→ P. 87)

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて





次のとき、メーターディスプレイに  と、メッセージが表示されることがあります。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われなとき

メッセージ	状況
 ブレーキをもう少し踏んでください	ブレーキペダルを踏む力が足りない → ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
 専用バッテリー非装着	Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある → Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。
 バッテリー充電中	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーの充電量が低下している可能性がある → バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・リフレッシュ充電中の可能性がある (参考シーン: バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだなど) → 最大1時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある → ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFFにして、30秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。 長期間(1時間以上)にわたって継続的に表示される場合はバッテリー劣化の可能性がります。トヨタ販売店に相談してください
 作動準備中	<ul style="list-style-type: none"> ・標高が高い ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下している → ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

メッセージ	状況
 エアコン優先	<ul style="list-style-type: none"> ・外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している → 設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能になります。 ・  を ON にしている ・ パワーヒータースイッチを ON にしている

- Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
 作動準備中	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキペダルを強く踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした → 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
 エアコン優先	<ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ・  を ON にした ・ パワーヒータースイッチを ON にした
 バッテリー充電中	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある → バッテリー充電を優先するため、エンジンが始動します。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

■ ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトポジションが D レンジでアイドリングストップ中に運転席ドアが開いたときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるには運転席ドアを閉めて下さい。

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリモードまたはエンジンスイッチがイグニッション ON モードにしてください。
- バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
 - ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 370

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ Stop & Start システムが作動しているとき**

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■ オフロード走行時の注意

水場のあるオフロードを走行するときは、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが再始動できなくなるおそれがあります。

 **注意****■ Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、または室内灯のメインスイッチがドアポジションのときにマップランプとリヤパーソナルランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、または室内灯のメインスイッチがドアポジションのときにマップランプとリヤパーソナルランプが点灯しないとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）※¹

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ A-TRC（アクティブトラクションコントロール）※²

すべりやすい路面での発進時・加速時に生じる車輪の空転を4輪別々に抑制するとともに、降坂時のエンジンブレーキ抜けによる加速を抑制し、車両の方向安定性と駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

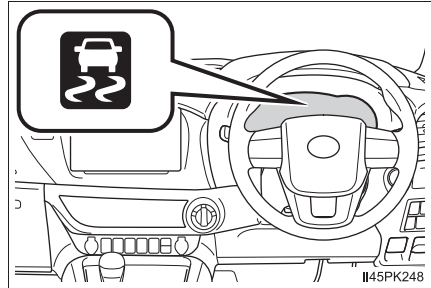
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

※¹ トランスファースイッチが H2 のとき


※² トランスファースイッチが H4 または L4 のとき

TRC / A-TRC・VSC が作動しているとき

TRC / A-TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




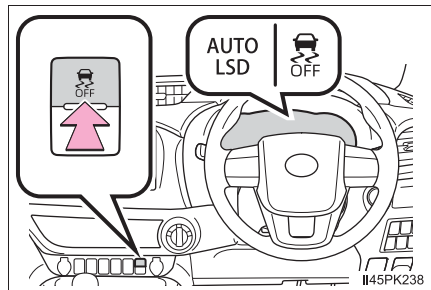
TRC / A-TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC / A-TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC / A-TRC を停止するには  を押す (AUTO LSD が ON になります※)

AUTO LSDとVSC OFFのインジケータが点灯します。


もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。




※ 2WD モードのときのみ、使用することができます。

 知識

■ TRC / A-TRC と VSC を停止するには

TRC / A-TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する。VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■  を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC / A-TRC・ダウンヒルアシストコントロールシステムが一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC / A-TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ TRC / A-TRC や VSC の自動復帰について

TRC / A-TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC / A-TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき (→ P. 247)

ただし、TRC / A-TRC と VSC の作動を停止している場合 (→ P. 248) は、車速による自動復帰はありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外 (前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

 **警告****■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC / A-TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC / A-TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ スリップ表示灯が点滅しているとき**

TRC / A-TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC / A-TRC や VSC を OFF にするとき

TRC / A-TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC / A-TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC / A-TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 385）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC / A-TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ダウンヒルアシストコントロールシステム

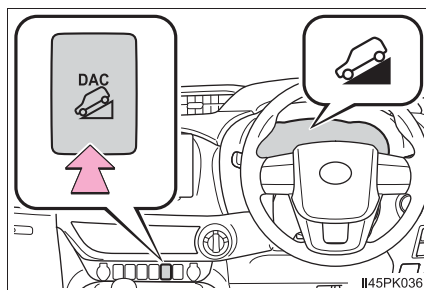
急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。システムはトランスファースイッチが L4 または H4 で、ブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC スイッチを押す

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば、作動可能状態です。

ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

DAC スイッチをもう一度押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

 知識**■ ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するとき**

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーがP以外のときに作動しますが、システムの効果を十分に発揮するために、前進時はSモードの1または2レンジにすることをおすすめします。

■ ダウンヒルアシストコントロールシステムが使用できないとき

- トランスファースイッチがH2のとき
- リヤデフロックを使用しているとき

■ ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

- 次のときはダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません
 - ・ トランスファースイッチがL4またはH4以外のとき
 - ・ リヤデフロックを使用しているとき
 - ・ シフトレバーがPにあるとき
 - ・ アクセルペダルまたはブレーキペダルを操作しているとき
 - ・ 車速が約30km/hをこえたとき
 - ・ ブレーキシステムが異常過熱したとき
- 次のときはダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します
 - ・ シフトレバーがNにあるとき
 - ・ ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときにDACスイッチを押したときダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■ 長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されます。(通常走行は可能です)

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、「TRC Off しました」が消えれば、システムが使用可能となります。

■ 作動音や振動について

- エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- スリップ表示灯が点灯する

警告

■ ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムを過信しないでください。車両の限界性能を高めるためのものではないため、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■ 正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 未舗装路


AUTO LSD


AUTO LSD はタイヤの片方のみが空転すると、TRC によりエンジンやブレーキを制御して駆動力を補助します。

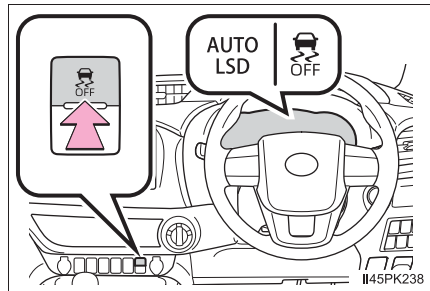
すべりやすい路面や凹凸のある路面などで片方のタイヤが空転した場合のみシステムを使用してください。

AUTO LSD を ON にするには

AUTO LSD は、2WD モードのときのみ、使用することができます。

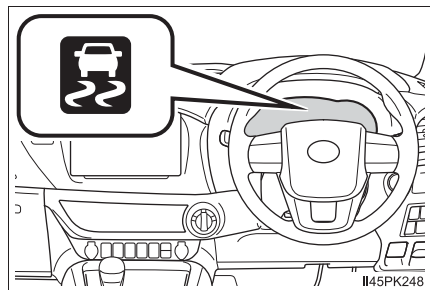
 を押すと AUTO LSD が ON になり、AUTO LSD と VSC OFF のインジケータが点灯します。

AUTO LSD を OFF にするには、もう一度、 を押します。



AUTO LSD が作動しているとき

タイヤが空転したときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。



 知識

■ エンジンを再始動したときは

AUTO LSD が停止し、表示灯は自動的に消灯します。

■ VSC の自動復帰について

AUTO LSD を ON にしている状態で車速が高くなると、VSC と TRC が自動的に作動可能状態にもどります。

■ ブレーキシステムが異常過熱したときは

AUTO LSD を頻繁に使用すると、ブレーキシステムの温度が上昇する事があります。このときは、警告ブザーが断続的に鳴るとともに AUTO LSD 表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。一時的に AUTO LSD が機能しなくなりますが、しばらくして AUTO LSD 表示灯が点灯すると、AUTO LSD は作動可能状態となります。また、この間の通常走行は可能です。

 警告

■ 事故を防ぐために

次のことをお守りいただかないと、ハンドルが重くなるため車のコントロールがしにくくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべりやすい路面や凹凸のある路面以外で AUTO LSD システムを使用しないでください。
- 常に AUTO LSD を ON にした状態で走行しないでください。

 注意

■ 運転中の作動について

タイヤがスリップしている状態で AUTO LSD を作動させないでください。タイヤのスリップを止めた状態にしてから、AUTO LSD を ON にしてください。

排出ガス浄化装置（DPF）

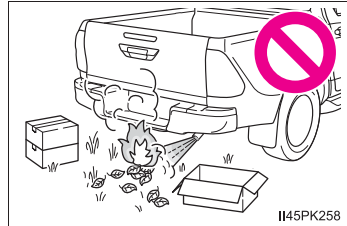
排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

警告

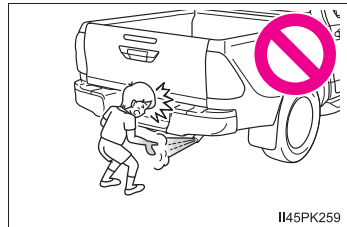
■ ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものや乾いた草などの近くに車を停車しない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼（再生）処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

注意

■ 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不可 販売店で点検してください」と表示 ※ されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などが無いか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

◆ 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百 km[※] 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生中」が表示されます。
- ススが規定量以上になったとき、燃焼処理を行うことができます。
(→ P. 259)

※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

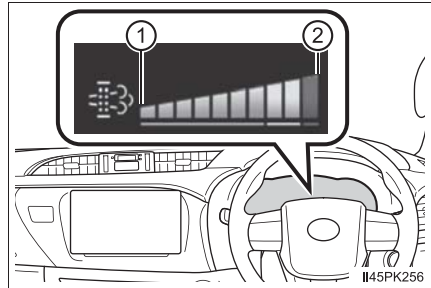
- 燃焼処理中はアイドル回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排ガス浄化装置堆積モニターについて

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。

排出ガス浄化スイッチを押したとき、または警告メッセージと一緒に表示されます。表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ① 少ない
- ② 多い



排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認ください」と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

▶ 走行して燃焼処理を行う場合

次の運転手順を推奨します。^{※1}

- ・ 継続運転（例：時速 60km で 20 ～ 30 分間）
- ・ 短い距離の走行を回避、または継続運転（長時間エンジンをかけたまま）

燃焼（再生）処理の運転を行う前にエンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、シフトダウンしてエンジン回転数を上げることでエンジンを暖めてください。^{※2}

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えます。運転の状況（渋滞など）によってはススがさらに堆積し、警告メッセージが消えないことがあります。運転後も警告メッセージが消えないときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。

- ^{※1} 走行時は道路交通法に従い、天候、路面状況、地形、交通状況を考慮し、十分に注意してください。
- ^{※2} 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでシフトダウンする必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

▶ スイッチを操作して燃焼処理を行う場合

- 1 車を安全な場所に停車する
- 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

エンジンは停止しないでください。

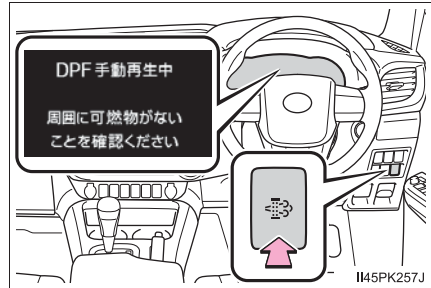
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。(→ P. 257)

エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。*1

- 3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、アイドル回転数が上がります。

燃焼(再生)処理が終了するまでに、約 15 ~ 40 分 *2 程度の時間が必要です。



燃焼(再生)処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドル回転数がもとにもどります。

*1 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼(再生)処理に時間がかかったり、燃焼(再生)処理ができなかったりする場合があります。

*2 燃焼(再生)に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから 10 分後のエンジン回転数が約 2000rpm のときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約 3000rpm までエンジン回転数を上げてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」と表示されたときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。(→ P. 259)
- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不可 販売店で点検してください」と表示 * されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

 知識

■ 燃焼処理について

- 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→ P. 381）

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドルリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示される場合があります。

 注意

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります[※]。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

[※] このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 306）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ 燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以上にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安 [※]
JIS 2 号軽油	- 5℃
JIS 3 号軽油	- 12℃
JIS 特 3 号軽油	- 19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA(レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]) を使用しない

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するとき

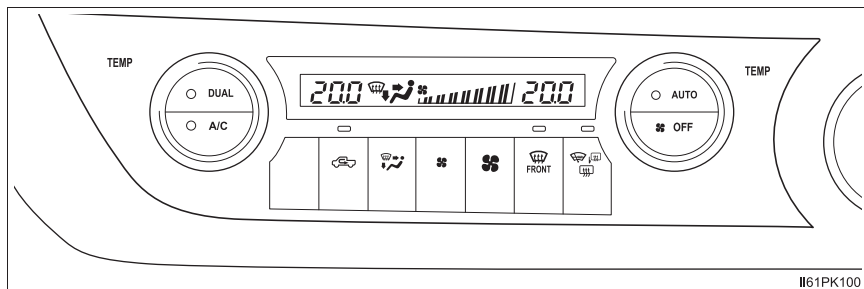
たたいて割らないでください。
ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

5-1. エアコンの使い方	
オートエアコン.....	268
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	275
・ パーソナルランプ/ インテリアランプ メインスイッチ.....	276
・ パーソナルランプ/ インテリアランプ.....	276
・ インテリアランプ.....	276
5-3. 収納装備の使い方	
収納装備一覧.....	278
・ グローブボックス.....	279
・ コンソールボックス.....	279
・ カップホルダー.....	280
・ ボトルホルダー.....	281
・ 小物入れ.....	282
荷台装備.....	284
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備.....	285
・ サンバイザー.....	285
・ バニティミラー.....	285
・ 時計.....	286
・ アクセサリーソケット.....	287
・ 買い物フック.....	288
・ コートフック.....	289
・ アームレスト.....	289

オートエアコン


設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作について




■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を、減らすときは  を押す

送風を止めるときは、 を押します。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右に、下げるときは左にまわす

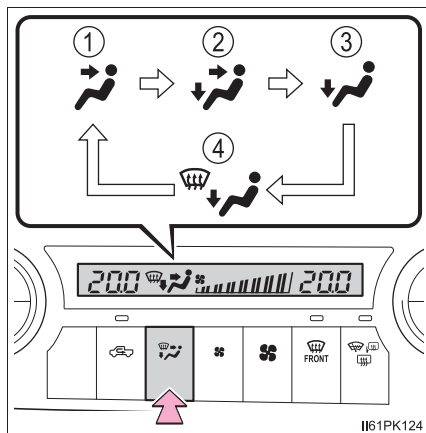
 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る




オート設定で使用する


- 1  を押す
- 2 温度を設定する
- 3  を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切りかわります。

エアコンが ON のときは、 の作動表示灯が点灯します。




ファンをとめたいときは、 を押します。

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、 の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

-  を押す
-  を右または左にまわして、助手席の設定温度を変更する
左右独立モードになり  の作動表示灯が点灯します。


その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



を押す

押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、の作動表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには




を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に切りかわる場合もあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。


フロントウィンドウガラスの除湿機能が ON のときは、の作動表示灯が点灯します。

■ リヤウィンドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウィンドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。



を押す

リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒーターが ON のときは、の作動表示灯が点灯します。


リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 ～ 60 分後に自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。



を押す

フロントワイパーデアイサーが ON のときは、の作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、約 15 ～ 60 分後に自動的に OFF になります。

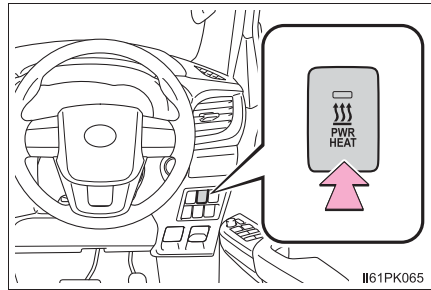
■ パワーヒーター

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときに使用してください。

パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す

パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

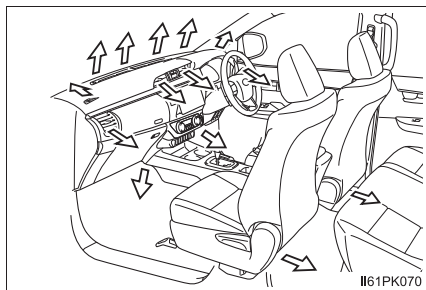
スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。



吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

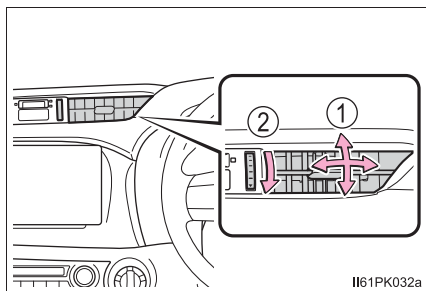
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

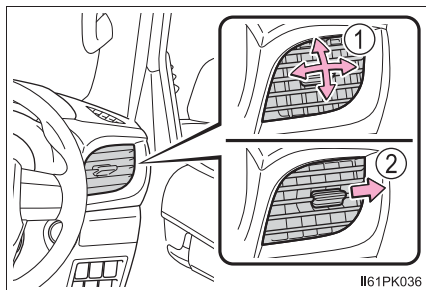
▶ 中央吹き出し口

- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口を閉じる




▶ 左右吹き出し口

- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口を閉じる





 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する
 - ・ エコドライブモードを解除する (→ P. 150)
 - ・ 設定温度を調整する

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて


- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

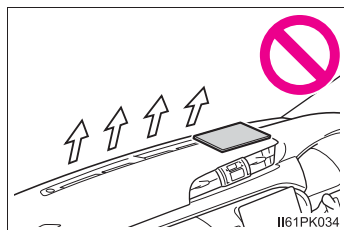
■エアコンフィルターについて

→ P. 312

⚠ 警告

■フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■リアウィンドウデフォグガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告

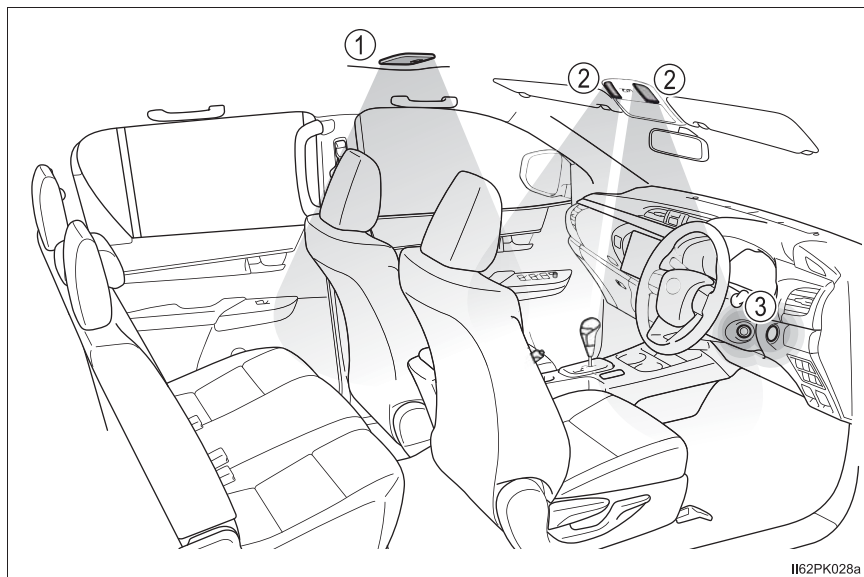
- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウィンドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

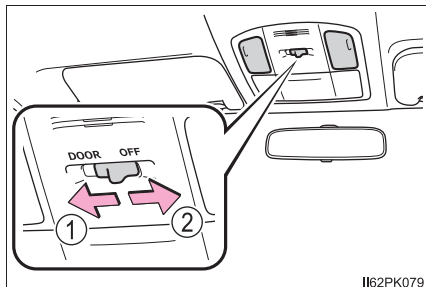
室内灯一覧



- ① インテリアランプ (→ P. 276)
- ② パーソナルランプ/インテリアランプ (→ P. 276)
- ③ エンジンスイッチ照明

パーソナルランプ／インテリアランプメインスイッチ

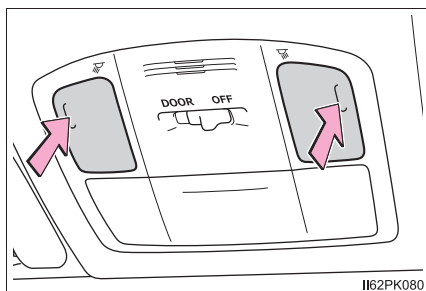
- ① ドアの開閉作動に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
- ② ランプを消灯する



I162PK079

パーソナルランプ／インテリアランプ

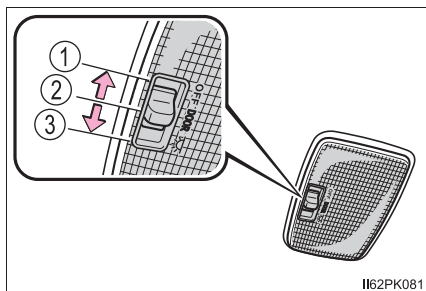
ランプを点灯・消灯する



I162PK080

インテリアランプ

- ① ランプを消灯する
- ② ドアの開閉作動に連動して、ランプ点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
- ③ ランプを点灯する



I162PK081

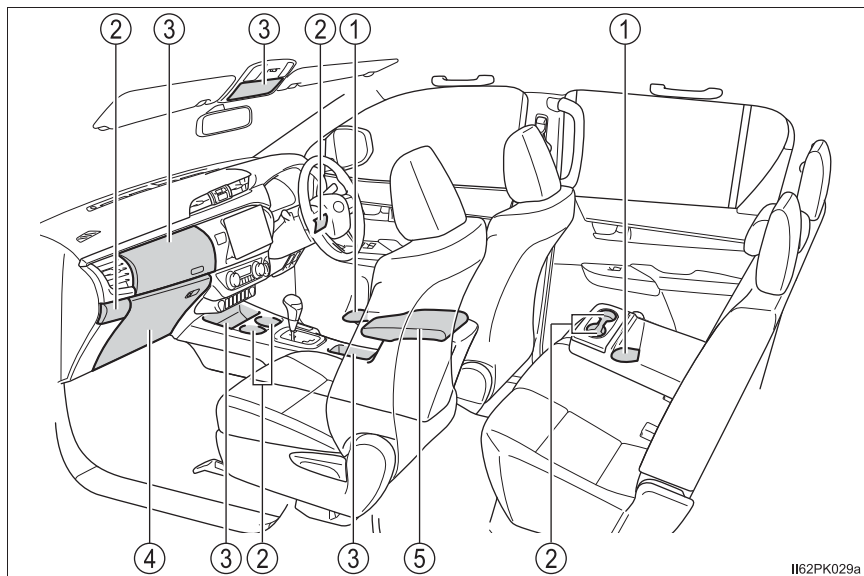
 知識

- イルミネーテッドエントリーシステム：
ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。
- エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



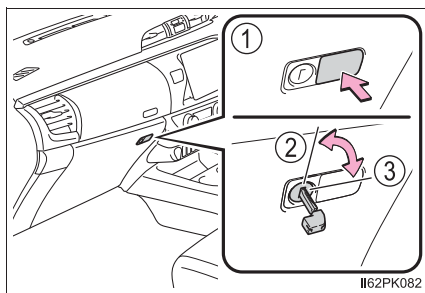
- ① ボトルホルダー (→ P. 281)
- ② カップホルダー (→ P. 280)
- ③ 小物入れ (→ P. 282)
- ④ グローブボックス (→ P. 279)
- ⑤ コンソールボックス (→ P. 279)

警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

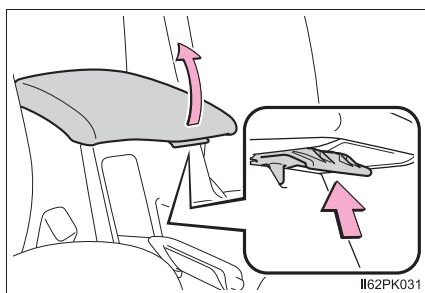
グローブボックス

- ① 開ける（ボタンを押す）
- ② メカニカルキーで解錠
- ③ メカニカルキーで施錠



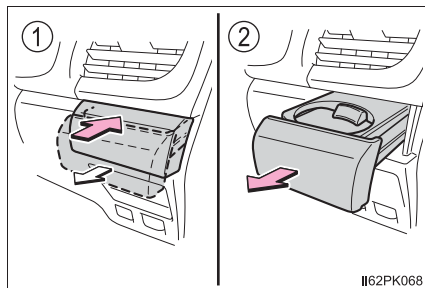
コンソールボックス

レバーを引きながらフタを持ち上げる



カップホルダー

▶ インストルメントパネル

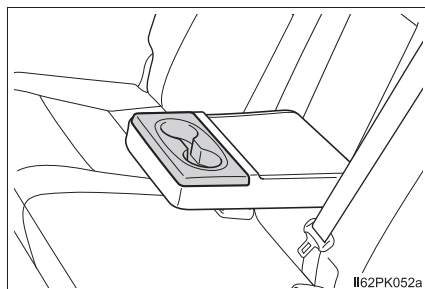


① 軽く押し込む

カップホルダーが少し飛び出します。

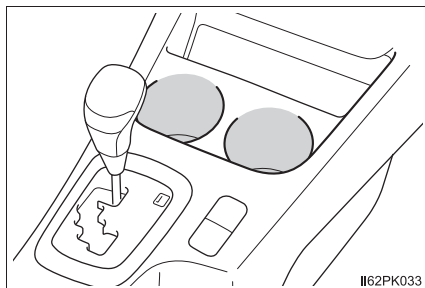
② 手前に引き出す

▶ リヤアームレスト



リヤアームレストを引き出す
(→ P. 289)

▶ シフトレバー前

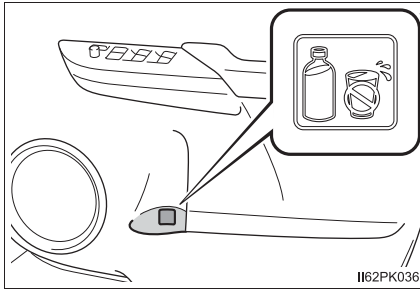


▲ 警告

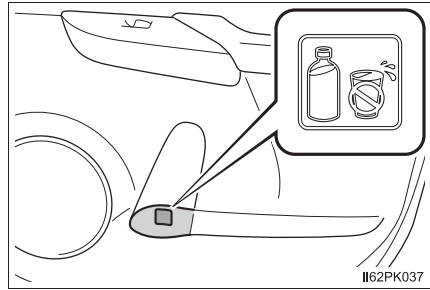
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ

**知識**

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

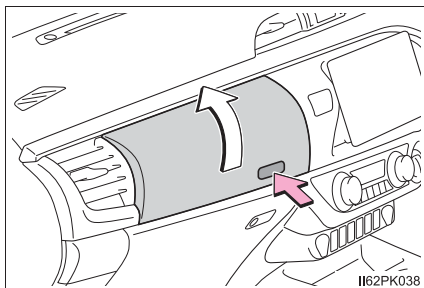
ボトルホルダーにはボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

注意

ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

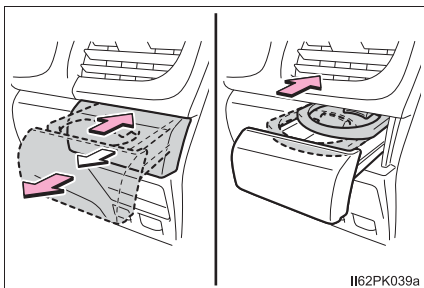
▶ 助手席アッパーボックス



II62PK038

ボタンを押して開ける

▶ インストルメントパネル

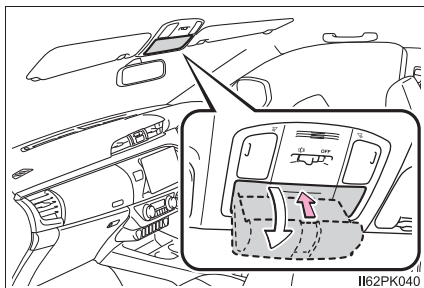


II62PK039a

カップホルダー (→ P. 280) の
リングを奥にしまう

カップホルダーを小物入れとして使
用できます。

▶ オーバーヘッドコンソールボッ クス

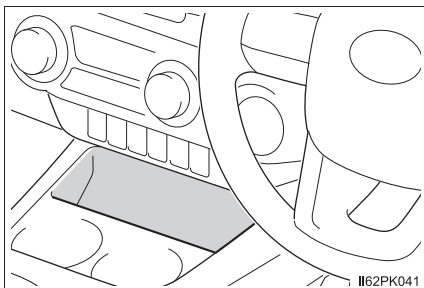


II62PK040

フタを押す

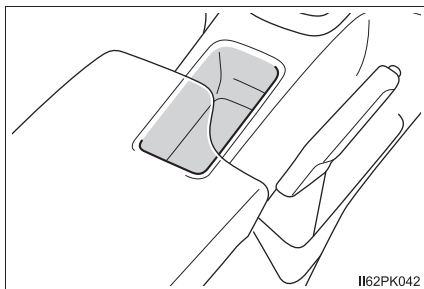
サングラスなどの小物を一時的に収納
するのに便利です。

▶ シフトレバー前



II62PK041

▶ コンソール部



II62PK042

知識

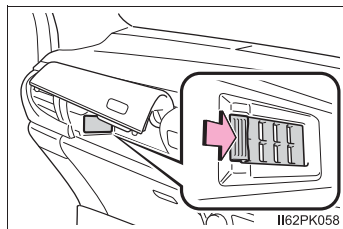
■ エアコン送風機能について（助手席アッパーボックス）

吹き出し口を開閉することで、エアコンの風を小物入れ内へ送風することができます。ただし、小物入れ内の温度はエアコンから吹き出す風の温度と同じにはならないため、極端な加熱や冷却はできません。湿度が高いときに使用する場合、収納したものが結露することがあります。

● エアコン送風機能を使用する

1 小物入れ内の吹き出し口を開ける

より多くの風を送る場合は、助手席側のエアコン吹き出し口を閉じてください。
（→ P. 272）



2 エアコンをONにし、 で、吹き出し口を または に切りかえる （→ P. 269）

3 設定温度を調整する（→ P. 268）

● エアコン送風機能を使用しないとき

小物入れ内の吹き出し口を閉じてください。

● 入れるものとして適さないもの

- ・ フタがされていない容器に入ったもの
- ・ 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
- ・ 取扱書・車検証など（エアコン送風機能使用時）

警告

● インストルメントパネル小物入れ：

小物入れとして使用する場合は、カップトレイを使用しないでください。小物入れにカップやアルミ缶、ペットボトルが置かれていると、急ブレーキや事故により落ちてけがををするおそれがあります。

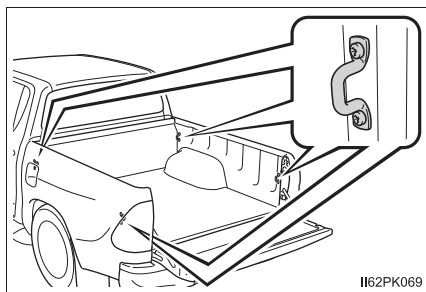
● オーバーヘッドコンソールボックス：

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷台装備

荷物固定用フック

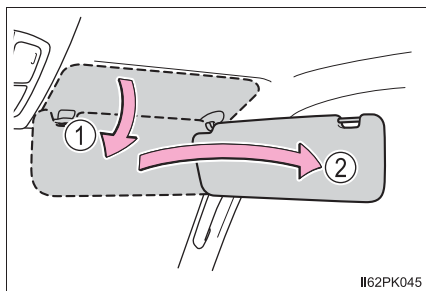
市販のネットやロープなどを使って荷物を固定することができます。



その他の室内装備

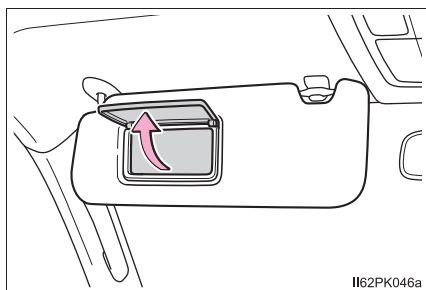
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーを開ける

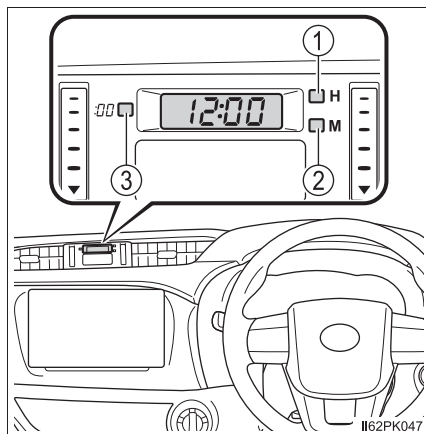


時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を00にする※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

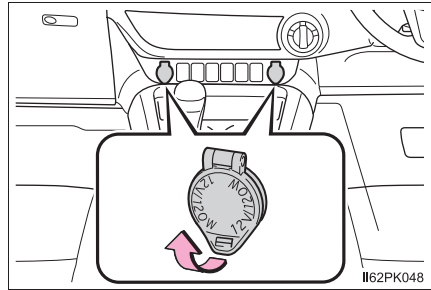
- 次のとき、時刻が表示されます。
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき
- バッテリー端子を脱着すると、時刻は自動で1:00にセットされます。

アクセサリースOCKET

DC12V / 10A（消費電力 120W）未滿の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリースOCKETに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未滿にしてください。

フタを開ける



知識

● 作動条件：

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

● エンジンスイッチを OFF にするとき：

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

● Stop & Start システムが作動しているとき

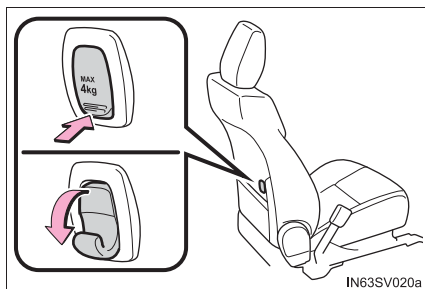
Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリースOCKETが使用できないことがあります。異常ではありません。

⚠ 注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- ヒューズが切れるのを防ぐために、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。
- バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間使用しないでください。

買い物フック

使用するときには、下側を押してフックを起こす



警告

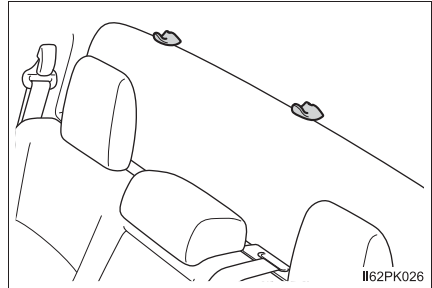
フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

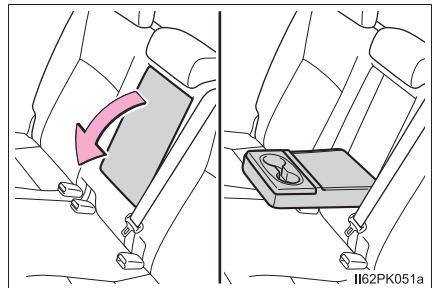
コートフック

コートフックは、リヤウインドウガラスの上に付いています。



アームレスト

手前に倒して使用します。



注意

破損を防ぐために、アームレストに過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	292
内装の手入れ.....	296

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	299
AdBlue [®] （尿素水）の 補充	301
ウォッシャー液の補充	305
タイヤについて	306
タイヤ空気圧について	310
エアコンフィルターの 交換	312
キーの電池交換.....	315
ヒューズの点検・交換	318
電球（バルブ）の交換	322

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

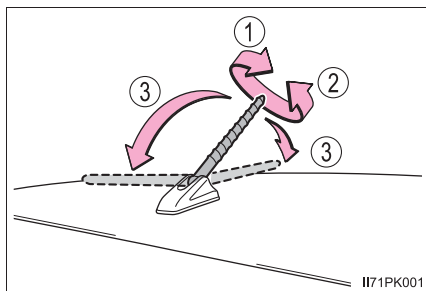
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて（ショートポールアンテナ装着車）

洗車時には、脱着または格納することができます。

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



1171PK001

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナ（ショートポールアンテナ装着車）を取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

ブレーキパッドやディスクローターが水に濡れた状態のまま駐車しておく、錆びて貼り付いたり、異音・振動が発生する原因になるおそれがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ メッキ部分のお手入れについて

メッキ部分の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

■ 塗装されたブレーキキャリパーのお手入れについて（GR SPORT）

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

 **警告****■ 洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ アンテナの取りはずしについて（ショートポールアンテナ装着車）

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

 **注意****■ 高圧洗浄機を使用するときは**

- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識■ **本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ **カーペットの洗淨**

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ **シートベルト**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 **警告**■ **車の故障や車両火災を防ぐために**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 35)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→ P. 170)

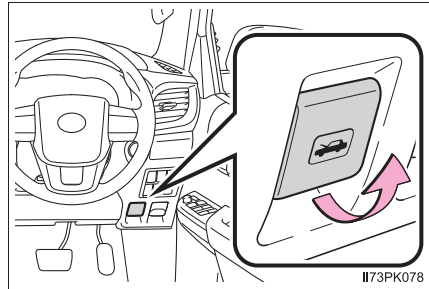
■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

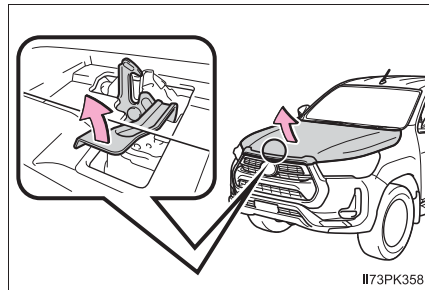
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。

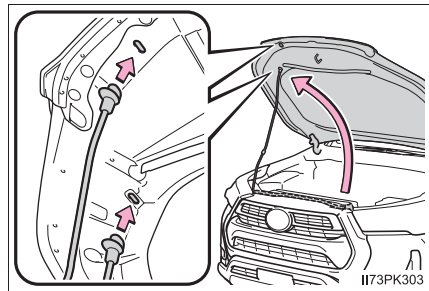


- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

通常は上側の穴を使用し、ボンネットを大きく開けたい場合は、下側の穴に挿し込みます。



警告**■ 走行前の確認**

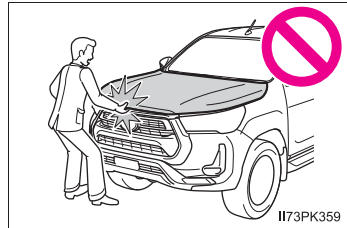
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

**■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

AdBlue[®]（尿素水）の補充

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] について、次のことにご留意ください。

- AdBlue[®] は走行に従って消費されます。
- AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。
- 補充する際は、トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

走行可能距離について

AdBlue[®] の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。AdBlue[®] の消費量が多くなると、AdBlue[®] の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

走行可能距離		
短 ^{※1}		長
[高負荷走行] ・ アクセルを深く踏み込んでいるとき ・ 長い上り坂を走行しているとき ・ 排出ガス浄化装置が働いているとき	[通常走行] ^{※2}	[低負荷走行] ・ 短距離を走行するとき ・ 渋滞のとき

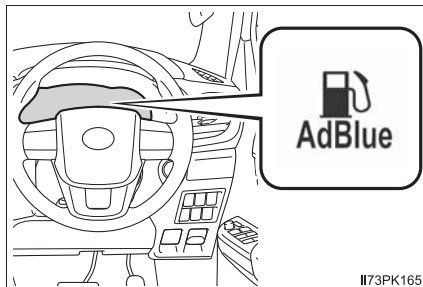
※1 高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue[®] の消費量が増加します。

※2 通常の走行では、約 600km 走行すると、1L の AdBlue[®] を消費します。また、最大まで補充した状態から約 10000km 走行すると、残量がなくなります。

AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージ（→ P. 302）と警告灯でお知らせします。

走行可能距離が約 2400km 以下になると警告灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。



II73PK165

■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
AdBlueが低下 2400km ^{※1} 以内に補充必要 取扱書を確認	AdBlue [®] をいっぱいまで補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
あと 800km ^{※1} で再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ^{※2}	ただちにAdBlue [®] をいっぱいまで補充してください。表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ^{※2}	ただちにAdBlue [®] をいっぱいまで補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

※1 走行距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。（→ P. 301）

※2 警告メッセージに合わせてマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。

知識

■ AdBlue[®] 残量表示

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示で AdBlue[®] の残量を確認することができます。(→ P. 83)

注意

■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき

AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。残量がなくなる前に AdBlue[®] をいっぱいまで補充してください。トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

緊急時にご自身で AdBlue[®] を補充する場合

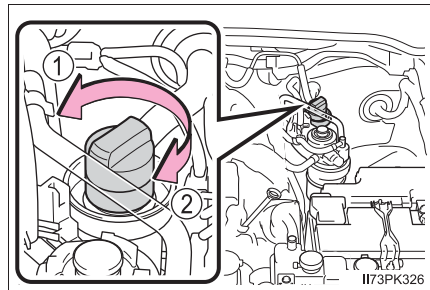
AdBlue[®] の残量がなくなってエンジンが始動できなくなってしまったときは、約 11.0L 以上の AdBlue[®] を補充することで、エンジンを始動することができます。次の手順で AdBlue[®] を補充してください。(AdBlue[®] タンク容量は 17.0 L です)

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを OFF にし、ボンネットを開ける (→ P. 299)

- 2 補給口のキャップを開け、あふれないようゆっくりと AdBlue[®] を補充する

- ① 開ける
- ② 閉める

キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



- 3 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

トヨタ販売店で AdBlue[®] をいっぱいまで補充することをおすすめします。

 知識**■ AdBlue[®] の補充について**

AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したもの) を使用してください。

AdBlue[®] (アドブルー) はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

■ AdBlue[®] を補充するとき

AdBlue[®] の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなる場合があります。

 注意**■ AdBlue[®] を補充するとき**

AdBlue[®] を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue[®] が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- AdBlue[®] をエンジンルームにこぼしてしまった場合は、水を含ませた布ですぐにふき取る

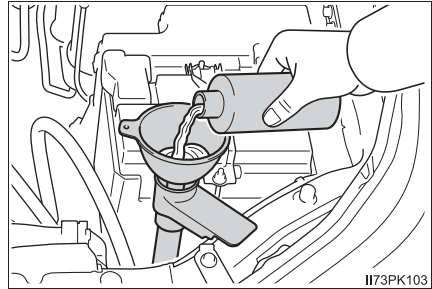
■ AdBlue[®] の保管について

AdBlue[®] を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue[®] の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] を車内に放置しない
- AdBlue[®] の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ラジエーターなどの高温部にかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を10,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

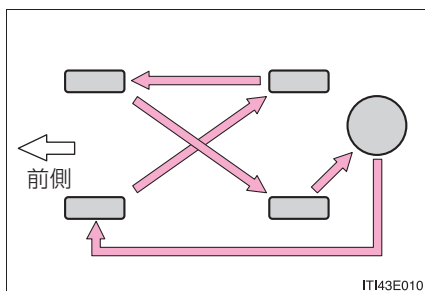
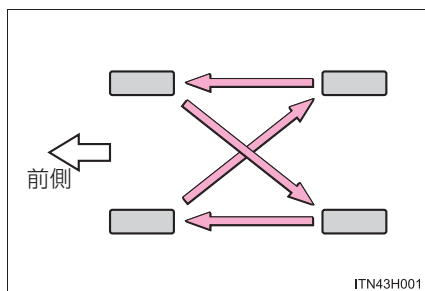
● タイヤの異常摩耗(極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど)の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

▶ フロント・リヤに装着されているタイヤとスペアタイヤとでホイールの種類が異なるとき

▶ フロント・リヤに装着されているタイヤとスペアタイヤとでホイールの種類が同一のとき



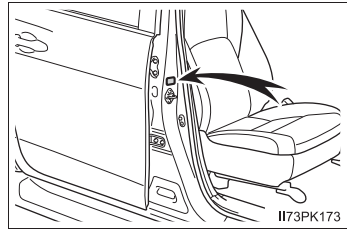
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
265/65R17 112S	空荷	200 (2.0)	200 (2.0)
	積荷	230 (2.3)	250 (2.5)
265/60R18 110H	空荷	210 (2.1)	200 (2.0)
	積荷	230 (2.3)	250 (2.5)

タイヤの指定空気圧は運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。


■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 359）
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 385)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

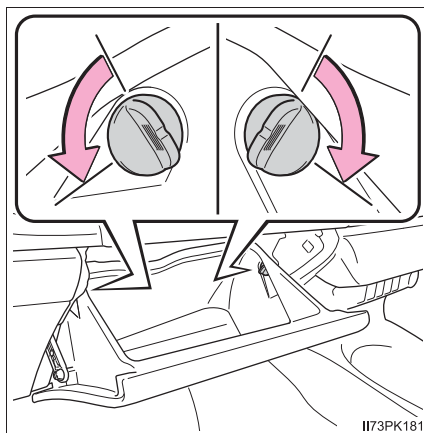
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

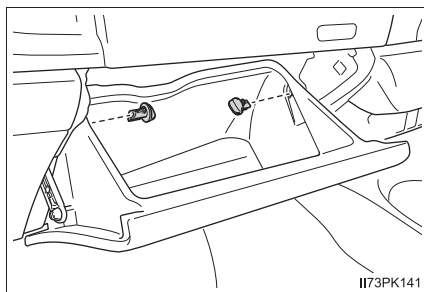
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

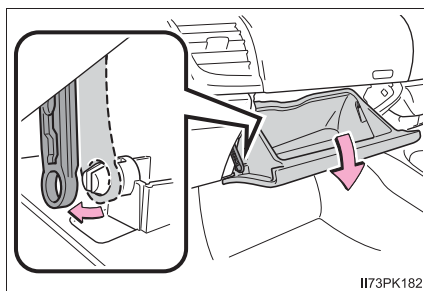
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、図の位置にあるクリップをまわす



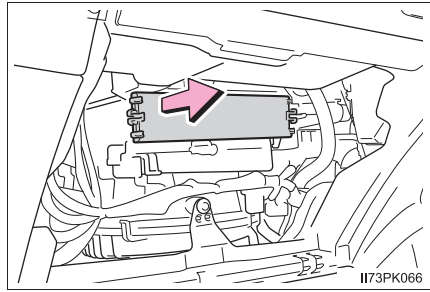
- 3 クリップを取りはずす



- 4 図のようにダンパーasteerをはずし、グローブボックスを取りはずす

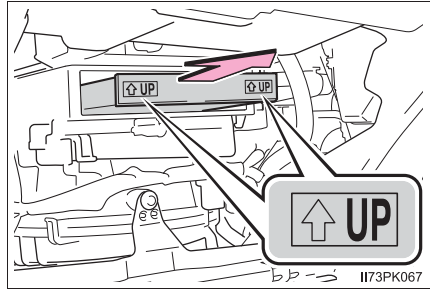


- 5 フィルターカバーを取りはずす



- 6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



 知識**■ エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

▶ 脱臭機能付きエアコンフィルター非装着車

20000km[10000km^{※1}] ごと

▶ 脱臭機能付きエアコンフィルター装着車

15000km[7500km^{※1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ^{※2}

^{※1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意**■ エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

キーの電池交換

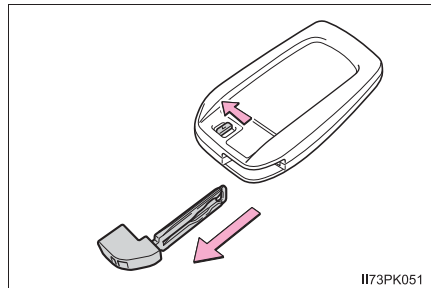
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

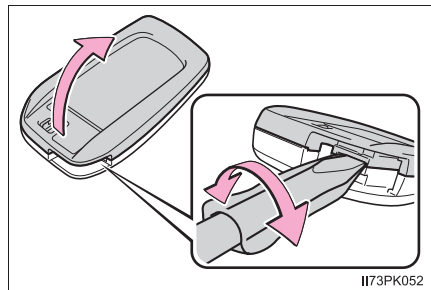
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

電池交換のしかた

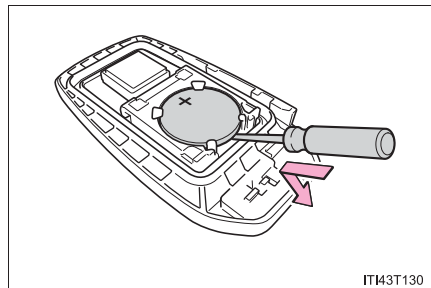
- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 消耗した電池を取り出す
新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け

 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 **注意****■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

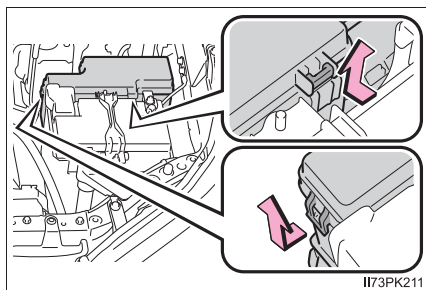
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

① エンジンスイッチを OFF にする

② ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム内

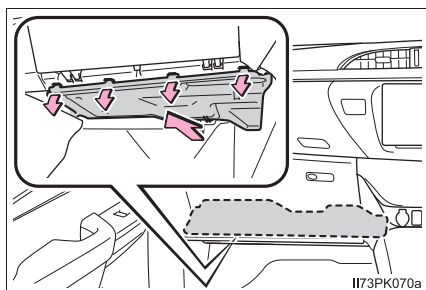
ロック（2箇所）をはずし、カバーを持ち上げる



II73PK211

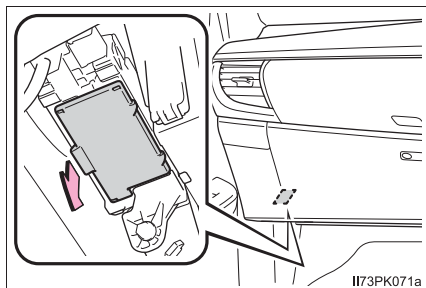
▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずす



II73PK070a

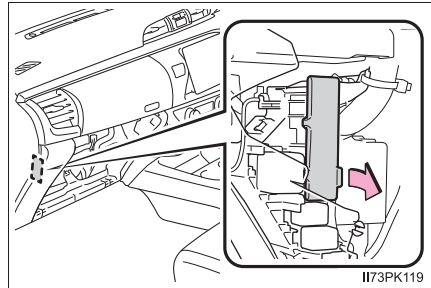
カバーを取りはずす



II73PK071a

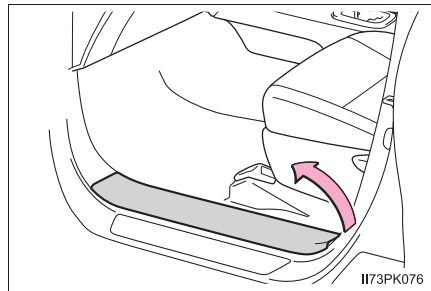
▶ グローブボックス奥

グローブボックス (→ P. 312)
を取り外し、カバーを取りはずす

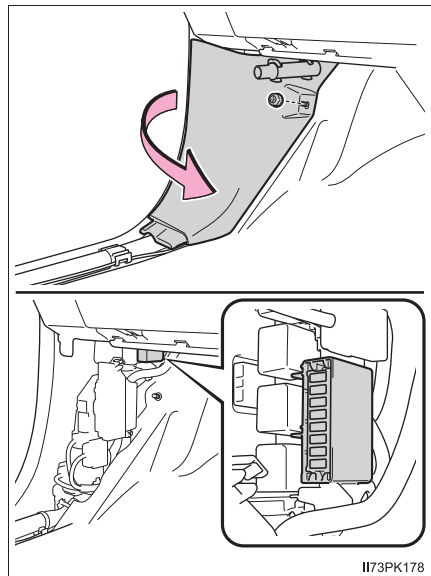


▶ カウルサイドパネル内

スカッフプレートを取りはずす

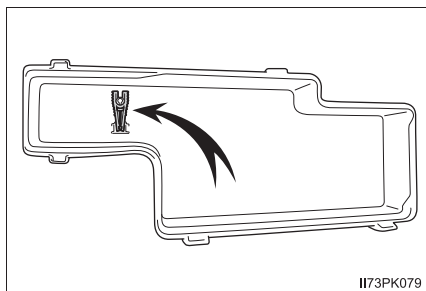


ナットを取りはずし、カウルサイド
パネルを取りはずす



- 3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスのカバーに付いています。

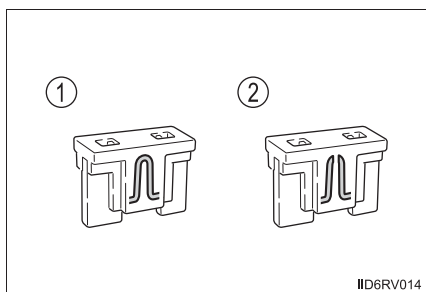


II73PK079

- 4 ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



IID6RV014

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 322)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 **注意****■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

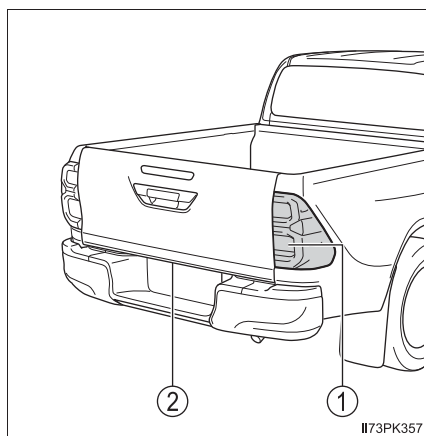
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 385）

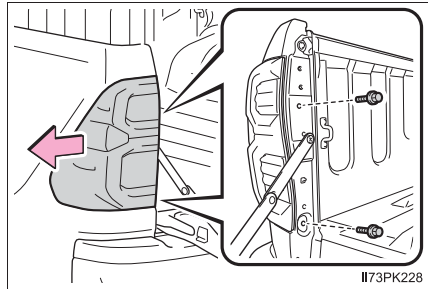
バルブ位置

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 番号灯

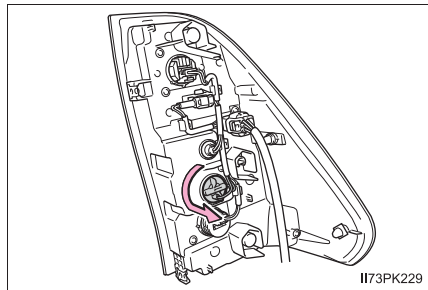


電球交換のしかた**■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯**

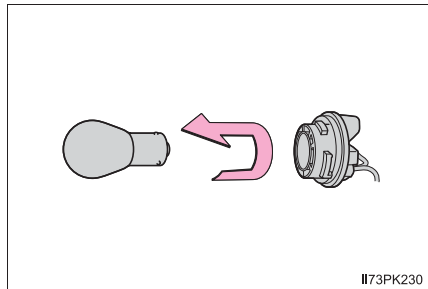
- 1 ネジ (2 本) をはずしてから車両側方に向かって引き、ランプ本体を取りはずす



- 2 ソケットを取りはずす



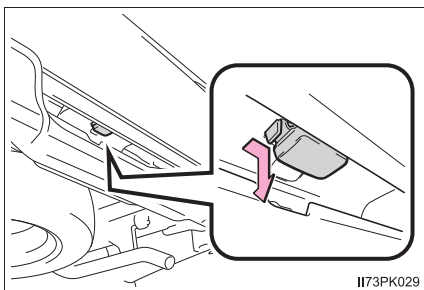
- 3 電球を取りはずす



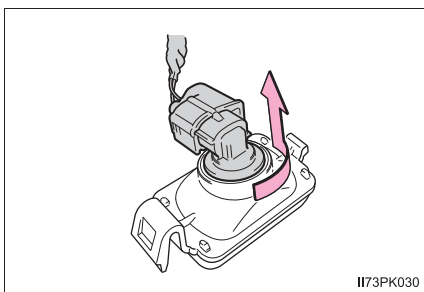
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

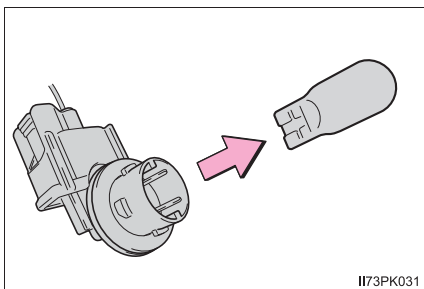
1 ランプ本体を取りはずす



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ハイビーム／ロービーム）
- 車幅灯
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- 制動灯
- 尾灯
- 後退灯／リヤフォグランプ
- ハイマウントストップランプ

知識

■ LED ランプについて

次のランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ハイビーム／ロービーム）
- 車幅灯
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- 制動灯
- 尾灯
- 後退灯／リヤフォグランプ
- ハイマウントストップランプ

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ 電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	328
非常点滅灯 (ハザードランプ)	329
発炎筒	330
車両を緊急停止するには	332
水没・冠水したときは	333
車中泊が必要なときは	334

7-2. 緊急時の対処法

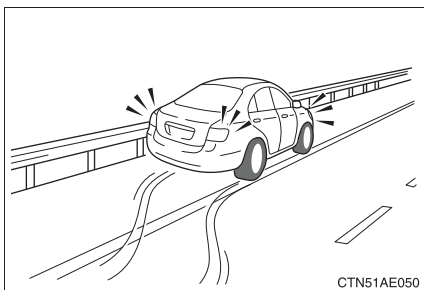
けん引について.....	335
警告灯がついたときは	340
警告メッセージが 表示されたときは	344
パンクしたときは.....	350
エンジンが かからないときは	364
電子キーが正常に 働かないときは	366
バッテリーが あがったときは	368
オーバーヒートしたときは ...	373
スタックしたときは	376

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

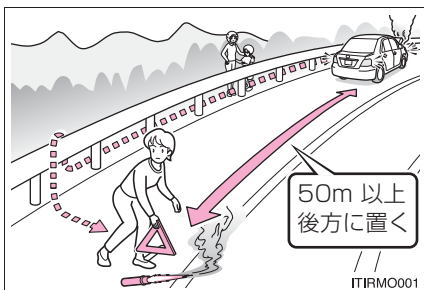
非常点滅灯（→ P. 329）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

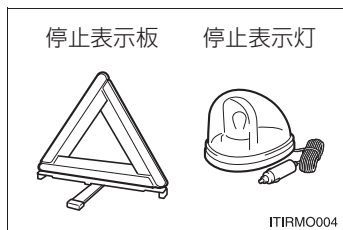
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 330）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



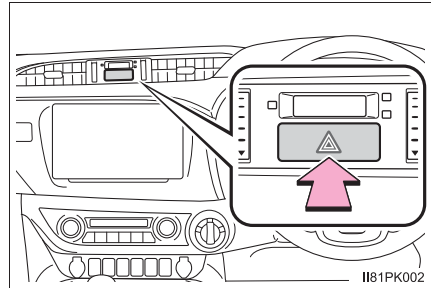
- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

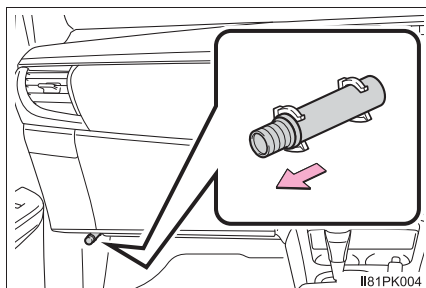
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

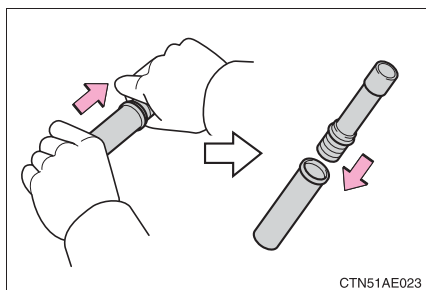
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

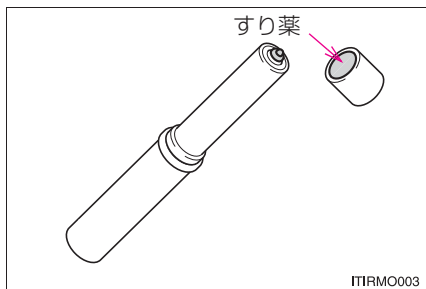
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
 必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向けて
 しないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でのお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

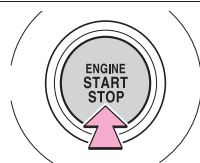
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押す、または
3 回以上連続で押す

11E7RV009

- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスとリヤウィンドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

[※] 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/ipn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

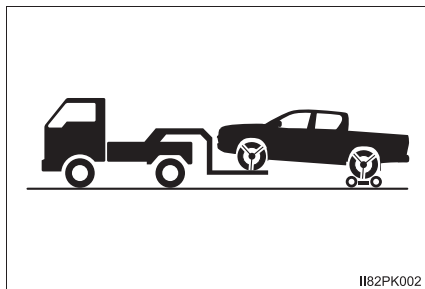
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

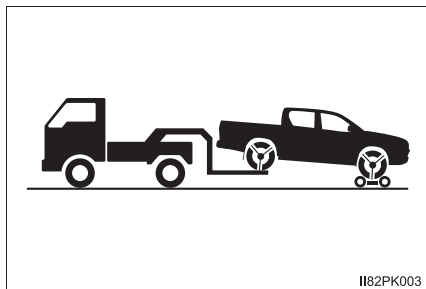
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するとき



台車を使用して後輪を持ち上げる

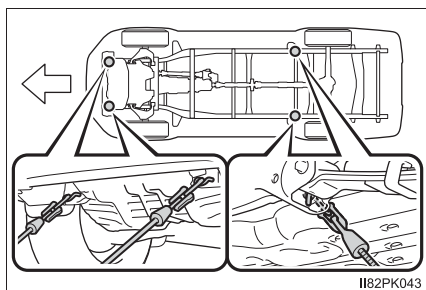
▶ うしろ向きにけん引するとき



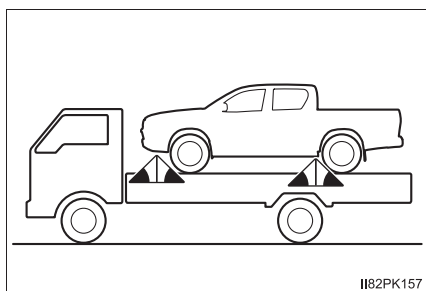
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



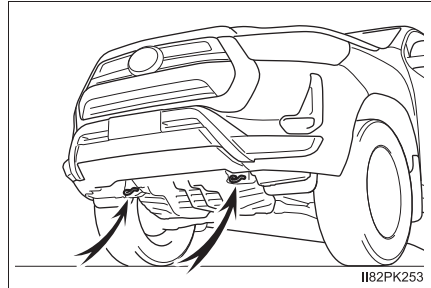
鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



他車にけん引してもらおうとき

- 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

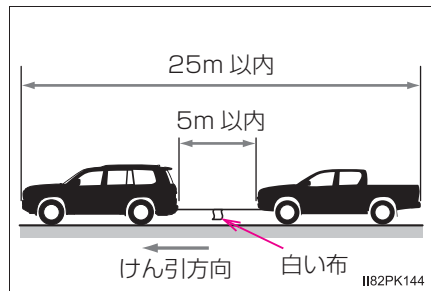
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



- 2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- 3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

けん引される前に、いったんエンジンスイッチを OFF にしたあと、エンジンをかけてください。

- 4 トランスファースイッチが H2 の位置にあることを確認する (→ P. 226)

- 5 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 154

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

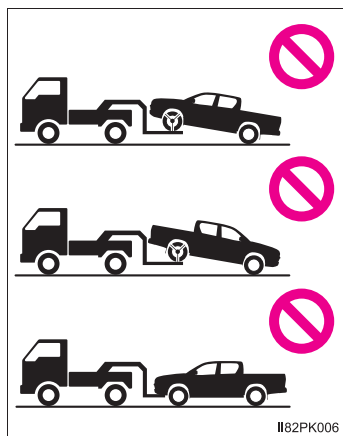
 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

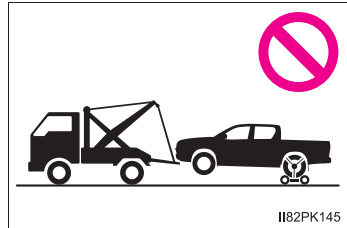


■他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

 **注意****■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、イグニッション ON モードにしてください。







警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 ・ バキュームタンクの負圧低下 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 (点滅または点灯)	エンジン警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 ・ ターボ装置の過給圧異常 ※¹ ・ 排出ガス浄化装置の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） パワーステアリングの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>スリップ表示灯 次のいずれかの機能の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC ・ TRC / A-TRC ・ AUTO LSD システム ・ ヒルスタートアシストコントロール ・ ダウンヒルアシストコントロールシステム <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ヒルスタートアシストコントロールを除く上記のシステムの作動時は点滅します。</p>
<p>4LO (速い点滅)</p>	<p>L4 作動表示灯 表示灯が早く点滅した場合： 4WD システムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>(速い点滅)</p>	<p>リヤデフロック作動表示灯 表示灯が早く点滅した場合： リヤディファレンシャルロックシステムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 <p>(点滅または点灯)</p>	<p>PCS 警告灯 警告ブザーが鳴った場合： ブリクラッシュセーフティの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告ブザーが鳴らない場合： ブリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 (→ P. 174, 344) ブリクラッシュセーフティがOFFのときも点灯します。</p>
 <p>(黄色点灯)</p>	<p>LDA 表示灯 (警告ブザー) LDA (レーンデパーチャーアラート) の異常</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 (→ P. 194)</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	運転席／助手席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※2 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
 (点滅または点灯)	リヤ席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※3 リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 12.0 L 以下になった → 燃料を補給する
 (点滅または点灯)	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 344
 (点滅)	Stop & Start キャンセル表示灯 Stop & Start システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 Stop & Start システム非作動時は点灯します。 (→ P. 237)
	パーキングブレーキ表示灯 (警告ブザー) ※4 パーキングブレーキの未解除 → パーキングブレーキを解除する
	AdBlue[®] 残量警告灯 AdBlue [®] の残量不足により再始動できなくなるおそれがある → AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
 (点滅)	AUTO LSD 表示灯 ブレーキシステムの過熱によりシステムが一時的に使用できない → P. 256

※1 警告灯が消灯するまで走行速度を落としてください。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

- ※³ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※⁴ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席またはリヤ席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席またはリヤ席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ターボ装置の過給圧異常によりエンジン警告灯が点灯したとき

警告灯が消灯した後も、高速走行したり、空ぶかしをしたりしないでください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

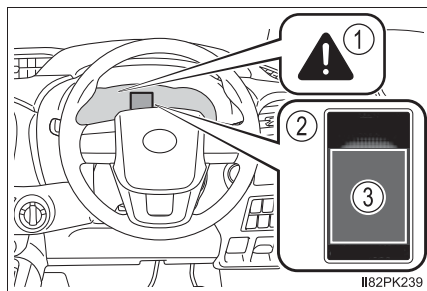
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法


マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点灯	—	あり	
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

● エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。画面の指示に従って操作し直してください。

● シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

● 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■  が表示されたとき

エンジンオイルの圧力が異常に低くなっています。(傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるかご確認ください。)

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 「アクセルとブレーキが両方踏まれています」が表示されたとき

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。(→ P. 134)

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ 「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたとき

ウォッシャー液が残りわずかになっています。

ウォッシャー液を補充してください。(→ P. 305)

■「デフ高油温 H2 へ切替えて冷却してください」または「デフ高油温 冷却してください」が表示されたとき

ディファレンシャルギヤオイルの温度が異常に高くなっています。

トランスファースイッチを H2 にして、車速を下げるか、安全な場所に停車してください。(→ P. 226)

■「エンジンオイル量不足 補充するか交換してください」が表示されたとき

エンジンオイル量が不足しています。(傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるかご確認ください。)

エンジンオイル量を点検し、補充または交換してください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を Off しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動しました。

次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。(→ P. 259)

■「DPF 再生中」が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が自動で行われています。(→ P. 258)

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→ P. 174, 340)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
- RSA (ロードサインアシスト)
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→ P. 174, 340)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

● 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

- ・ 「エンジン冷却水高温」 (→ P. 373)
- ・ 「AT オイル高温」 (→ P. 155)
- ・ 「AdBlue が低下 2400km 以内に補充必要」 (→ P. 302)
- ・ 「あと 800km で再始動不可 AdBlue 補充必要」 (→ P. 302)
- ・ 「エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要」 (→ P. 302)
- ・ 「前方カメラ 一時使用不可」 (→ P. 174)
- ・ 「DPF 再生不十分」 (→ P. 259)

● 「スマートエントリー&スタートシステム故障」のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● 「故障のためブレーキ力が低下」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

- ・ 「充電システム故障」
- ・ 「エンジン油圧不足」

● 「燃料フィルタに水がたまっています」のメッセージが表示されたときは、燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■「クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法 → P. 174)

■「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

■「販売店で点検」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 **警告****■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき**

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■ 「燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください」が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 306 を参照してください)

⚠ 警告

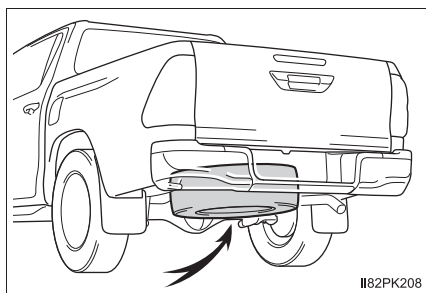
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

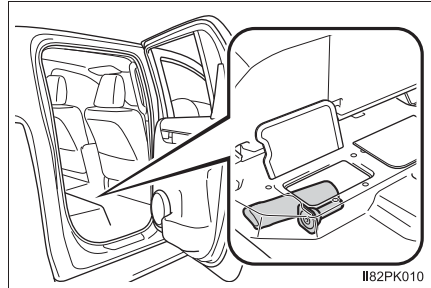
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 329)

スペアタイヤの位置



工具・ジャッキの位置

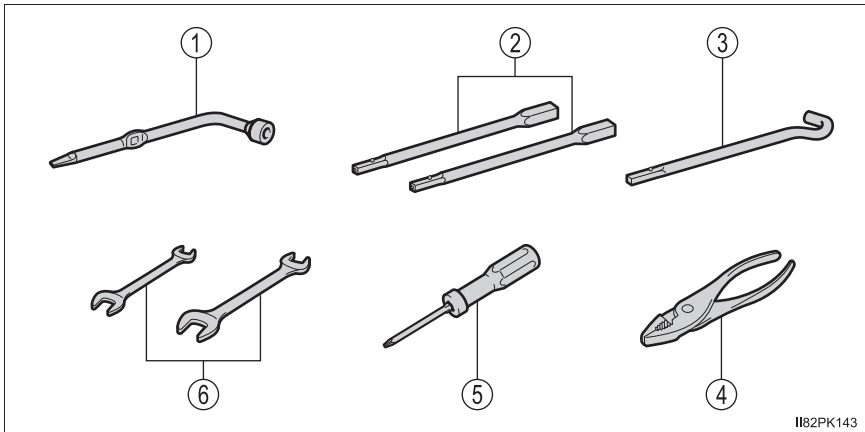
工具袋とジャッキはリヤシートクッションの下に搭載されています



II82PK010

工具

工具袋の中に収納されています。(工具袋の取り出し方：→ P. 353)



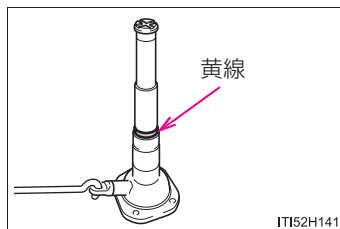
II82PK143

- | | |
|-----------------|---------|
| ① ホイールナットレンチ | ④ プライヤー |
| ② ジャッキハンドル延長用バー | ⑤ ドライバー |
| ③ ジャッキハンドルバー | ⑥ スパナ |

警告**■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキの各部が正常に動くことを確認してください
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 黄色い警告線が見えたら、それ以上にジャッキアップしない



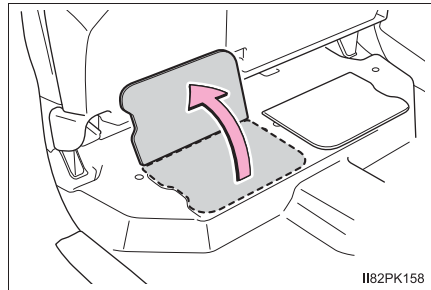
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ ジャッキハンドルを使用するときは

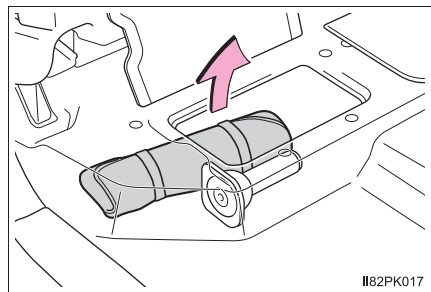
使用中、不意にはずれてしまわないように、“カチッ”という音ができるまで、ジャッキハンドルの連結部を確実に組み付けてください。(→ P. 354)

工具袋・ジャッキの取り出し方

- 1 リヤシートクッションを持ち上げる (→P. 117)
- 2 フタを開ける

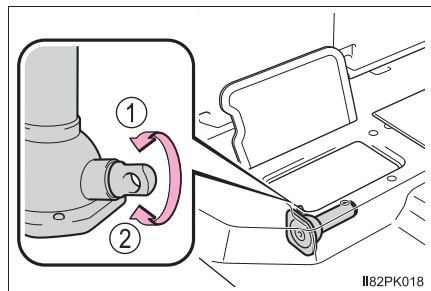


- 3 工具袋を取り出す



- 4 固定をゆるめてジャッキを取り出す

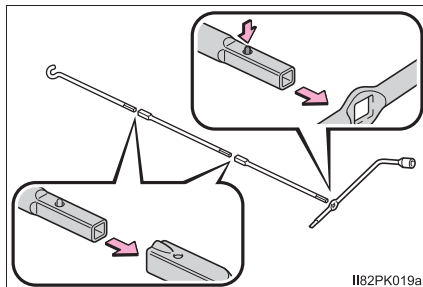
- ① ゆるむ
- ② 締まる



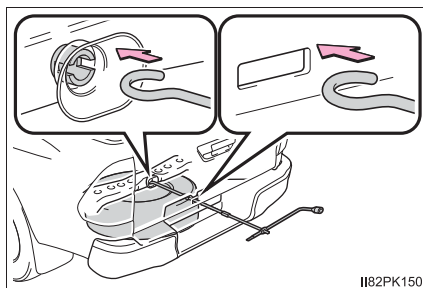
スペアタイヤの取り出し方

1 ジャッキハンドルを組み付ける

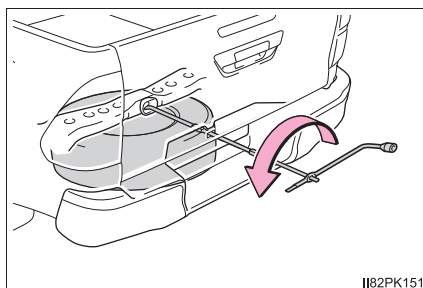
ホイールナットレンチ・ジャッキハンドル延長用バー・ジャッキハンドルバーを工具袋から取り出し、図のように組み付けます。



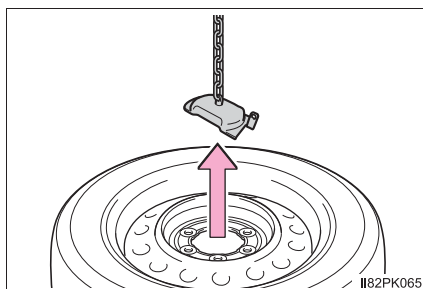
2 組み付けたジャッキハンドルを 図のように挿し込む



3 ジャッキハンドルをまわして、ス ペアタイヤが完全に地面に着く まで下げる

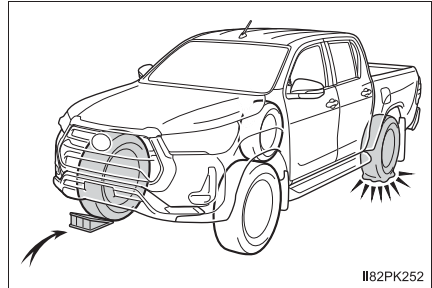


4 アンカープレートを取りはずし、 スペアタイヤを引き出す



パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

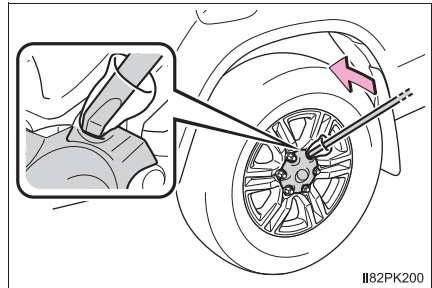


II82PK252

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

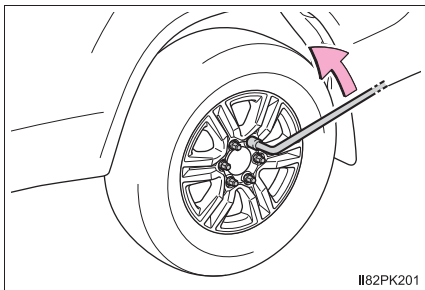
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 センターオーナメントをはずす
傷が付くのを防ぐため、図のように布
などを巻いて保護してください。



II82PK200

- 3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

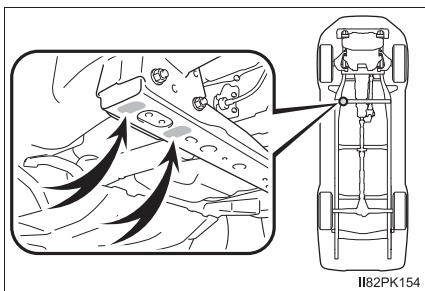


II82PK201

- 4 ジャッキハンドルを組み付ける（→ P. 354）
5 図に示すジャッキセット位置にジャッキをかける

▶ フロント側

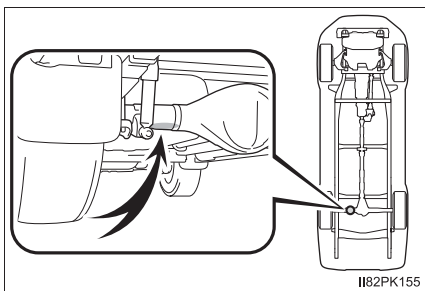
クロスメンバー下



II82PK154

▶ リヤ側

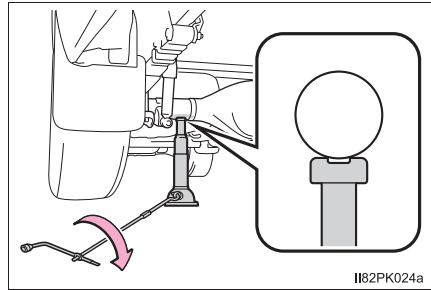
リヤアクスルハウジング下



II82PK155

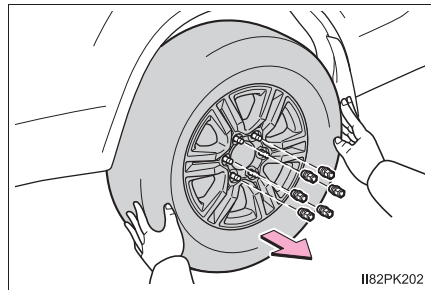
- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

リヤ側をジャッキアップするときは、ジャッキ頭部の溝が図のようにアクセルハウジングにあたっていることを確認してください。



- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にしてします。



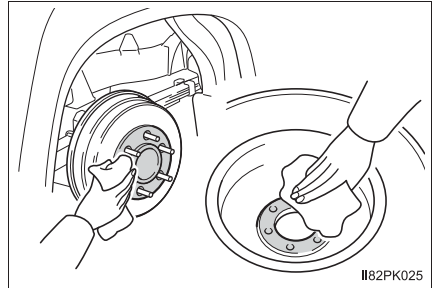
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、
タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：105N・m (1071kgf・cm)
 - ・ 走行中に脱落するおそれがあるため、著しく損傷したセンターオーナメントは取り付けない
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

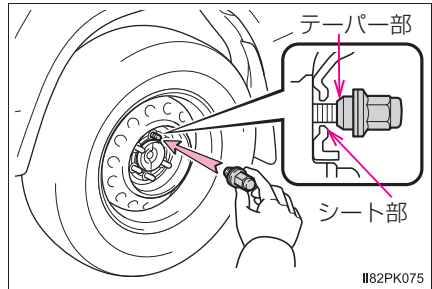


II82PK025

- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ スチールホイール

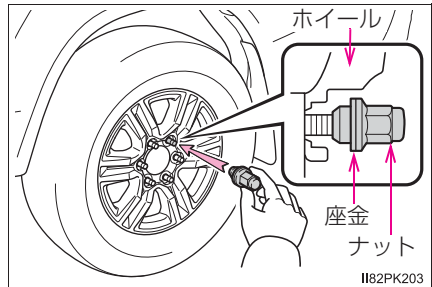
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



II82PK075

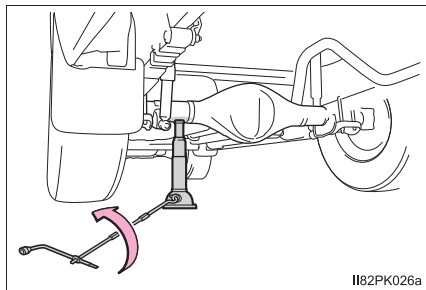
▶ アルミホイール

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



II82PK203

3 車体を下げる

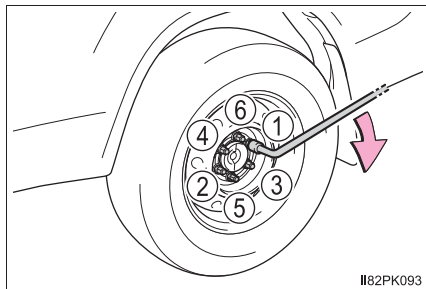


II82PK026a

4 ホイールナットレンチを使用し、 図の番号順でナットを 2、3 度 しっかり締め付ける

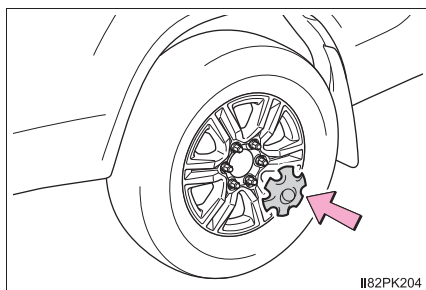
締め付けトルク：

105 N・m (1071 kgf・cm)



II82PK093

5 フロント・リヤに装着されている タイヤとスペアタイヤとでホイール の種類が同一のとき：セン ターオーナメントを取り付ける 交換したタイヤに図のように取り 付けます。



II82PK204

警告

■パンクしたタイヤを格納するときは

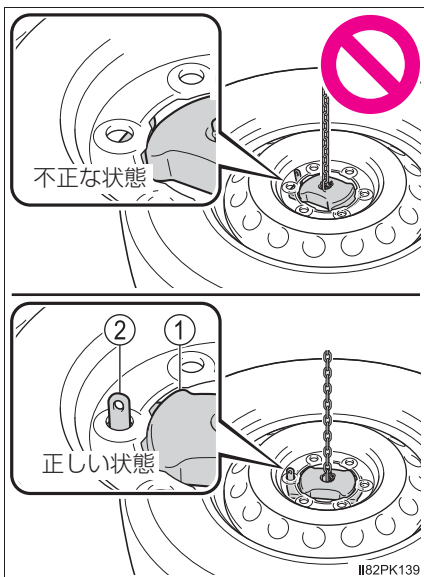
次の手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具袋の格納

- 1 意匠面を上にしてタイヤを地面に置き、ホイールの穴にツメがかかるように、アンカープレートを取り付ける。その後、チェーンのたるみがなくなるまで、ジャッキハンドルをまわす

ホイールの穴にツメが確実にかかり、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

- ① アンカープレート
- ② ツメ



- 2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

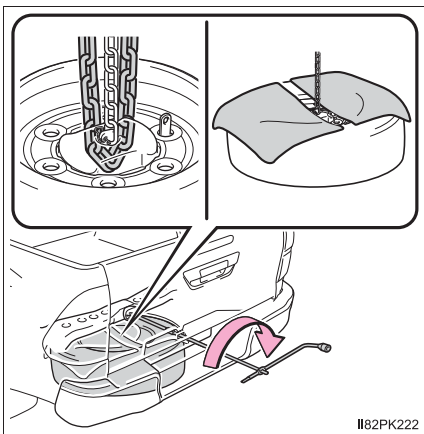
ホイールの意匠面に傷が付くのを防ぐため、ホイールとフレームの間に布などをあてて保護してください。

衝突時や急ブレーキ時などのタイヤの飛び出しを防ぐため、タイヤを巻き上げるときは、周囲の部品が巻き込まれないよう、まっすぐに上げてください。

途中まで上げたあと、チェーンがタイヤの穴に確実に格納されていることを確認してください。

締め付けトルク：

37.0 N・m (377.3 kgf・cm)



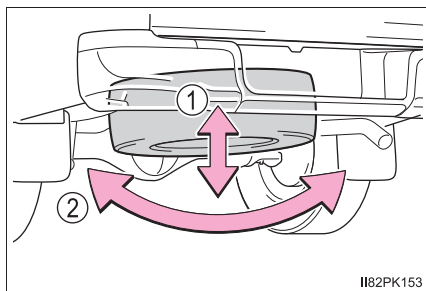
- 3 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する

① タイヤを上下にゆする

② タイヤを回転方向にゆする

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを目視で確認してください。

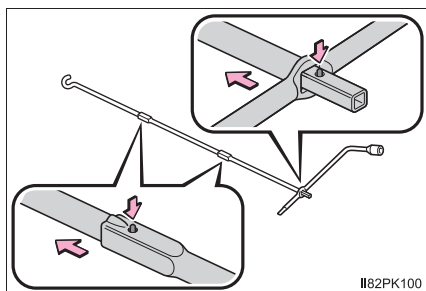
ゆるんだり、正しく固定できなかったりした場合は、手順②と手順③をくり返してください。



II82PK153

- 4 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順③をくり返す

- 5 連結部にある突起を押しながら引いて、ホイールナットレンチ・ジャッキハンドル延長用バー・ジャッキハンドルバーを分解します。



II82PK100

- 6 すべての工具・ジャッキを格納する

知識

■パンクしたタイヤについて

パンクしたタイヤはできるだけ早く修理または交換してください。

修理・交換したタイヤをスペアタイヤキャリアに格納するときは、傷付き防止用に使用した布などを取りはずしてください。

警告

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあります。

 **注意****■ スペアタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
(パンクしたタイヤを格納するときの傷付き防止用の布などを除く)
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■ ジャッキハンドルバーを組み付けるときは

“カチッ” という音がするまで、ジャッキハンドルバー・ジャッキハンドル延長用バーの連結部を確実に挿し込んでください。

確実に組み付けられていないと、使用時にはずれて塗装や車体などが損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 144）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 144）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 67）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 368）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性ががあります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 365）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 368)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで、エンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

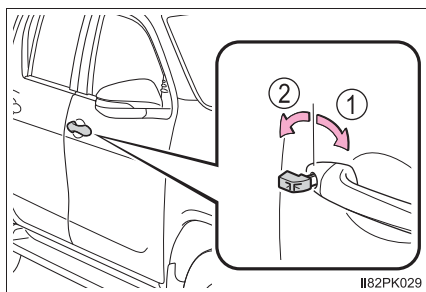
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 111）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 96, 97）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



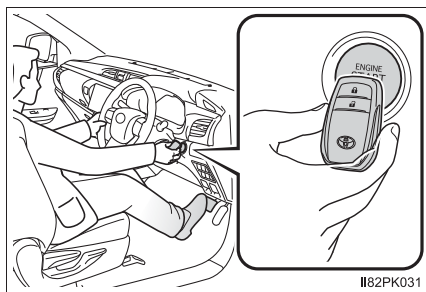
エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルをしっかりと踏む

- 2 図のように、電子キーのスイッチを表に向けた状態で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込む

マルチインフォメーションディスプレイにエンジンの始動についてのメッセージが表示されます。（→P. 144）

- 4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 315)

■ オートアラームについて

メカニカルキーでドアを施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーでドアを解錠して開けると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→ P. 68)

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順³で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 145)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 386)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 109)

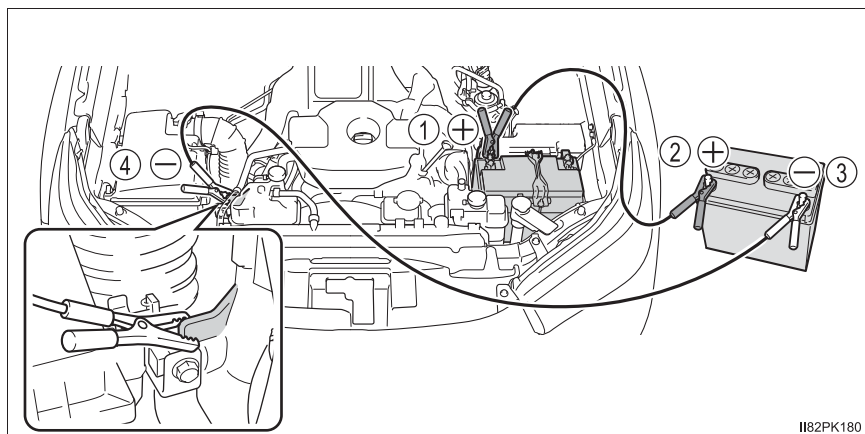
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 299)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す金属部につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所へ届くものを使用してください。



- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
- 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。(Stop & Start システムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーあがり時や取りはずし時は

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- パワーウインドウが正常に閉まらないときは、パワーウインドウの初期化を実施してください。(→ P. 127)
- パノラミックビューモニターの初期化が必要な場合は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- 最大 1 時間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーの交換について

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN4)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (80Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (630A) 以上のバッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。LN4 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ バッテリー端子をはずすときは**

必ず-端子を先にはずしてください。+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。ので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーの交換について

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 77）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

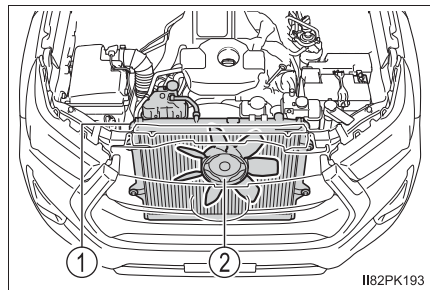
対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



 **警告****■ エンジンルームを点検するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない


スタックしたときは

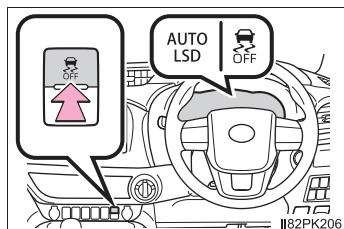
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 リヤデフロックをONにする（→P. 233）
- 6 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

 を押して TRC / A-TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。(→ P. 155)

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)380

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....386

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目392

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	80

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ 交換	オイルと オイルフィルター 交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 —ACEA C5, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	7.0	7.5

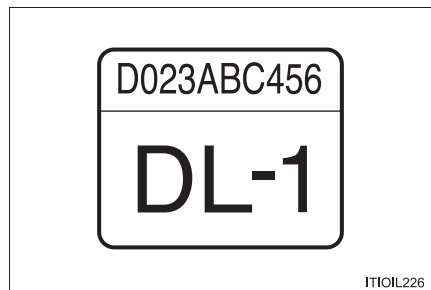
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。
 0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、
 優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。
 JASO DL-1 マーク

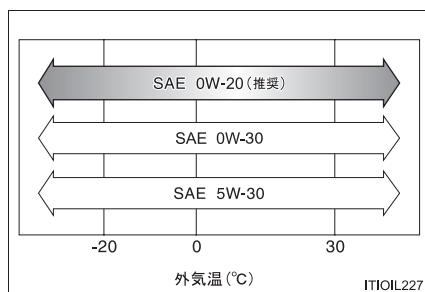


注意**■ エンジンオイルの交換について**

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと（ただし 12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	項目	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント	エンジン	9.9
凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	インタークーラー	2.95

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	9.5

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ オートマチックトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

指定銘柄 (推奨粘度)	項目	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	フロント	1.60
	リヤ	3.60

トランスファー

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.0

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 [※]	82

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ [※] 数	7 ~ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.5

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	積載状態	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
265/65R17 112S	17×7 1/2J	空荷	200 (2.0)	200 (2.0)
		積荷	230 (2.3)	250 (2.5)
265/60R18 110H	18×7 1/2J	空荷	210 (2.1)	200 (2.0)
		積荷	230 (2.3)	250 (2.5)

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
105 (1071)

電球 (バルブ) ※1

電球		W (ワット) 数
車外	リヤ方向指示灯／非常点滅灯 (アンバーバルブ) ※2	21
	番号灯	5
車内	インテリアランプ	8
	パーソナルランプ／インテリアランプ	5

※1 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GUN125	2GD-FTV (2.4L ディーゼル)	4WD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、メーカーオプションのナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。






カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 「MENU」スイッチを押す
- 2 「設定・編集」を選択する
- 3 「車両」を選択する
- 4 「クリアランスソナー設定」を選択する

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチで  を選択し、 を押してカスタマイズモード画面を表示する
- 2 メーター操作スイッチで変更する項目を選択し、 を押す
- 3 メーター操作スイッチで設定したい項目を選択し、 を押す
前の画面にもどす、または設定を終了する場合は、 を押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① ナビゲーションシステムで設定変更可能
- ② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 81)

機能の内容※ ¹		初期設定	変更後	①	②	③
言語		日本語	※ ²	—	○	—
単位		km/L	L/100km	—	○	—
エコドライブインジケータランプ		あり (自動点灯)	なし	—	○	—
 スイッチ設定		ドライブ インフォ 1	お好みの 項目※ ³	—	○	—
ドライブインフォ 1		瞬間燃費 (バー表示)	※ ⁴	—	○	—
		リセット間 平均燃費				
ドライブインフォ 2		航続可能 距離	※ ⁴	—	○	—
		リセット間 平均車速				
割り込み表示★		あり	なし	—	○	—
アクセントカラー		カラー 1	カラー 1～4	—	○	—
エコウォレット	比較燃費	10.0	※ ⁵	—	○	—
	燃料価格	150	※ ⁵	—	○	—
	通貨	 (単位なし)	 (円)	—	○	—

※¹ 機能についての詳しい説明は P. 81 を参照してください

※² 本車両では日本語以外の言語に変更できません

※³ 登録できない項目もあります

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※⁴ 初期設定以外の項目：瞬間燃費（バー表示）、瞬間燃費（数値表示）、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランク

※⁵ メーター操作スイッチで数値を変更できます

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 175）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能※	あり／なし	—	○	—
警報感度	早い／中間／遅い	—	○	—

※ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LDA（レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]）（→ P. 185）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
ヨーアシスト機能	あり／なし	—	○	—
警報感度	普通／高い	—	○	—
ふらつき警報	あり／なし	—	○	—
ふらつき検知感度	高い／普通／低い	—	○	—

■ RSA (ロードサインアシスト) (→ P. 195)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり/なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ/告知表示とブザー/なし	—	○	—
追い越し禁止告知 (はみ出し通行禁止告知)	告知表示のみ/告知表示とブザー/なし	—	○	—
その他の告知 (車両進入禁止告知)	告知表示のみ/告知表示とブザー/なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h / 5km/h / 10km/h	—	○	—

■ 先行車発進告知機能 (→ P. 213)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
先行車発進告知機能	あり/なし	—	○	—
告知距離	早い/普通/遅い	—	○	—

■ クリアランスソナー (→ P. 216)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
リヤセンターセンサーの検知距離	遠い	近い	○	—	○
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ~ 3	○	—	○

■ Stop & Start システム (→ P. 236)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
エアコンが ON の時のアイドリングストップ時間の切替	Normal	Long	—	○	—

■ ドアロック (→ P. 103)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車速感应オートロック	あり	なし	—	—	○*
運転席ドア連動オートアンロック	なし	あり	—	—	○*

* 手動でも設定を変更できます。(→ P. 103)

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 108)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	—	○
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	なし	—	—	○
		レベル 1~7			

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 158)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	—	—	○

 **警告****■ カスタマイズを行うとき**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ カスタマイズを行うとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パノラミックビュー モニター	<ul style="list-style-type: none">・ バッテリーを脱着したとき・ バッテリーの脱着中にハンド ル操作を行ったとき・ バッテリー能力が低下したと き	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	394
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	398
アルファベット順さくいん.....	400
五十音順さくいん.....	402

次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・ナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・パノラミックビューモニター
- ・ハンズフリー

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 97）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 99）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 315）
- エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→ P. 145）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 104,111）



リヤ席ドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 102）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 144）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 144）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 109）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 366）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 368）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーがPから動かない

- エンジンスイッチはONモードになっていますか？
エンジンスイッチがONモードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 154）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 126）



エンジンスイッチが自動的にOFFになった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源OFF機能が作動します。（→ P. 146）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 398）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージが表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 340、344 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 350）

**立ち往生した**

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 376）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 113
	シフトポジションがP以外になっている	P. 344
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 160
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 68
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 113
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 110
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 113

※ ドアを解錠、またはエンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 101
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 342
	運転席・助手席・リヤ席のシートベルトを着用していない※	P. 342
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 153
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 137
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 207
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 175
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート[ヨーアシスト機能付き]）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 185
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 197
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		

※ 助手席またはリヤ席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

4WD

(フォーホイールドライブ) 385

A/C

(エアコン) 268

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 246, 340

AdBlue[®]

(アドブルー) 301, 342

AI-SHIFT

(アーティフィカルインテリジェンスシフト) 155

DAC

(ダウンヒルアシストコントロールシステム) 252

DPF

(ディーゼルパティキュレートフィルタ) 257

EDR

(イベントデータレコーダー) 9

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 59, 62

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 185

LED

(ライトエミッティングダイオード) 325

LSD

(リミテッドスリップディファレンシャル) 255

PCS

(プリクラッシュセーフティ) 175

RSA

(ロードサインアシスト) 195

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 35, 340

TRC/A-TRC

(トラクションコントロール/
アクティブトラクションコントロール) 246

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 246

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリー あがりの処置).....	368
アームレスト	289
アウターミラー (ドアミラー).....	124
操作	124
格納のしかた	125
ミラーヒーター	270
アクセサリースocket	287
アクセサリモード	145
アクティブトラクション コントロール (A-TRC)	246
AdBlue®	301
AdBlue® 残量警告灯	342
補充	303
容量	303
アンチロックブレーキ システム (ABS).....	246
アンテナ スマートエントリー& スタートシステム.....	108
アラーム	68

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ).....	144
エンジンのかけ方.....	144
自動電源 OFF 機能.....	146
モードの切りかえ.....	145
位置交換 (タイヤローテーション).....	306
イベントデータレコーダー (EDR).....	9
イモビライザーシステム.....	67
イルミネーテッドエントリー システム.....	277
インジケーター (表示灯).....	74
インナーミラー	123

う

ウインカー (方向指示灯).....	156
電球 (バルブ) の 交換.....	323, 325
方向指示レバー.....	156
ワット数.....	385
ウインドウ.....	126
ウォッシャー	163
パワーウインドウ.....	126
フロントワイパー デアイサー.....	270
リヤウインドウ デフォッガー.....	270
ウインドウロックスイッチ.....	126
ウォーニングランプ (警告灯).....	73, 340

ウォッシャー	163
液の補充	305
スイッチ	163
タンク容量	384
冬の前の準備・点検	262
動けなくなったときは (スタック)	376
運転	132
雨の日の運転	133
運転を補助する装置	246
環境に配慮した運転	76
寒冷時の運転	262
正しい運転姿勢	28
手順	132
運転席シートベルト 非着用警告灯	342
運転を支援する装置	169
PCS (プリクラッシュ セーフティ)	175
LDA (レーンディパーチャー アラート [ヨーアシスト 機能付き])	185
RSA (ロードサインアシスト)	195
レーダークルーズ コントロール	200
先行車発進告知機能	213

え

エアコン	268
オートエアコン	268
曇り取り (フロントガラス)	270
パワーヒーター	271
フィルターの清掃	312
エアバッグ	35
SRS エアバッグ警告灯	340
お子さまのための注意	36
改造・廃棄	39
作動条件	40
正しい姿勢	28
配置	35
エコドライブインジケーター	76
エンジン	
エンジンイモビライザー システム	67
エンジン回転計 (タコメーター)	78
エンジンがかからない (エンジンが始動 できない)	364
エンジン警告灯	340
エンジンスイッチ	144
エンジンの始動方法	144
エンジンを停止する前に	134
オーバーヒート	373
緊急時の停止方法	332
ボンネット	299
エンジンイモビライザーシステム (盗難防止システム)	67

エンジンオイル.....	381
冬の前の準備・点検	262
メンテナンスデータ	381
容量	381
エンジンスイッチ.....	144
エンジンのかけ方	144
自動電源 OFF 機能.....	146
モードの切りかえ	145
エンジンフード（ボンネット）... ..	299
開け方.....	299

お

オイル（エンジンオイル）.....	381
オーディオ※	
オートエアコン.....	268
AUTO LSD.....	255
オートドアロック・	
アンロック機能.....	103
オートマチック	
ディスコネクティング	
ディファレンシャル	
(A.D.D.).....	226
オートマチックトランス	
ミッション.....	149
シフトレバーがシフト	
できない.....	154
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	
作動について	161
オーバーヒート.....	373
オープナー	
給油扉.....	167
ボンネット.....	299

お子さまを乗せるとき.....	45
ウインドウロックスイッチ ...	126
エアバッグ	35
お子さまの安全のために	45
キーの電池	316
子供専用シート.....	46
シートベルトの着用.....	32
チャイルドシートの	
取り付け	46
チャイルドプロテクター	102
発炎筒の取り扱いに関する	
警告	331
バッテリーに関する警告	371
パワーウィンドウに関する	
警告	128
オドメーター	
機能.....	78
表示の切りかえ・	
リセットボタン	79

か

カーペット	
洗浄.....	297
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示.....	78
外装の電球（バルブ）	
交換要領	322
ワット数	385
買い物フック	288
カスタマイズ機能	386
型式	385
カップホルダー	280
カメラ	
前方センサー	170
ガラスの曇り取り	
(リヤウインドウ	
デフォッガー)	270

冠水路走行	141
寒冷時の運転	262

き

キー	96
エンジンがかからない	
ときは	364
キーナンバープレート	96
キーの構成	96
キーレスエントリー	96
キーをなくした	97
電池が切れた	315, 366
ワイヤレスリモコン	96
キーレスエントリー	
スマートエントリー&	
スタートシステム	108
ワイヤレスドアロック	96
きしみやひっかき音が聞こえる	
(ブレーキパッドウェア	
インジケータ)	137
給油	166
給油のしかた	166
メンテナンスデータ	380
緊急時シートベルト固定機構	32
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	364
オーバーヒートした	373
キーの電池が切れた	315, 366
キーをなくした	97
警告灯がついた	340
警告メッセージが	
表示された	344
けん引	335
故障したときは	328
車中泊が必要なときは	334
車両を緊急停止する	332

水没・冠水した	333
スタックした	376
発炎筒	330
バッテリーがあがった	368
パンクした	350

く

空気圧 (タイヤ)	385
クーラー	
オートエアコン	268
区間距離計	
(トリップメーター)	78
機能	78
切りかえ・リセットボタン	79
曇り取り	
フロントガラス	270
リヤウインドウ	
デフォッガー	270
クラクション (ホーン)	121
クリアランスソナー	216
警告メッセージ	223
操作	216
クリアランスランプ (車幅灯)	158
スイッチ	158
電球 (バルブ) の	
交換	325
ワット数	385
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズ	
コントロール	200
グローブボックス	279

* : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

け

警告器 (ホーン).....	121
計器類 (メーター).....	77
警告灯.....	73, 340
照度調整.....	79
表示切りかえボタン.....	79
表示灯.....	74
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	81
メーター.....	77
警告灯.....	73, 340
AdBlue [®] 残量.....	342
ABS.....	340
SRS エアバッグ.....	340
LDA 表示灯.....	341
L4 作動表示灯.....	341
エンジン.....	340
AUTO LSD.....	342
シートベルト非着用.....	342
Stop & Start キャンセル 表示灯.....	342
スリップ表示灯.....	341
燃料残量.....	342
パーキングブレーキ.....	342
パワーステアリング.....	340
PCS.....	341
プリテンショナー.....	340
ブレーキ.....	340
マスターウォーニング.....	342
リヤデフロック作動 表示灯.....	341

警告ブザー

クリアランスソナー.....	219
シートベルト非着用.....	342
接近警報 (レーダークルーズ コントロール).....	207
先行車発進告知機能.....	213
パーキングブレーキ 未解除走行時.....	342
パワーステアリング.....	340
ブレーキ.....	340
リバース.....	154

化粧ミラー

(バニティミラー).....	285
けん引.....	335
けん引のしかた.....	335
フック.....	337, 351

こ

交換

キーの電池.....	315
タイヤ.....	350
電球 (バルブ).....	322
ヒューズ.....	318
工具 (ツール).....	351
航続可能距離.....	83
後退灯 (バックアップランプ) 電球 (バルブ) の 交換.....	325
ワット数.....	385
コートフック.....	289
小物入れ.....	282
コンソールボックス.....	279
コンライト (ランプ自動点灯・ 消灯システム).....	158

さ

サイド方向指示灯.....	156
電球（バルブ）の交換.....	325
方向指示レバー.....	156
ワット数.....	385
サイドミラー（ドアミラー）.....	124
操作.....	124
ミラーヒーター.....	270
サンバイザー.....	285

し

シート.....	115, 117
子供専用シート.....	46
正しい運転姿勢.....	28
調整.....	115
手入れ.....	296
ヘッドレスト.....	119
シートベルト.....	30
お子さまの着用.....	32
緊急時シートベルト	
固定機構.....	32
シートベルト非着用警告灯....	342
高さ調節.....	31
正しく着用するには.....	30
着け方・はずし方.....	30
手入れ.....	297
妊娠中の方の着用.....	33
シートベルト非着用警告灯.....	342
シートベルトプリテンショナー....	31
機能.....	31
プリテンショナー警告灯.....	340
室内灯（インテリアランプ）.....	275

始動のしかた.....	144
シフトポジション.....	149
シフトレバー.....	149
シフトロックシステム	
（解除ボタン）.....	154
操作.....	149
リバース警告ブザー.....	154
シフトレバーがシフト	
できないときは.....	154
シフトロックシステム.....	154
締め付けトルク	
（ホイール）.....	360, 385
ジャッキ	
車載ジャッキ.....	351
ジャッキハンドル.....	351
車中泊が必要なときは.....	334
車幅灯.....	158
電球（バルブ）の	
交換.....	325
ランプスイッチ.....	158
ワット数.....	385
車両型式.....	385
車両仕様（スペック）.....	380
車両データの記録.....	8
車両を緊急停止するには.....	332
瞬間燃費.....	83
仕様（車両仕様）.....	385
初期設定.....	392
助手席シートベルト	
非着用警告灯.....	342

す

水温計 78

スイッチ

イグニッション 144

ウインドウロック 126

ウォッシャー 163

LDA 190

エンジンスイッチ 144

クリアランスソナー 216

車間距離切りかえ (レーダー

クルーズコントロール) 200

Stop & Start キャンセル 237

ドアミラー 124

ドアロック 101

トランスファー 226

パーソナルランプ／

インテリアランプメイン 276

ハザードランプ 329

パワーウインドウ 126

パワーヒーター 271

非常点滅灯

(ハザードランプ) 329

VSC OFF 247

フォグランプ 162

フロントワイパー

デアイサー 270

方向指示レバー 156

ホーン (警音器) 121

メーター表示切りかえ 79

ランプ 158

リヤウインドウ

デフォグガー 270

リヤデフロック 233

レーダークルーズ

コントロール 200

ワイパー 163

スターター

エンジンの始動 144

スターターがまわらない 364

スタック 376

ステアリングホイール (ハンドル)

位置調整 121

Stop & Start システム 236

キャンセルスイッチ 237

警告灯 342

ストップランプ (制動灯)

電球 (バルブ) の

交換 325

ワット数 385

スノータイヤ (冬用タイヤ) 262

スピードメーター 78

スペアタイヤ 350

スペック (車両仕様) 380

スマートエントリー&

スタートシステム 108

アンテナの位置 108

エンジンの始動 144

カスタマイズ設定 386

緊急始動機能 365

警告ブザー 110

作動範囲 109

正常に働かないとき 366

節電機能 109

電波がおよぼす影響に

ついて 114

ドアの解錠・施錠 100

スモールランプ (車幅灯)	158
電球 (バルブ) の	
交換	325
ランプスイッチ	158
ワット数	385

せ

清掃	292, 296
外装	292
シートベルト	297
内装	296
ホイール	293
制動灯	
電球 (バルブ) の	
交換	325
ワット数	385
積算距離計 (オドメーター)	
機能	78
表示の切りかえ	
リセットボタン	79
セキュリティインジケーター	67
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	207
先行車発進告知機能	213
センサー	
LDA	185
クリアランスソナー	216
ライトセンサー	160
レーダーセンサー	170
洗車	292
前照灯 (ヘッドランプ)	158
電球 (バルブ) の	
交換	325
ライトセンサー	160
ランプ消し忘れ防止機能	160
ランプスイッチ	158

そ

速度計	
(スピードメーター)	78

た

ターンシグナルランプ	
(方向指示灯)	156
電球 (バルブ) の	
交換	323, 325
方向指示レバー	156
ワット数	385
タイヤ	306
空気圧	310, 385
交換	350
締め付けトルク	360, 385
チェーン	262
点検	306
パンクしたときは	350
冬用タイヤ	262
ホイールサイズ	385
ローテーション	
(位置交換)	306
タイヤが空まわりする	
(スタックした)	376
タイヤチェーン	262
ダウンヒルアシスト	
コントロールシステム	252
タコメーター	
(エンジン回転計)	78

ち

チェーン (タイヤチェーン)	262
チャイルドシート	46
ISOFIX ロアアンカレッジで	
固定	62
お子さまを乗せるときは	45
規格	51
固定方法の種類	59
シートベルトで固定	60
知っておいていただきたい	
こと	46
テザーベルト	64
トップテザーアンカレッジに	
固定	64
チャイルドプロテクター	102
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	157
操作	157
未解除走行時警告	
ブザー	342
メンテナンスデータ	384

つ

ツール (工具)	351
----------------	-----

て

テールゲート	105
ディファレンシャル	383
手入れ	292, 296
外装	292
シートベルト	297
ホイール	293

テールランプ (尾灯)	158
電球 (バルブ) の	
交換	325
ランプスイッチ	158
ワット数	385
デッキフック (荷物固定用	
フック)	284
デフォッガー (リヤウインドウ	
デフォッガー)	270
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	322
ワット数	385
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	380
電子キー	96
作動範囲	109
正常に働かないとき	366
節電モード	109
電池が切れた	366
電池交換	315
電池交換 (キー)	315

と

ドア	100
オートドアロック・	
アンロック機能	103
スマートエントリー&	
スタートシステム	108
チャイルドプロテクター	102
ドアガラス	126
ドアロックスイッチ	101
ロックレバー	101
ワイヤレスリモコン	96

ドアミラー	
格納のしかた	125
操作	124
ミラーヒーター	270
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	67
時計	286
ドライブスタート	
コントロール	
急発進の抑制制御	133
ドライブモードセレクト	
スイッチ	150
トラクションコントロール	
(TRC).....	246
トランスファースイッチ	226
トランスミッション	
オートマチック	
トランスミッション.....	149
メンテナンスデータ	383
トリップメーター	
機能	78
切りかえ・リセットボタン	79

な

内装

収納装備	278
手入れ.....	296
ナビゲーションシステム ※	

に

荷物

積むときの注意.....	142
荷物固定用フック.....	284

ぬ

ぬかるみにはまった

(スタック).....	376
-------------	-----

ね

燃費画面.....	91
燃料	380
給油.....	166
種類.....	380
燃料残量警告灯.....	342
容量.....	380
燃料計.....	78

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

は

パーキングブレーキ.....	157
操作.....	157
冬季の注意.....	263
ブレーキ警告灯.....	342
未解除走行時	
警告ブザー.....	342
メンテナンスデータ.....	384
パーソナルランプ.....	276
排気ガス.....	44
排出ガス浄化装置 (DPF).....	257
ハイビーム (ヘッドランプ).....	158
電球 (バルブ) の	
交換.....	325
ランプスイッチ.....	158
ワット数.....	385
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換.....	325
ハザードランプ (非常点滅灯) ...	329
スイッチ.....	329
電球 (バルブ) の	
交換.....	323, 325
ワット数.....	385

挟み込み防止機能

パワーウインドウ.....	127
発炎筒.....	330
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の	
交換.....	325
ワット数.....	385
バッテリー	
交換するとき.....	370
バッテリーがあがった.....	368
パドルシフトスイッチ.....	151
パニティ (化粧用) ミラー.....	285
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ).....	322
ワット数.....	385
パワーウインドウ.....	126
ウインドウロックスイッチ ...	126
初期化.....	127
操作.....	126
挟み込み防止機能.....	127
パワーステアリング	
パワーステアリング	
フルード.....	384
警告灯.....	340
パンクした.....	350
番号灯 (ライセンスプレート	
ランプ).....	158
電球 (バルブ) の交換.....	324
ランプスイッチ.....	158
ワット数.....	385
ハンドル	
(ステアリングホイール).....	121
位置調整.....	121

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	246
ヒーター	
オートエアコン	268
パワーヒーター	271
ミラーヒーター	270
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	329
スイッチ	329
電球 (バルブ) の	
交換	323, 325
ワット数	385
尾灯 (テールランプ)	158
電球 (バルブ) の	
交換	325
ランプスイッチ	158
ワット数	385
ヒューズ	318
表示灯	74
ヒルスタートアシスト	
コントロール	246

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	368
フォグランプ	162
スイッチ	162
電球 (バルブ) の	
交換	325
ワット数	385

ブザー

シートベルト非着用警告	342
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	207
パーキングブレーキ	
未解除走行時警告	342
半ドア警告	100
ブレーキ警告	340
リバース警告	154

フック

買い物フック	288
コートフック	289
荷物固定用フック	284
フロアマット固定フック	26

フューエルメーター (燃料計)	78
フューエルリッド (給油口)	166
給油のしかた	166
冬の前の準備 (寒冷時の運転) ...	262
冬用タイヤ	262

プリクラッシュセーフティ

(PCS)	175
機能	175
PCS (プリクラッシュ	
セーフティ)	
警告灯	341

ブレーキ

パーキングブレーキ	157
ブレーキ警告灯	340
メンテナンスデータ	384
ブレーキアシスト	246
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	137
ブレーキフルード	384

フロアマット	26
フロントシート.....	115
正しい運転姿勢	28
調整	115
手入れ.....	296
ヘッドレスト	119
フロントフォグランプ.....	162
スイッチ	162
電球（バルブ）の交換.....	325
ワット数.....	385
フロント方向指示灯.....	156
電球（バルブ）の 交換.....	325
方向指示レバー	156
ワット数.....	385
フロントワイパー デアイサー.....	270

へ

平均燃費	83
ヘッドランプ	158
電球（バルブ）の 交換.....	325
ライトセンサー	160
ランプ消し忘れ防止機能.....	160
ランプスイッチ	158
ヘッドランプオートレベリング システム	161
ヘッドレスト	119

ほ

ホイール 交換（タイヤ）.....	350
メンテナンスデータ	385
ホイールナットレンチ.....	351
方向指示灯.....	156
電球（バルブ）の 交換.....	323, 325
方向指示レバー.....	156
ワット数	385
ホーン（警音器）.....	121
保証	10
ボトルホルダー	281
ボンネット.....	299

ま

マスターウォーニング.....	342
マルチインフォメーション ディスプレイ	81
LDA（レーンディパーチャー アラート [ヨーアシスト機能 付き])	190
警告メッセージ.....	344
ドライブインフォメーション	83
PCS（プリクラッシュ セーフティ）.....	175
レーダークルーズ コントロール.....	200

み

ミラー	
インナーミラー	123
ドアミラー	124
バニティミラー	285
ミラーヒーター	270

め

メーター (計器類)	
警告灯	73, 340
照度調整	79
表示切りかえボタン	79
表示灯	74
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	81
メーター	77
メーター照度調整スイッチ	79
メカニカルキー	96, 97
メンテナンスデータ	380

ゆ

USB 端子*	
ユーザーカスタマイズ機能	386
雪道ですべて動けない	
(スタックした)	376
油脂類	380

よ

4WD システム	226
----------------	-----

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
電球 (バルブ) の交換	324
ランプスイッチ	158
ワット数	385
ラジエーター	
オーバーヒート	373
メンテナンスデータ	383
ランプ	
インテリアランプ	276
室内灯	275
電球 (バルブ) の交換	322
パーソナルランプ	276
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	329
フロントフォグランプ	162
ヘッドランプ (前照灯)	158
方向指示灯 (ターンシグナル	
ランプ/ウインカー)	156
ライトセンサー	160
ランプ消し忘れ防止機能	160
リヤフォグランプ	162
ワット数	385
ランプ消し忘れ防止機能	160

* : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

り

リヤアームレスト.....	289
リヤウインドウデフォッガー スイッチ	270
リヤシート	117
リヤステップバンパー	106
リヤデフロック.....	233
リヤフォグランプ.....	162
スイッチ.....	162
電球（バルブ）の 交換.....	325
ワット数.....	385
リヤ方向指示灯.....	156
電球（バルブ）の 交換.....	323
方向指示レバー	156
ワット数.....	385

る

ルームミラー （インナーミラー）.....	123
ルームランプ （インテリアランプ）.....	275

れ

レーダークルーズ コントロール	200
警告メッセージ.....	210
接近警報	207
レーダーセンサー	170
レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き] (LDA)	185
警告メッセージ.....	194
操作.....	190
冷却水.....	383
水温計	78
冬の前の準備	262
メンテナンスデータ	383
冷却装置（ラジエーター）.....	383
オーバーヒート.....	373
メンテナンスデータ	383
レバー シフト	149
方向指示	156
ボンネット解除.....	299
ロック（ドア）.....	101

ろ

ロードサインアシスト（RSA）... 195	195
ロック ウインドウロック	126
シフトロック	154
スマートエントリー& スタートシステム	108
チャイルドプロテクター	102
ドア	100
ワイヤレスリモコン	96

わ

ワイパー & ウォッシャー	163
ウォッシャー液の補充	305
フロントワイパー	
デアイサー	270
ワイヤレスリモコン	96
作動の合図	100
操作	96
電池の交換	315
半ドア警告ブザー	100
ワックス	292
ワット数	385

ガソリンスタンドでの情報

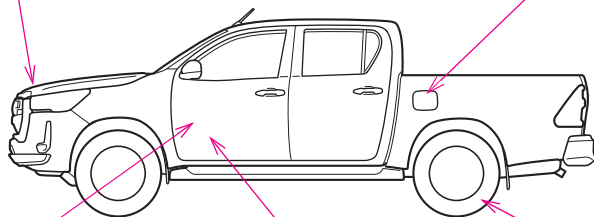
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 299

給油口

P. 167



ボンネット解除レバー

P. 299

給油扉オープナー

P. 167

タイヤ空気圧

P. 385

燃料の容量 (参考値)

80L

燃料の種類

超低硫黄軽油 (S10ppm 以下)

P. 166, 380

タイヤが冷えている
ときの空気圧
kPa (kg/cm²)

タイヤサイズ	積載状態	前輪	後輪
265/65R17 112S	空荷	200 (2.0)	200 (2.0)
	積荷	230 (2.3)	250 (2.5)
265/60R18 110H	空荷	210 (2.1)	200 (2.0)
	積荷	230 (2.3)	250 (2.5)

エンジンオイル容量
(参考値)

オイルのみ交換時 :

7.0L

オイルとオイルフィルター交換時 :

7.5L

エンジンオイルの種類

推奨 :
トヨタ純正モーターオイル
C5 0W-20 (ACEA C5, SAE 0W-20)
適合 :
トヨタ純正モーターオイル
DL-1 0W-30 (JASO DL-1, SAE 0W-30)
トヨタ純正モーターオイル
DL-1 5W-30 (JASO DL-1, SAE 5W-30)

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索

リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/にて掲載しております。



- ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

